

令和 7 年度秩父市転出者調査
集計結果等報告書

目次

1. はじめに.....	3
(1) 転出者調査の目的.....	3
(2) 令和7年度転出者調査の概要.....	3
2. 住民基本台帳からみる転出先.....	5
3. アンケート調査の結果.....	7
(1) 年代と出身地.....	7
(2) 転出先都道府県・市町村.....	10
(3) 転出理由・転出先の選択理由.....	11
(4) 最終学歴.....	16
(5) 秩父市への帰還意向.....	17
(6) 帰還意向に関わる自由記述.....	21
(7) 仕事.....	24
(8) 初めての就職時の選択行動.....	41
(9) 初職選択時に秩父で働くことを検討したかに関する自由記述.....	43
(10) 自由意見の集約（仕事を選ぶ際に重視する項目、秩父で働くイメージ）.....	44
(11) 日頃の情報収集方法と転出後の秩父との接点.....	45
(12) 結婚.....	49
(13) 結婚の希望を叶える上で障壁になるものに関する自由記述.....	55
(14) 子ども希望.....	57
(15) 結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについての考え方.....	60
4. インタビュー調査の結果.....	65
5. おわりに.....	66
資料 令和7年度秩父市転出者調査 設問一覧.....	69

1. はじめに

(1) 転出者調査の目的

本市の人口減少においては、転出超過（特に女性の転出超過）による社会減、および出生数の減少に伴う自然減の拡大が大きな要因である。若年層の転出超過については、秩父地域1市4町（秩父市、横瀬町、皆野町、小鹿野町、長瀬町）に大学がないことを踏まえた進学に伴うもの、および雇用の課題によるものではないかと推察されていたが、具体的な統計情報はない状態であった。市移住相談センターが市民課に依頼する形で、令和5年度に窓口配布形式の転出者アンケートを実施したが、回答率は転出者数全体の2.5%と低い。そのため、転出者の現状把握を目的としてより大規模な転出者調査を行う必要があった。

そこで、令和6年度に設問の妥当性の検証、およびアンケート回収方法等の検討を目的としてプレ調査を実施した。転出の要因として雇用の中でも福利厚生・給与面といった課題が浮かび上がったことから、令和7年度は雇用に関する設問を中心に調査をした。また、市雇用対策協議会の取組み等を考慮し、SNSでの情報収集方法等も設問に盛り込んだ。

なお、本調査においては令和6年度から継続し、長野大学環境ツーリズム学部講師・奥田純子先生に協力を仰ぎ、設問・選択肢の設問検討へのご協力、インタビュー調査の実施、調査結果の集計及び集計にあたっての変数設定、基礎統計の作成、ならびにグラフ・考察作成時にあたっては母数が適当であるか等、調査結果を有効に活用するためのご助言、監修をいただいた。ここに厚く御礼申し上げる。

(2) 令和7年度転出者調査の概要

① アンケート調査

・ 調査期間

令和7年11月4日（火）から11月30日（日）まで

・ 調査対象者

令和2年4月1日から令和7年8月31日までに転出された方のうち転出当時18～39歳までの男女
※対象者の抽出には住民基本台帳を利用した

・ 調査方法

WebアンケートのQRコードを記載したはがきを郵送

・ 発送数および有効到達数

	全体	2025年	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年
発送数	4,198	293	799	844	794	743	725
戻り数	1,084	11	32	141	243	289	368
有効到達数	3,114	282	767	703	551	454	357
年度ごと戻り率	25.8%	3.7%	4.0%	16.7%	30.6%	38.9%	50.7%
年度ごと有効到達率	74.1%	96.2%	95.9%	83.2%	69.4%	61.1%	49.2%

・回答数（回答率）

563 件（18%）

なお、当市の発送数の設定においては過去 10 年の転出者データを抽出後、以下に示す他自治体における転出者調査を参考とし、有効到達件数 70%、回答率 15%～20%を目標として過去 5 年の転出者に絞り発送を行った。今回の有効到達件数割合は 74%、回答率は 18%であり、目標回答率には到達している。

参考：他市類似調査規模・回答率

自治体名	人口規模	調査期間	対象者	規模	発送方法
神戸市	152 万 5 千人	令和 5 年 8 月 31 日～ 9 月 30 日（31 日間）	令和 4 年 5 月～令和 5 年 4 月の間に 転出した 20～39 歳	発送数 5,000 件 回答数 874 人（17%）	はがき・Web 回答
さいたま市	135 万 4 千人	令和 6 年 8 月 2 日（金） ～22 日（20 日間）	令和 5 年 1 月 1 日～令和 5 年 12 月 31 日の間に転出した 20 歳～49 歳 （令和 6 年 5 月 24 日時点）	発送数 4,000 件 有効到達数 3,811 件（95%） 回答 855 件（22%）	圧着はがき・Web 回答
鶴ヶ島市	7 万人	令和 5 年 8 月 10 日～ 31 日（21 日間）	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日の間に転出した 18 歳以上	発送数 1150 件 回答 329 件（28%）	封書・郵送回答 （アンケート用紙 返信用封筒同封）
小川町	2 万 7 千人	令和 6 年 9 月 2 日～ 25 日（23 日間）	令和 3 年 4 月～令和 6 年 9 月の間に 転出した方を無作為抽出	発送数 300 名 回答 79 件（26%）	封書・郵送回答 （アンケート用紙 返信用封筒同封）
和光市	8 万 4 千人	令和 6 年 11 月 18 日～ 12 月 31 日 （43 日間）	令和 5 年 3 月 1 日～3 月 31 日の間 に転出、転出時点で 20～49 歳の方	発送数 180 名 回答 50 件（27%）	封書・Web 回答 （アンケートのお 願いを送付）
宇治市	17 万 3 千人	令和 6 年 6 月 19 日～ 7 月 5 日（16 日間）	令和 2 年度～令和 5 年度の間に転出 した 18 歳以上の方	発送数 1,500 件 回答 372 件（24%）	封書・郵送回答 （アンケート用紙 と返信用封筒を同 封）

・設問構成

巻末の資料を参照

②インタビュー調査

令和 6 年度転出者調査より、若年層の U ターン移動について研究を行っている長野大学講師の奥田純子先生に設問設計・基礎統計の作成・考察作成においてご協力をいただいている。令和 6 年度転出者調査にて、アンケート結果では拾いきれない転出の背景を掘り下げるためにインタビュー調査を行っており、令和 7 年度でも同様に奥田先生によるインタビュー調査を行った。調査の概要は以下の通りである。

・調査期間

令和 8 年 2 月 15 日（日）から 2 月 25 日（水）まで

・調査対象者

前項のアンケート調査で、インタビュー調査への参加の可否を尋ねた。参加可能な人の中から、秩父市が抱える雇用の課題に関連があると推察される方を抽出して対象者を選定し、合計4名にインタビューを実施した。

・インタビューの方法

Google meet を活用したオンラインで実施した。インタビュー対象者の心理的安全性を確保するため、インタビュー調査については長野大学の奥田先生のみをインタビュアーとして、市役所からは接続できない環境で実施し、匿名化した結果のみを市役所に共有いただいた。なお、インタビューにあたっては、個人情報の保護やデータ利用に関する確認事項について、対象者に同意をいただいた上で実施している。

2. 住民基本台帳からみる転出先

アンケート調査の結果を示す前に、住民基本台帳から抽出した過去10年の転出者（転出当時18～39歳の男女）がどの都道府県・市町村に移動したのかを確認する。

・転出者全体の転出先（都道府県）

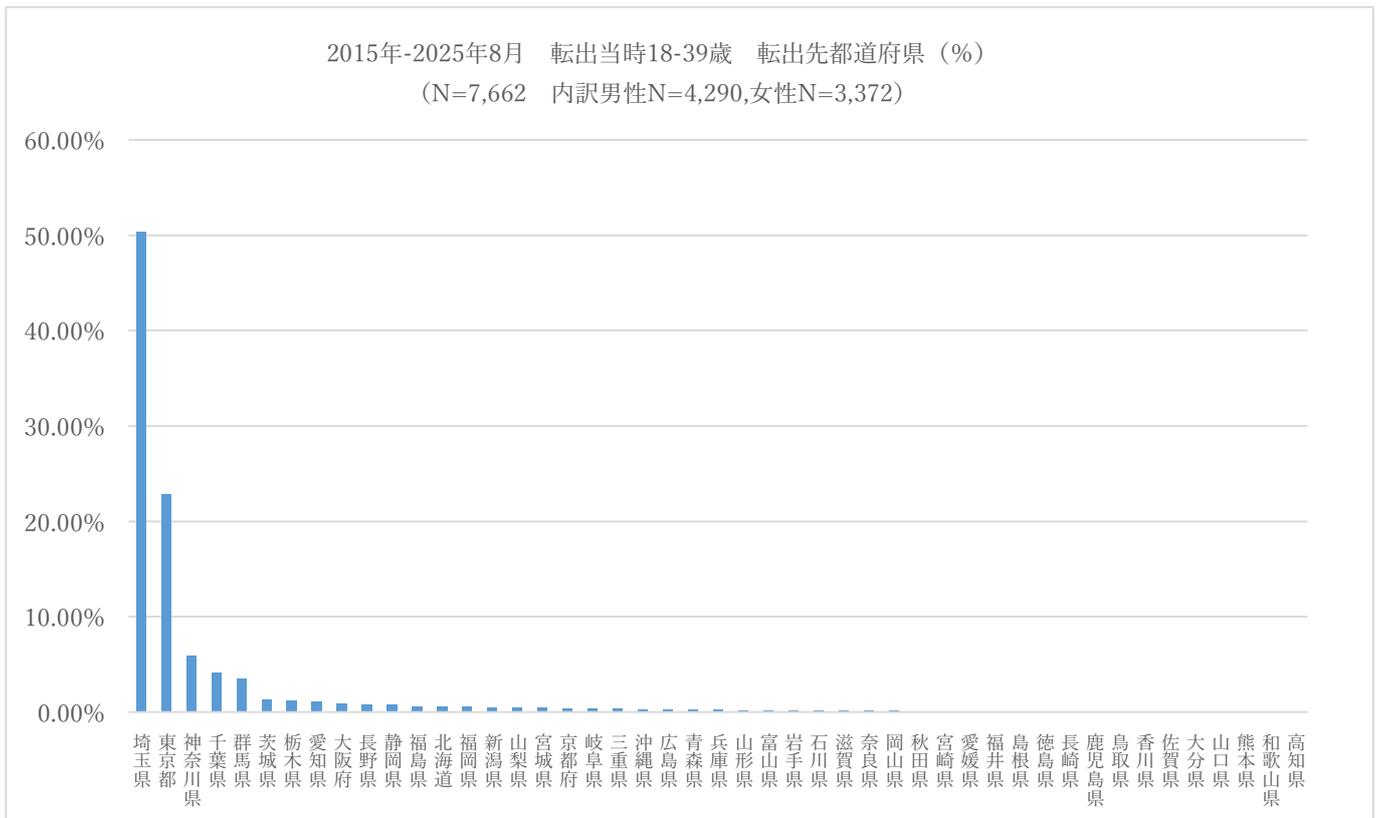


図1 転出者全体の転出先 都道府県（住民基本台帳）

図1は、令和7年度転出者調査にあたり抽出した過去10年間における転出者全体の転出先として、各都道

府県が占める割合について、割合が高いほうから10番目までの都道府県のみを抽出してグラフにしたものである。これによると、埼玉県内での移動が約50%であり、次いで東京都への転出は約23%となっている。

・転出者全体の転出先（埼玉県内）

では、埼玉県内のどの市町村に転出しているのだろうか。図2は、埼玉県内転出者の転出先として、各市町村が占める割合について、割合が高いほうから10番目までの市町村のみを抽出して、男女別、年代別にグラフにしたものである。進学や就職による転出層と見込まれる10代+20代について見ると、男性はさいたま市に、女性は所沢市に転出する割合が高いことがわかる。

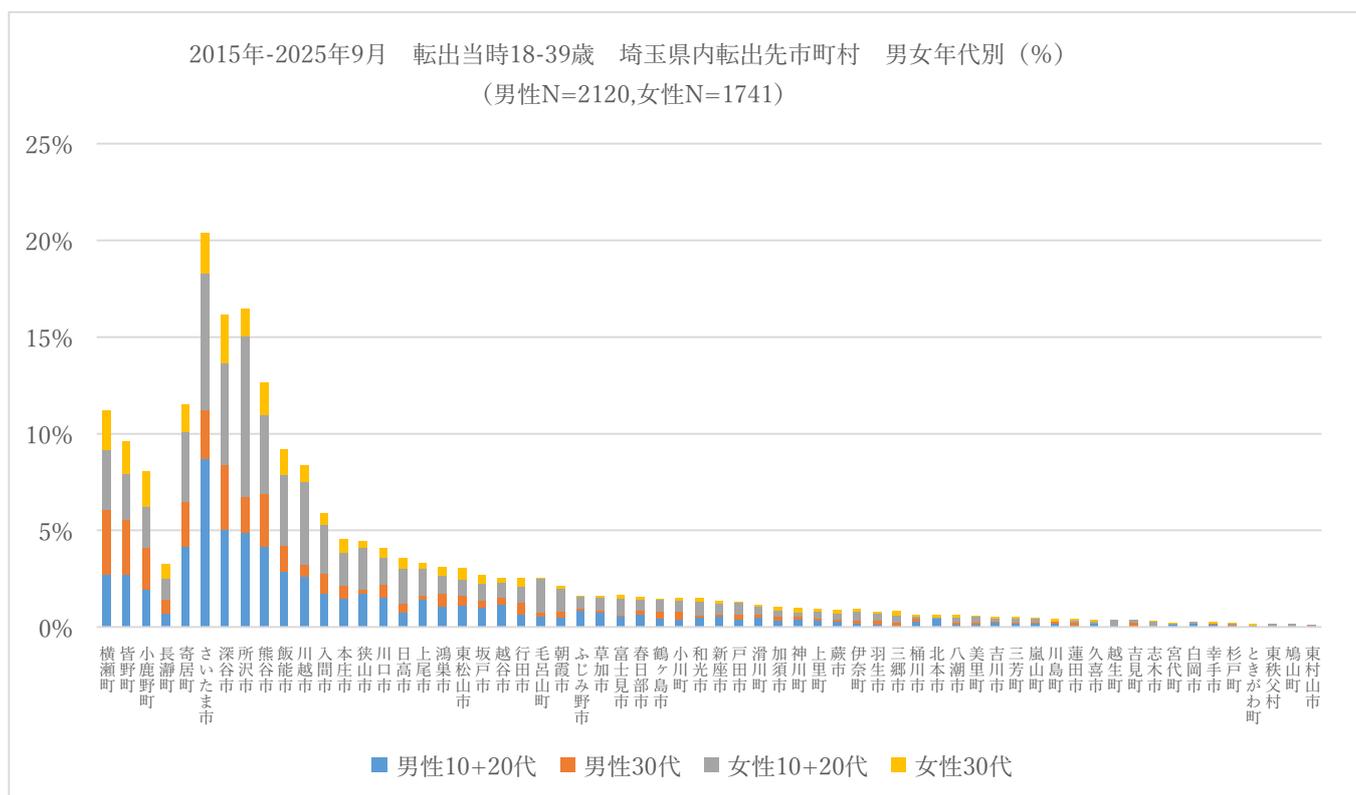


図2 埼玉県内転出先市町村（住民基本台帳）

・転出者全体の転出先（東京都）

図3は東京都内に転出した人の転出先市区町村割合をグラフにしたものである。練馬区が突出して多く(12.6%)、板橋区(7.1%)、豊島区(6.2%)がそれに続く。

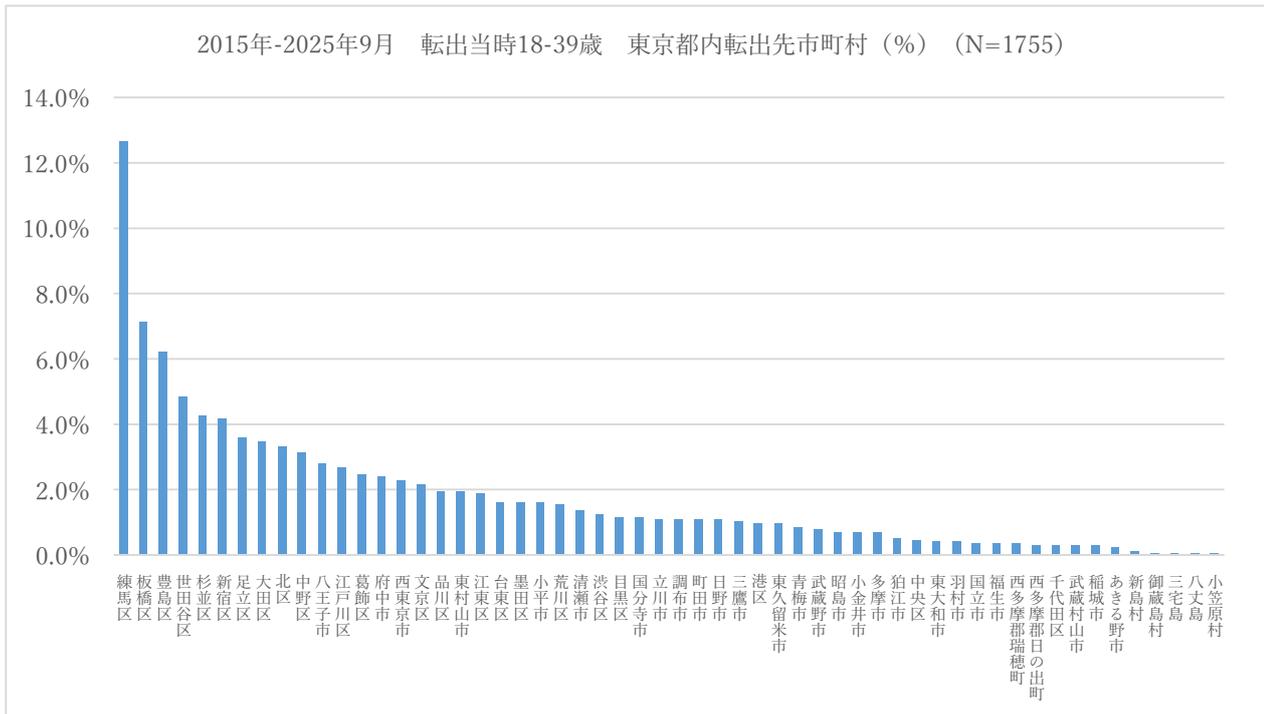


図3 東京都内転出先市区町村 (住民基本台帳)

3. アンケート調査の結果

(1) 年代と出身地

本節では、令和7年度に実施したアンケート調査の結果を示す。回答者数は全体で563名（男性252名、女性311名）であり、以下の表1に示した通り、20代と30代を中心に回答が集まった。図4は、今回の転出者調査の回答者を男女別・年代別にグラフにしたものである。今回の調査においては男性、女性の10代の回答数が少ないことから、これ以降年代別の分析では10代と20代は合わせて集計した。

表1 男女別・年代別にみた回答者数

回答者数概要	合計	10代	20代	30代	40代
男性	252	3	142	89	18
女性	311	6	188	107	10

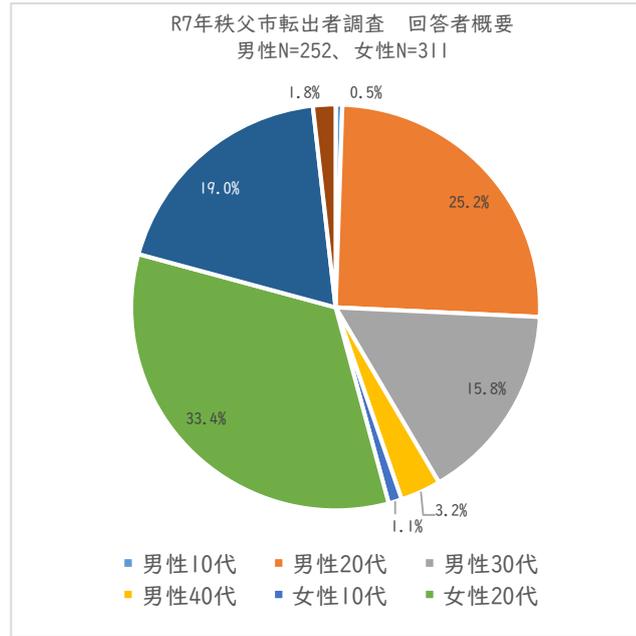


図4 回答者男女年代別概要

・回答者の出身地

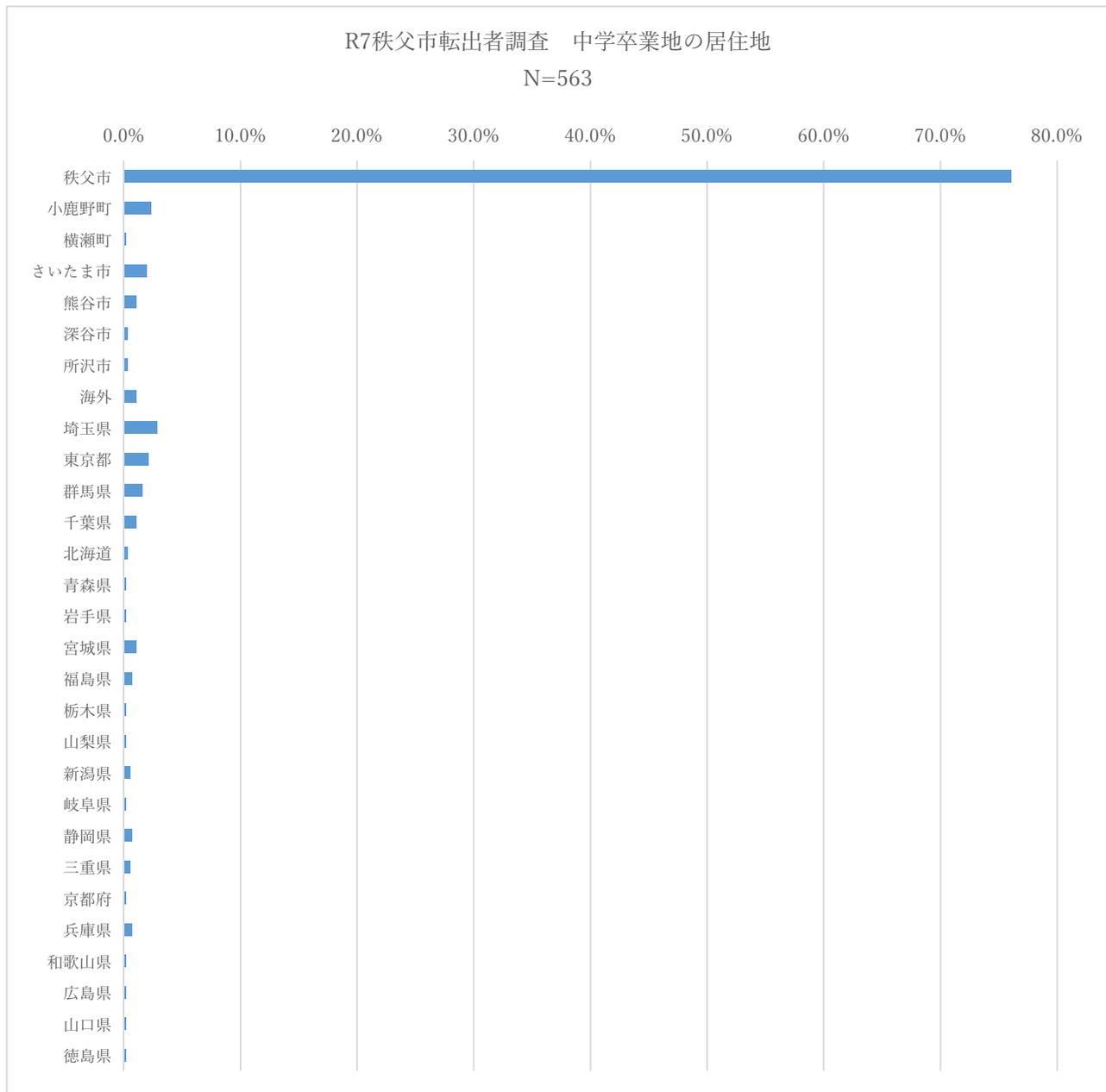


図5 回答者の中学校卒業時居住地

本調査では、中学校卒業時点における居住地を出身地とした。回答者の出身地を確認すると、76%が秩父市出身であり、秩父郡1市4町と皆野町までを加えると約80%が秩父市周辺地域出身であることがわかる。本調査では、秩父市出身者のみを調査対象としたわけではないため、秩父市外出身者も一定数含まれる点、留意が必要である。本報告書では、秩父市外出身者もすべて含めて集計を行った。秩父市へ戻る意向があるのかどうかという設問をはじめとして、秩父市出身者と市外出身者との間で統計的に有意な差がみられるものもあるため、市内出身者と市外出身者の違いに関する分析については今後の課題とし、長野大学奥田先生により考察をいただくものとする。

(2) 転出先都道府県・市町村

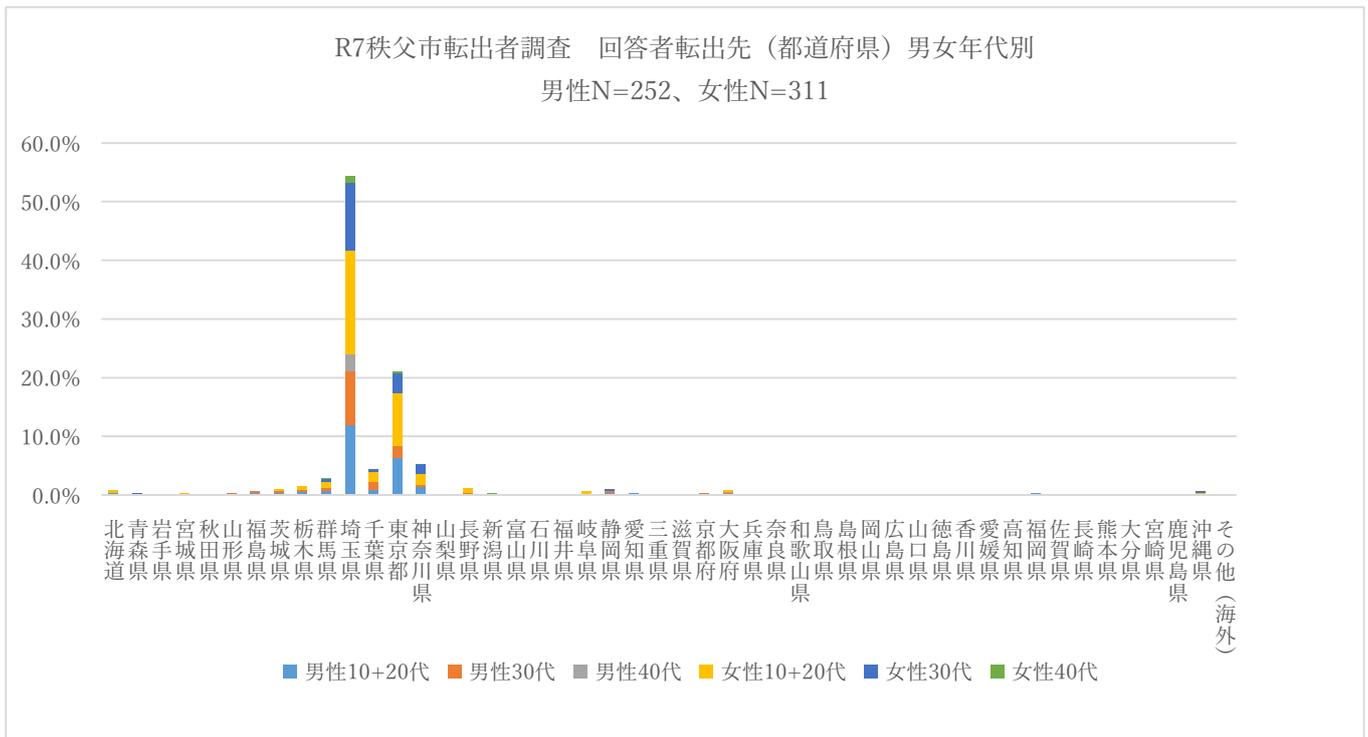


図6 回答者転出先 都道府県

図6は回答者の男女年代別の転出先都道府県をグラフにしたものである。図2で示した転出者全体の転出先都道府県をグラフにしたものと同様、埼玉県に約50%が、東京都に約20%が転出している。

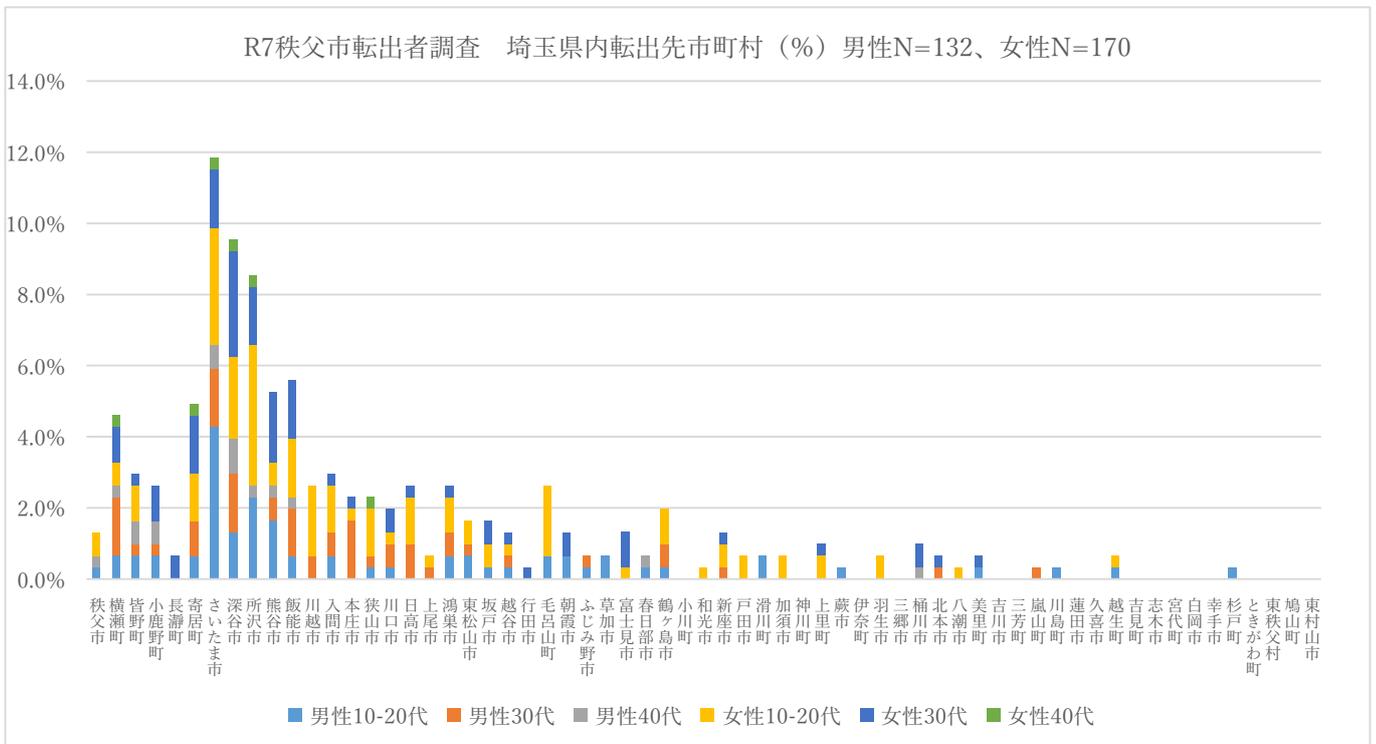


図7 回答者転出先 埼玉県内転出先市町村

図7は埼玉県内転出者の転出先市町村をグラフにしたものである。図3で示した転出者全体の埼玉県内

転出先市町村をグラフにしたものと同様、さいたま市、深谷市、所沢市に10代と20代が転出していることがわかる。なお、東京都内の転出者数については母数が47件と50件をきり、母数が少ないことから今回は転出先市区町村まではグラフ等にしないものとした。

(3) 転出理由・転出先の選択理由

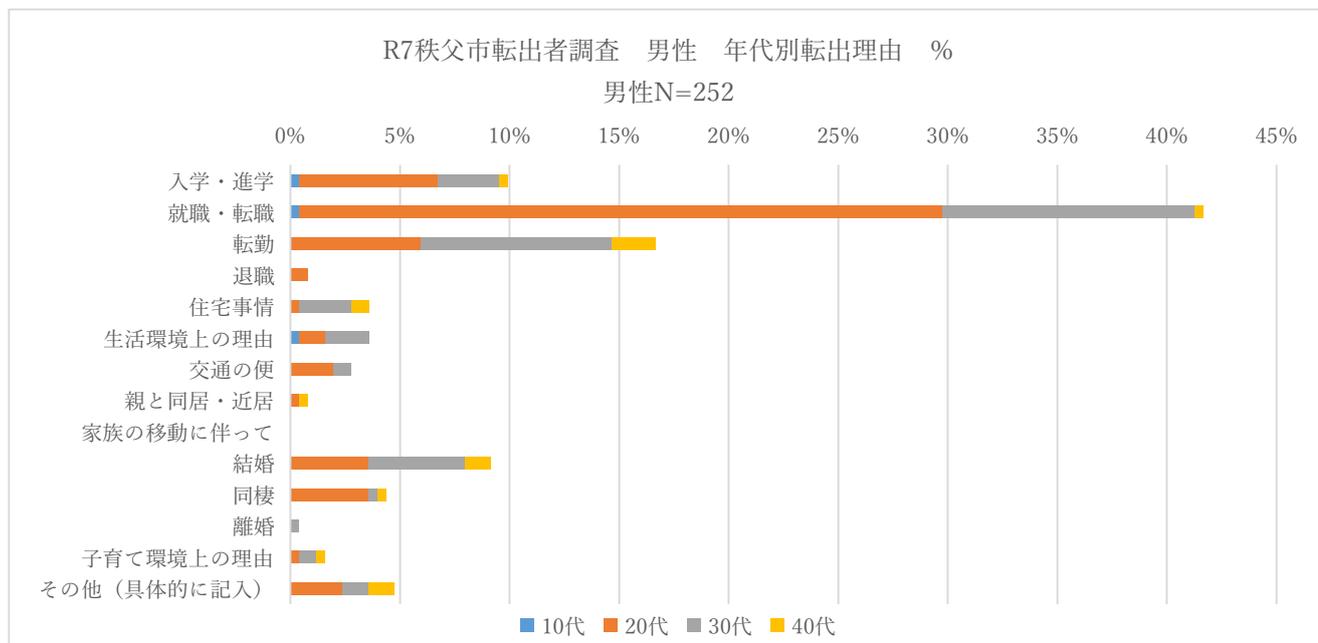


図8 転出男性 年代別転出理由

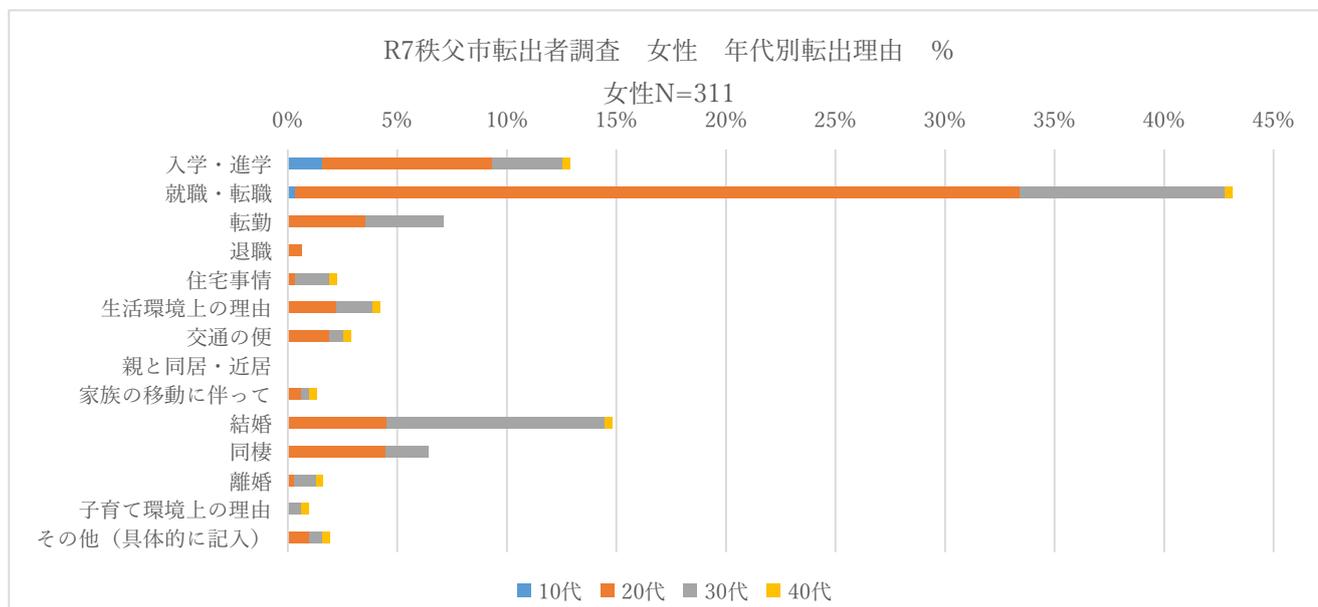


図9 転出女性 年代別転出理由

図8と図9は回答者の転出理由を男女年代別に分類しグラフにしたものである。男女回答数に差があることから、男性の回答を100%とした際の割合、女性の回答を100%とした際の割合とで比較できるように分けてグラフとした。転出理由としては就職・転職が最多であり、次いで進学、結婚が続いている。

その他回答としては同棲解消、および家族の事情や労働上の事情などが挙げられていた。

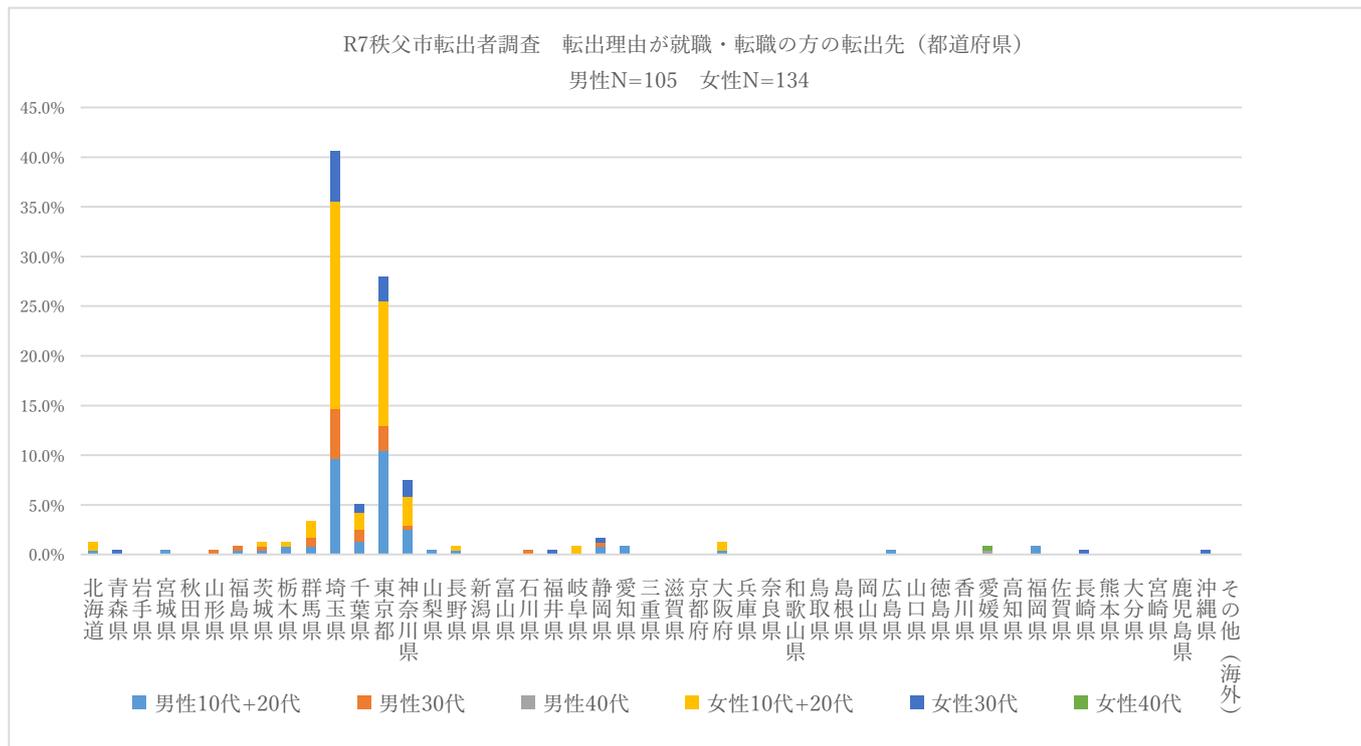


図 10 転出理由別転出先 転出理由が就職・転職の方の転出先都道府県

図 10 は転出理由が就職・雇用の方の転出先をグラフとしたものである。転出先としては全体の転出先系統から差異が出ており、埼玉県が約 40%、東京都が 25%超となっている。

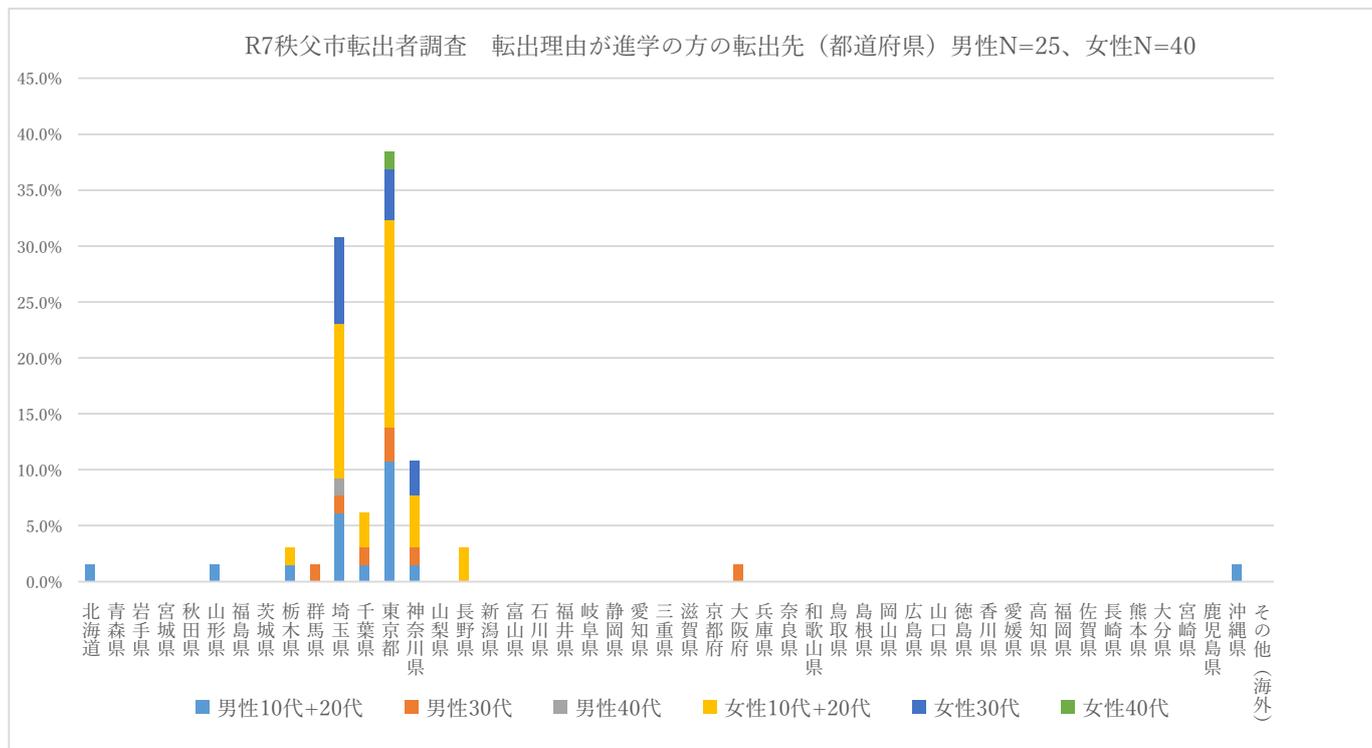


図 11 転出理由別転出先 転出理由が進学の方の転出先都道府県

図 11 は転出理由が進学の方の転出先都道府県をグラフとしたものである。全体の転出先傾向とは大きく差が出ており、進学にあたっては都内を選ぶ方が 35%超、埼玉県内への進学が 30%となっていることがわかる。

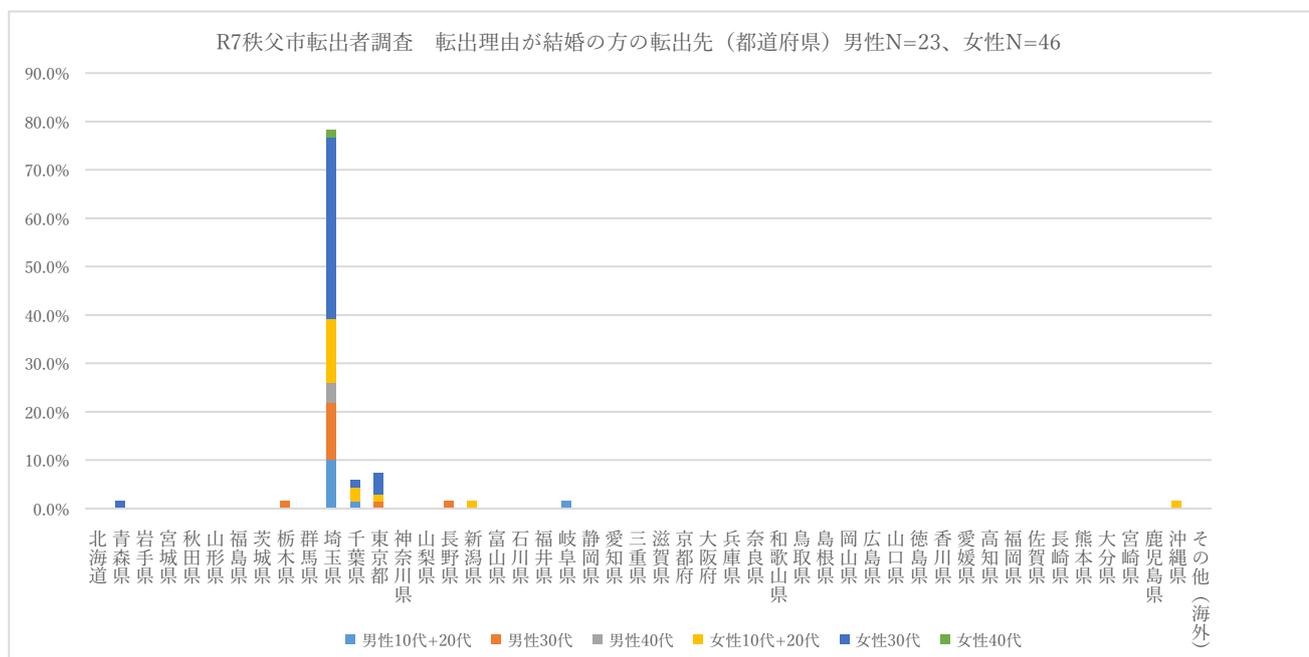


図 12 転出理由別転出先 転出理由が結婚の方の転出先都道府県

図 12 は転出理由が結婚の方の転出先都道府県をグラフとしたものである。進学と同様、全体の転出先傾向とは大きく異なり、埼玉県内への転出が 75%を超えている。

ここまで転出理由の上位 3 要素別の転出先を見てきたが、いずれも埼玉県・東京都内といった近隣での移動が多く、秩父市からの人口流出という観点では埼玉県内での移動が重要であることが分かった。

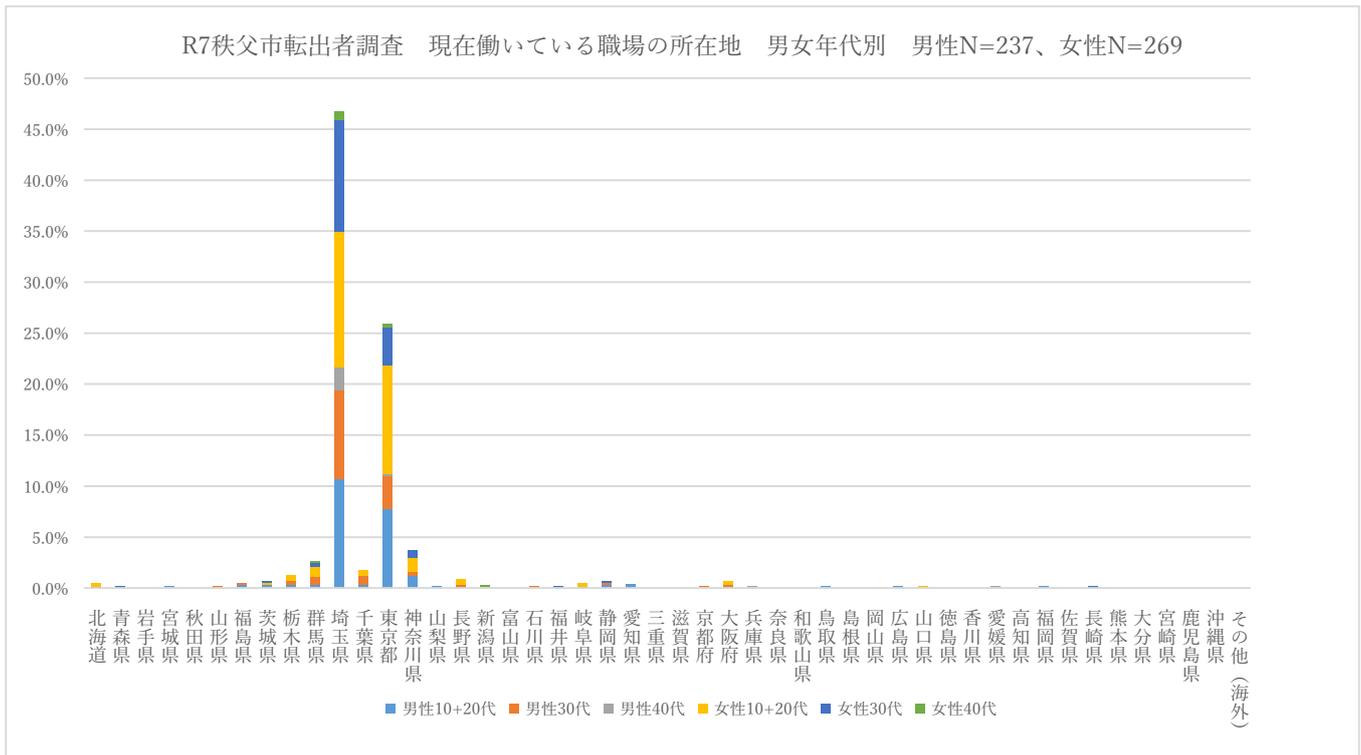


図 13 転出者が現在働いている職場の所在都道府県

図 13 は転出者が現在働いている職場の所在都道府県である。設問において、現在働いている職場の定義は勤務している会社の本社住所等ではなく通常出勤している事業所の所在地、フルリモートの方は所属先の事業所住所とした。図 6 で示した通り、転出先自治体としては埼玉県が約 50%、東京都が約 20%であったが、職場所在地は埼玉県が約 45%、東京都が約 25%である。所沢市など、西武鉄道により都内へのアクセスが容易である埼玉県自治体への転出は、職場は東京だが居住地は埼玉県という属性の転出者によるものであるのではないかと考えられる。

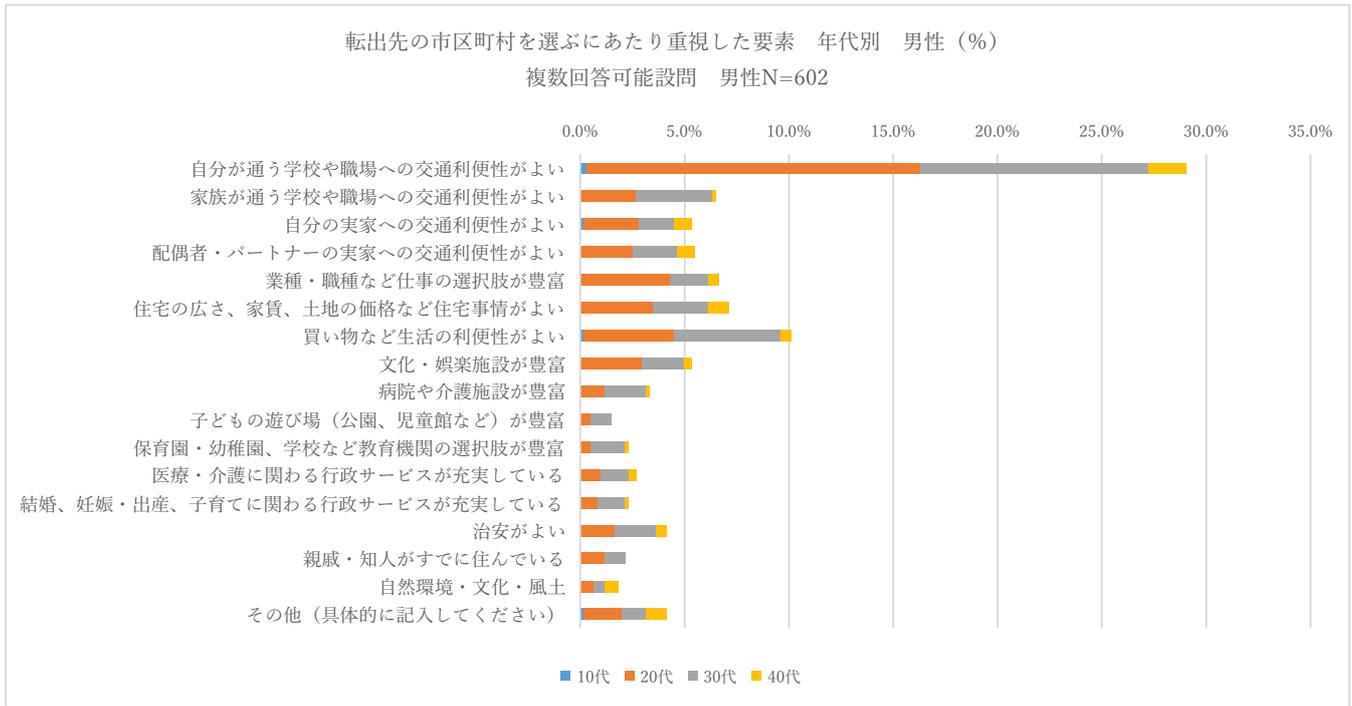


図 14 男女年代別 転出先の市区町村を選ぶにあたり重視した要素 男性

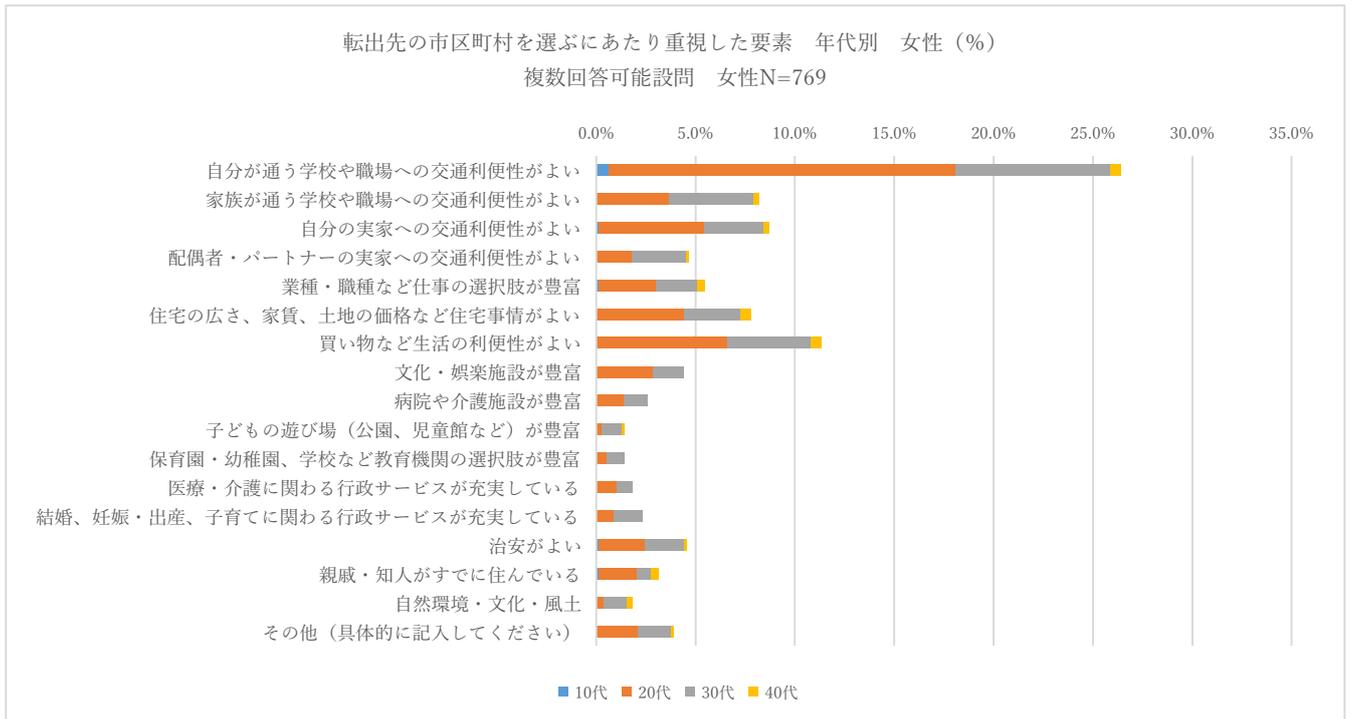


図 15 男女年代別 転出先の市区町村を選ぶにあたり重視した要素 女性

図 14、図 15 は男女年代別の転出先市区町村を選ぶにあたりどういった要素を重視したかをグラフとしたものである。学校や職場ありきで転出先を選んでいる方が最多であることがわかり、東京都・埼玉県への転出は雇用と密接な関係があることが明確となった。また 20 代までの若年層と比較し、30 代・40 代は子供の遊び場などをより重視するといった、ライフスタイルに伴う観点の違いも見て取れた。

(4) 最終学歴

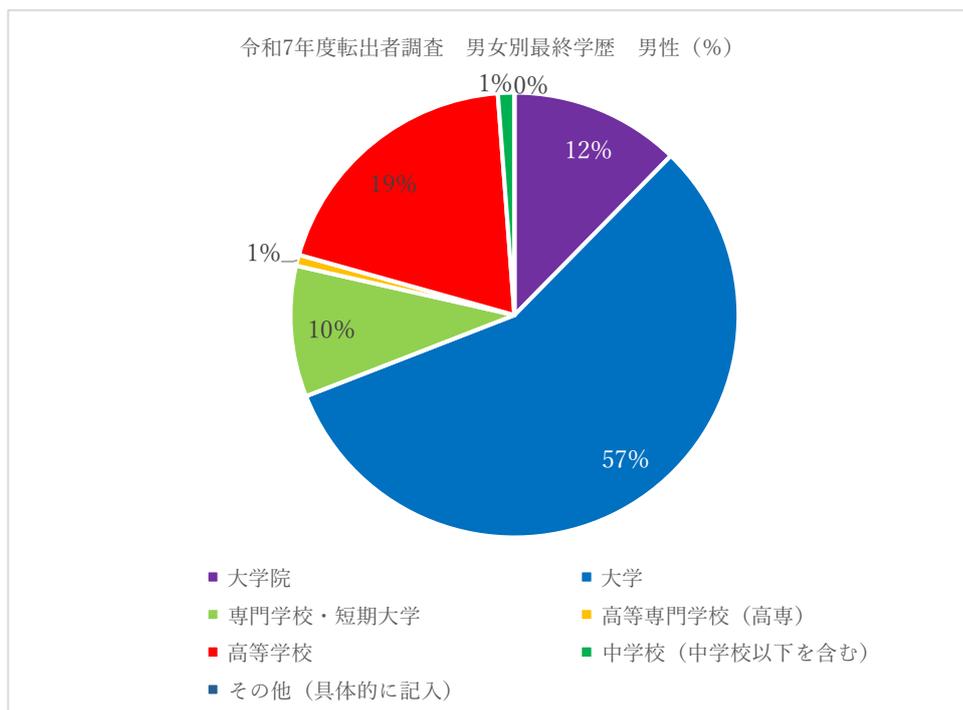


図 16 回答者男女別最終学歴 男性

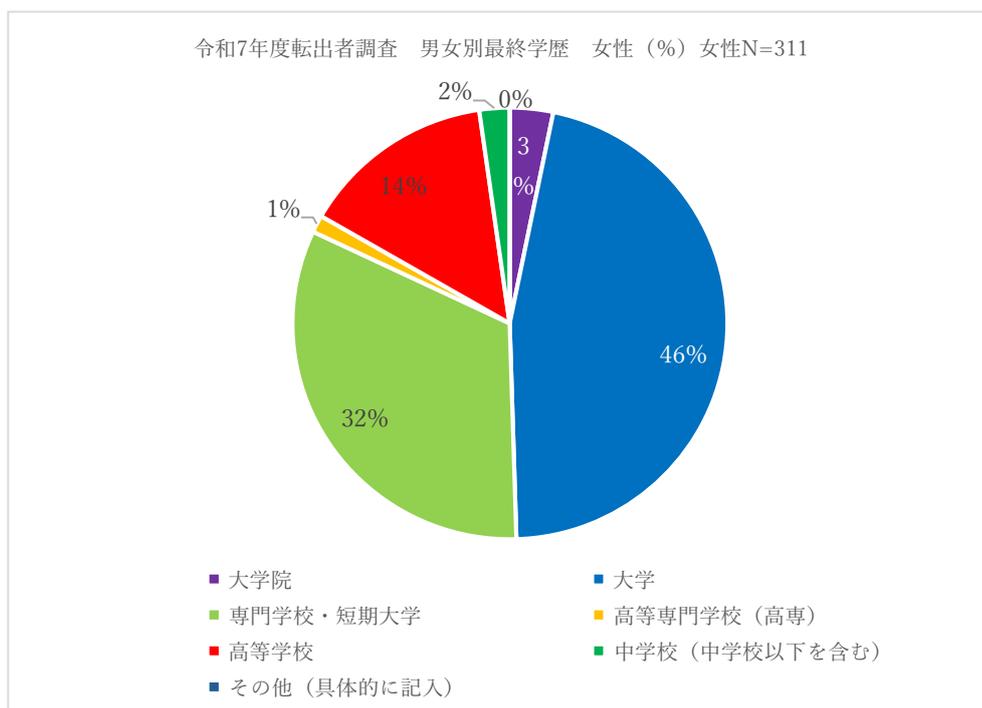
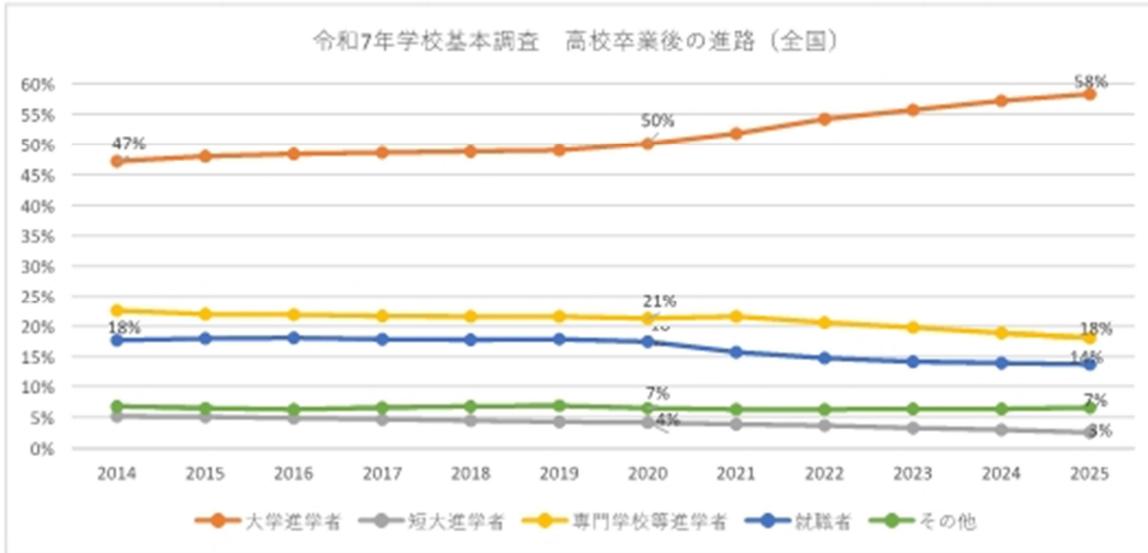


図 17 回答者男女別最終学歴 女性

図 16、図 17 は回答者の男女別最終学歴をグラフとしたものである。当市雇用対策協議会においては高卒採用数の減少が雇用課題の中心となっているが、高校卒業後に大学進学を選択する生徒は増加している。



数値出典:https://www.mext.go.jp/content/20251226-mxt_chousa01-000044291_01.pdf 内表3

図18 全国での大学進学者増減数 (学校基本調査)

参考までに、図18は学校基本調査による高校卒業後の進路推移である。全国的な進路推移のグラフであるが、令和7年度の高校卒業後進路については秩父市と類似の数値となっており、秩父市だけではなく全国的に高校卒業後の就職者は減少し大学進学者が増加していることがわかる。今後、人口母数が少なくなることも踏まえると、高卒採用数の確保の難易度は上がっていくことが見込まれる。

(5) 秩父市への帰還意向

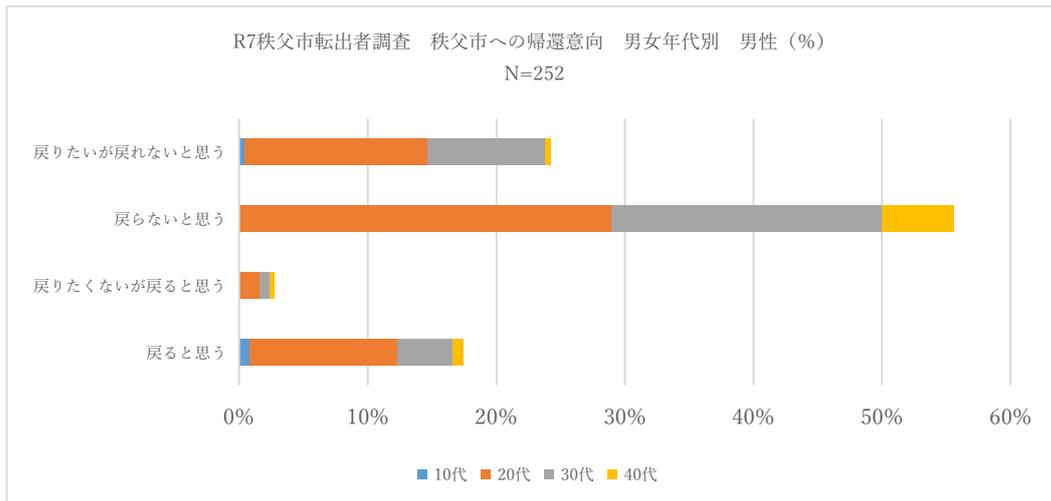


図19 男女年代別 秩父市への帰還意向 男性

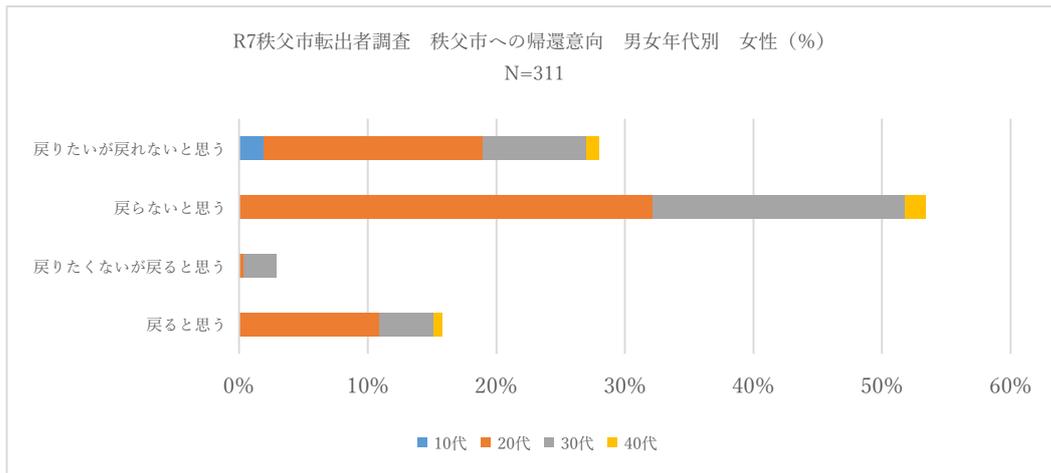


図 20 男女年代別 秩父市への帰還意向 女性

図 19、図 20 は男女年代別への秩父市への帰還意向をグラフとしたものである。戻らない意向の方が半数を超えている。一方、戻りたいが戻れない方は男性 24%に対し女性 27%と若干の差が見られる。

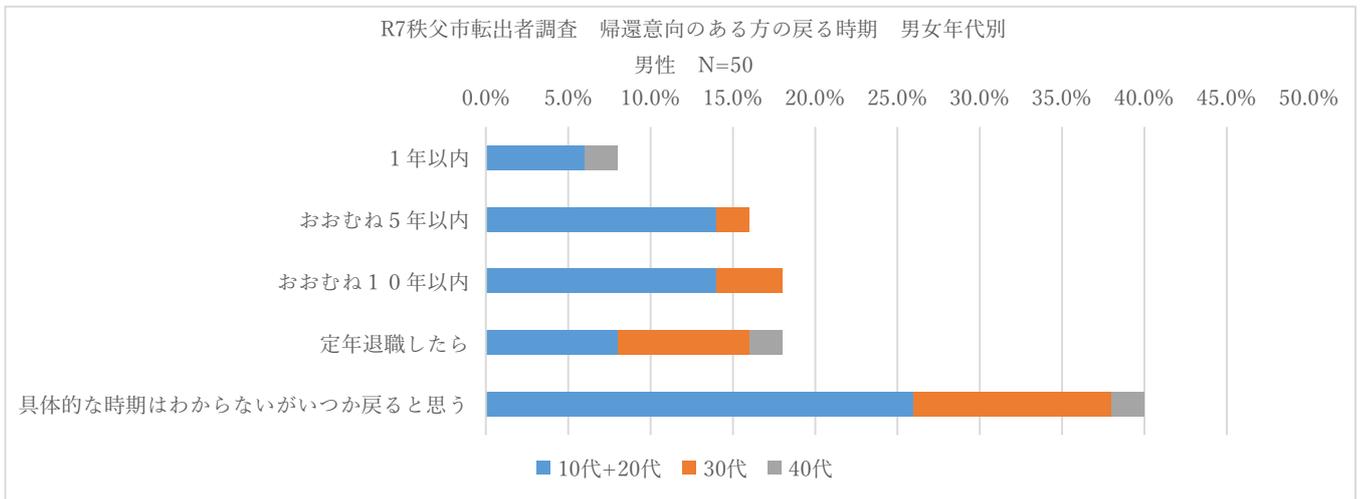


図 21 男女年代別秩父市への帰還意向がある方が現在想定している戻る時期 男性

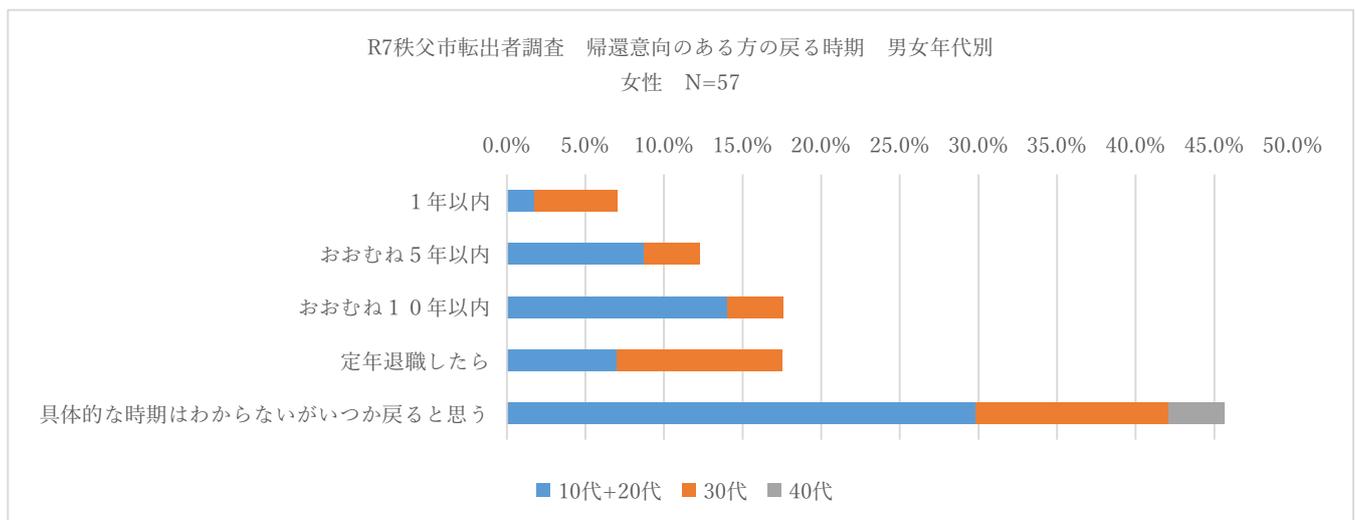


図 22 男女年代別秩父市への帰還意向がある方が現在想定している戻る時期 女性

図 21、図 22 は図 19、図 20 で示した秩父への帰還意向選択肢の中で「戻らと思う」「戻りたくないがいつか戻らと思う」と秩父市に帰還意向を示した方が回答した、現在想定している戻り時期をグラフとしたものである。明確な戻り時期を決めていない方が約半数であることがわかる。

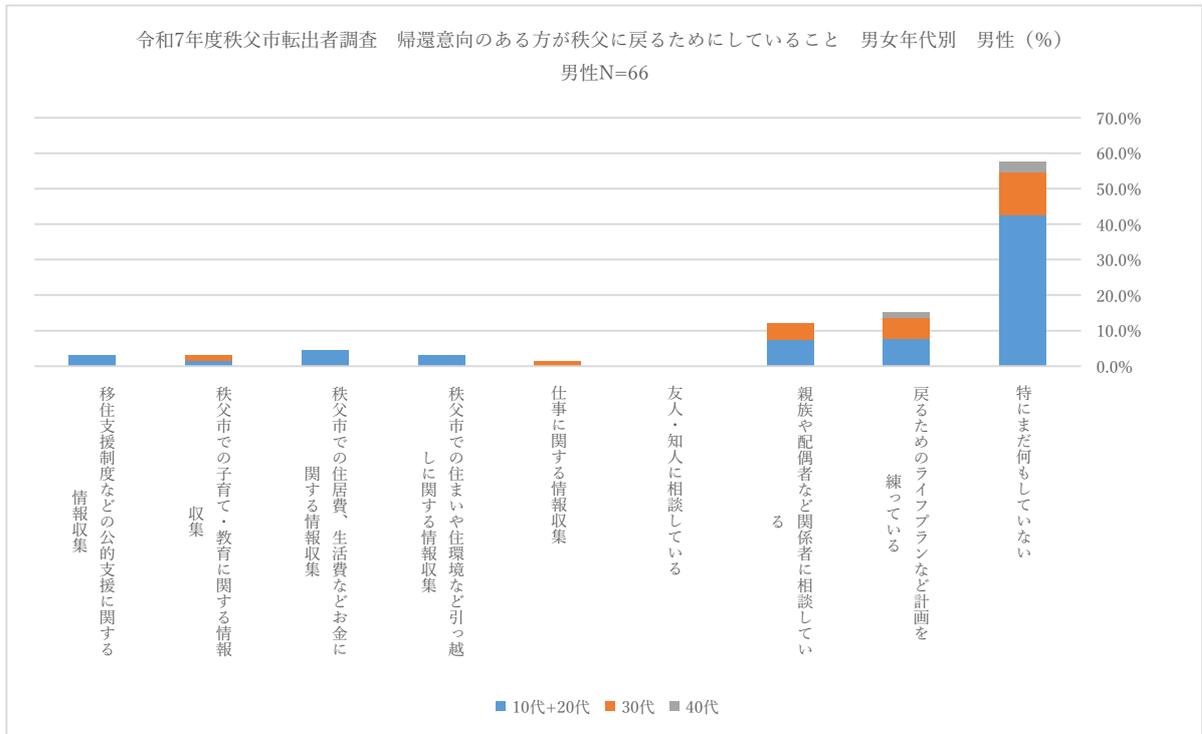


図 23 男女年代別秩父市への帰還意向がある方が現在戻らするためにしていること 男性

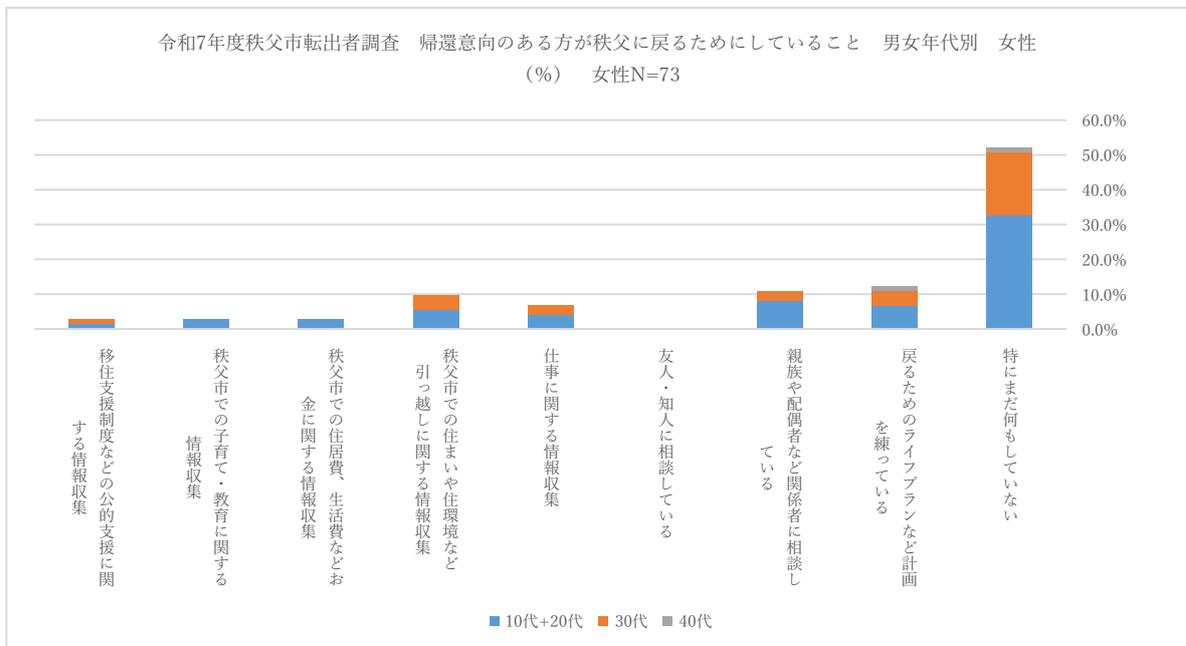


図 24 男女年代別秩父市への帰還意向がある方が現在戻らするためにしていること 女性

図 23、図 24 は図 21、図 22 と同様に、図 19、図 20 で示した秩父への帰還意向の選択肢の中で「戻らと思う」「戻りたくないがいつか戻らと思う」と秩父市に帰還意向を示した方が回答した、現在秩父に戻るために

していることへの回答をグラフとしたものである。特にまだ何もしていない方が半数であり、漠然と戻りたいとの意向は持っているものの具体的な計画はない方が過半数であることがわかる。

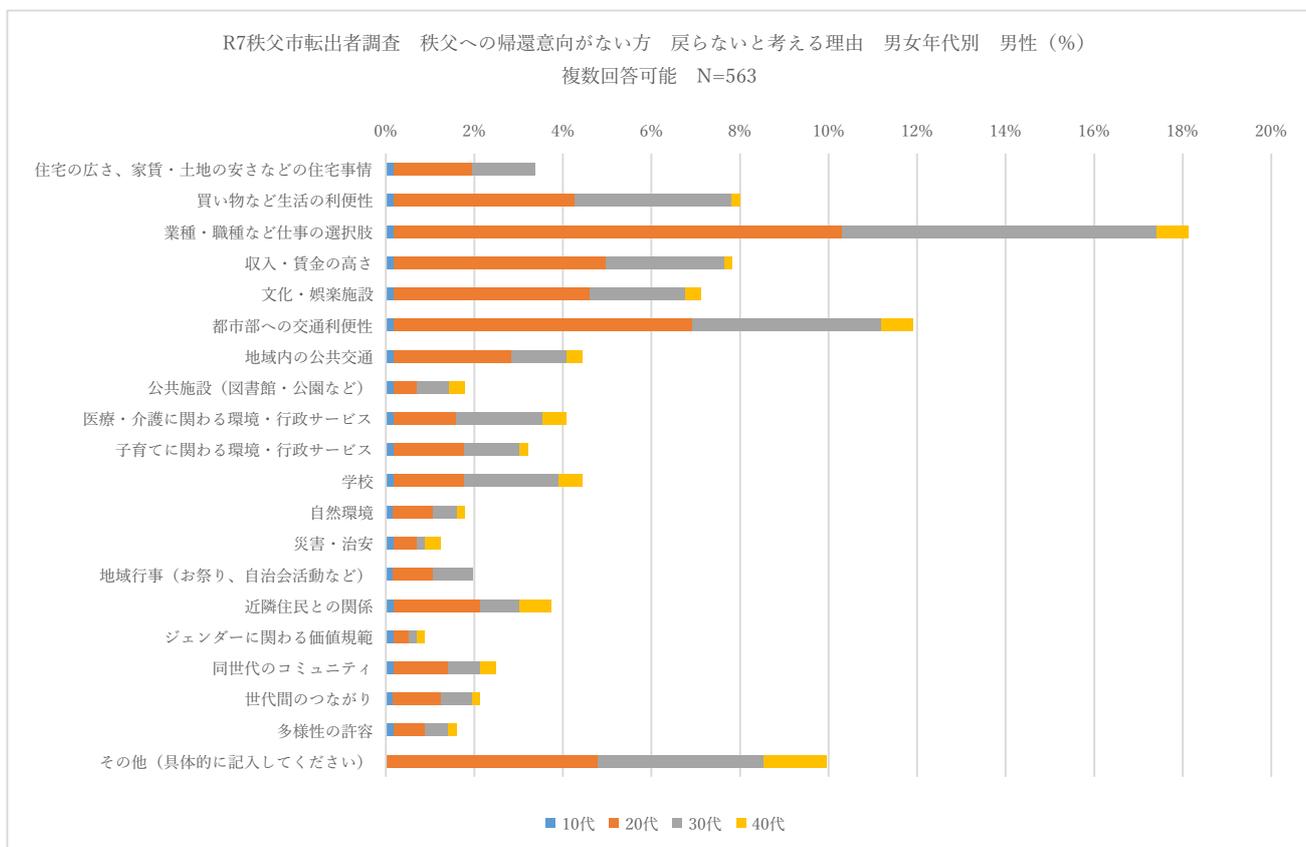


図 25 男女年代別 秩父への帰還意向がない方 戻らないと考える理由 男性

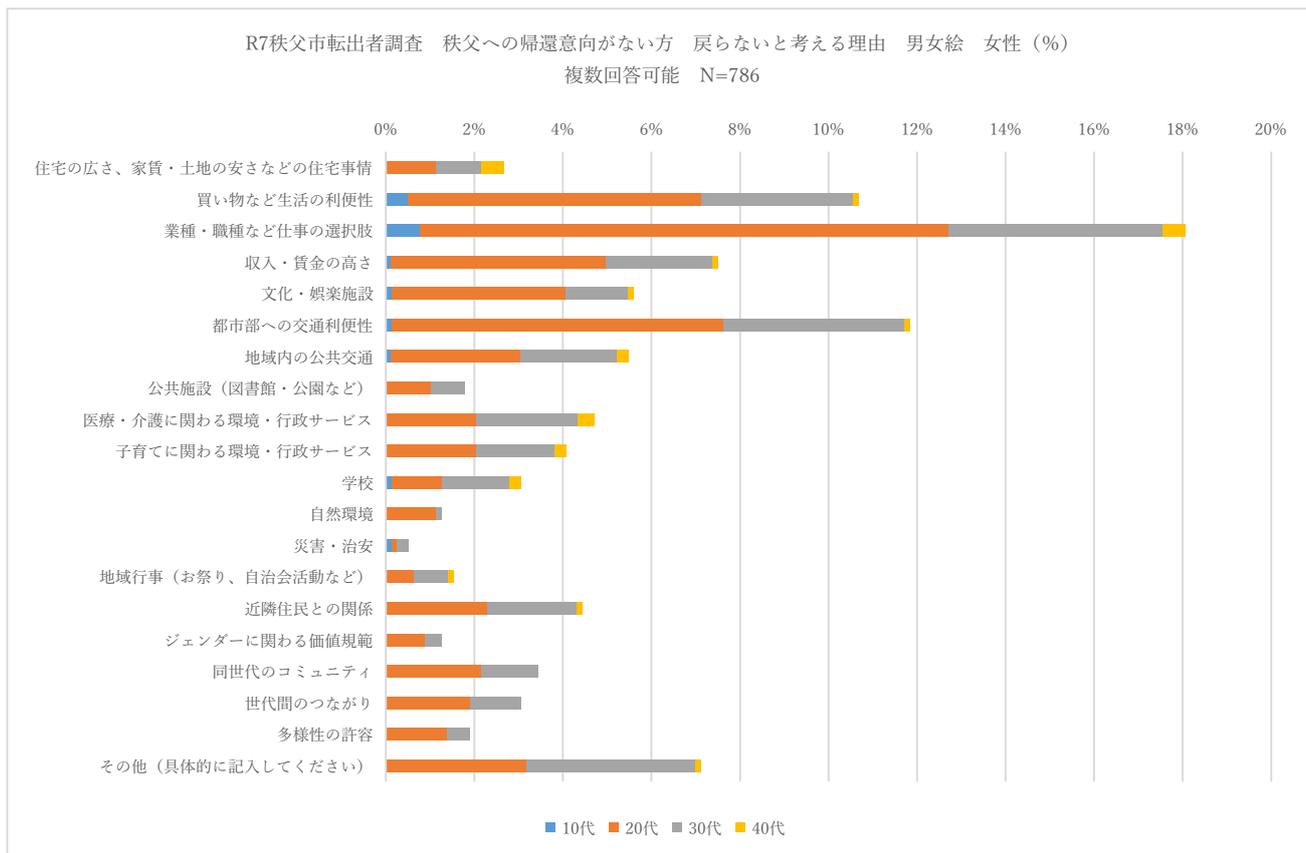


図 26 秩父への帰還意向がない方 戻らないと考える理由 女性

図 25、図 26 は図 19、図 20 で示した秩父への帰還意向の選択肢の中で「戻らないと思う」「戻りたいが戻れないと思う」と秩父市への帰還意向がない方が回答した、戻らないと考える理由をグラフとしたものである。仕事の選択肢が最も上位となっているが、一方で収入・賃金の高さは約7%となっている。

(6) 帰還意向に関わる自由記述

秩父市に戻る理由、戻らない理由をさらに深掘するため、秩父市への帰還意向がある方、秩父市への帰還意向がない方どちらも対象とし、これが解決しないと秩父に戻れないと感じる課題について自由記述回答式で聞き取りを行った。

まずは全体として男女・年代別に多く見られたキーワードと件数、要約を以下に示す。

年代・性別	多く見られたキーワード	件数	要約
10代+20代 男性	業種・職種など仕事の選択肢	58件	IT・情報サービス関連の欠如、大卒雇用の欠如
	都市部への交通利便性	39件	都心へのアクセスの悪さ、電車の本数の少なさ
	収入・賃金の高さ	28件	首都圏と比較して月給が5万円近く低い
	文化・娯楽施設	26件	若者向けの服屋、小物屋、娯楽施設の不足
10代+20代 女性	業種・職種など仕事の選択肢	100件	専門職(医療、公務員等)の枠の少なさ、正社員の選択肢の狭さ
	都市部への交通利便性	60件	バス・電車の本数の少なさ、終電の早さ

	買い物など生活の利便性	56件	行きたいお店が近くにない、都市部と比べた相対的な不便さ
	収入・賃金の高さ	39件	東京都と同じ給与水準でないと感じ生活が厳しい
30代男性	業種・職種など仕事の選択肢	40件	現在と同じ職種・収入を維持できる職場が秩父にない
	都市部への交通利便性	24件	都内への通勤の難しさ、単線の脆弱性
	買い物など生活の利便性	20件	商業施設の少なさ、娯楽の選択肢のなさ
	収入・賃金の高さ	15件	市内企業の給与水準の向上への期待
	学校など子供の教育面	12件	教育施設の老朽化（空調未整備）、学校の減少による教育格差
30代女性	業種・職種など仕事の選択肢	38件	求人が常に固定化されており、新しい働き口が見つからない
	都市部への交通利便性	32件	通勤時間の長さ、テレワーク環境の未整備
	買い物など生活の利便性	27件	ショッピングモールまで1時間半かかる不便さ
	収入・賃金の高さ	19件	学歴が収入に反映されない、金銭的余裕のなさ
	医療・介護に関わる環境・行政サービス	18件	産婦人科の極端な少なさ（1ヶ所）、救急医療への不安
40代男性	業種・職種	4件	希望する業種・職種がない
	都市部交通／近隣住民との関係	4件	現在の居住地に根付いており離れる理由がない
	医療・介護	6件	行政の対応（介護時のトラブル等）への不信感、医師・看護師の不足、ハード面よりソフト面（医師の充実）のニーズ
40代女性	職種	4件	特殊な業種の枠がない
	医療・介護に関わる環境・行政サービス	3件	行政支援サービスにどんなものがあるかわからない

続いて、秩父への帰還意向がある方（戻らと思う、戻りたくないが戻らと思うと回答した方）、秩父への帰還意向がない方（戻らないと思う、戻りたいが戻れないと思うと回答した方）ごとに、秩父市の帰還意向別でこれが解決しないと秩父に戻れないと感じる課題についての自由意見の集約を行った。

年代ごとの総括、また各年代での男女ごとの傾向の差についての要約を以下に示す。

年代・男女	帰還意向あり	帰還意向なし
10代・20代 総括	仕事の選択肢（女性100件、男性58件）：専門（医療専門職、国家公務員等）を活かせない、やりたい職種がない 今の仕事の継続性：「完全リモートワークが可能になれば実家に戻りたい」という希望 賃金格差：戻りたい気持ちはあるが、奨学金返済や生活のために「東京と同じ給与」を求める切実さ	傾向：都会の利便性への定着と「閉鎖性の忌避」 生活の利便性（女性56件、男性23件）：「一度都会の便利さを知ると戻れない」、遊ぶ場所や服屋がない 人間関係の閉塞感：「コミュニティが狭い」「噂がすぐ広まる」ことへの息苦しき
10代・20代 男性	「専門性の発揮」と「リモート環境」 ・大卒が働く「まともな会社」の不足 ・IT・情報サービス系の職種がない ・リモートワーク不可なら戻れない	「所得格差」と「娯楽の欠如」 ・他地域より月給が5万円近く低い ・若者向けの服屋や娯楽がない ・警察の対応（治安）への不信感
10代・20代 女性	「資格・スキルの活用」と「給与水準」 ・医療専門職や公務員の枠が市内にない ・東京都と同等の給与がもらえない ・奨学金返済への不安	「交通の不便」と「コミュニティの狭さ」 ・電車、バスの本数が少なすぎる ・一度都会の便利さを知ると戻れない ・近隣住民との距離の近さ

30代総括	<p>傾向：安全・教育インフラへの「切実な不安」</p> <p>医療体制への不安（女性18件、男性11件）：「産婦人科が一つしかなく選べない」「子供の夜間救急が不安」といった、命に関わる懸念</p> <p>教育の質と選択肢：習い事や進学先の少なさが子供の将来に不利になると感じる</p>	<p>傾向：「配偶者の意向」と「地域の価値観への拒絶」</p> <p>積み上げてきた自身のキャリアの断絶への不安だけでなく、配偶者の意向や配偶者のキャリアへの懸念。</p> <p>地域の閉鎖性：「男尊女卑の風潮」「祭りの行事への強制」など、地域の古い慣習への強い抵抗感、教育への不安</p>
30代男性	<p>「教育インフラ」と「職場復帰」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の老朽化（空調設備がない等） ・小中高一貫校などの教育一元化を要望 	<p>「キャリアの断絶」と「村社会感」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ業務ができる職種が存在しない ・親世代の閉塞的な村社会感への嫌悪 ・配偶者の意向（地方生活に不慣れ）
30代女性	<p>「医療体制（産科・小児科・夜間救急）」の確保と「仕事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産婦人科が1つしかなく選べない ・子供の夜間救急への強い不安 ・自分に合う仕事がない 	<p>「地域の価値観」と「教育レベル」「仕事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男尊女卑や古い文化（お祭りの強制） ・教育レベルが低い、いじめへの不安 ・ワンマン企業のパワハラ体質への懸念
40代総括	<p>傾向：行政サービスの「不透明さ」への懸念</p> <p>支援情報の不足：移住支援や子育て支援などの行政サービスの周知が足りない</p> <p>専門職の受皿不足：特殊な業種の求人が秩父には存在しない</p>	<p>傾向：行政への「不信心」と「現状維持」</p> <p>行政への不信心：過去の介護対応（認知症対応等）の悪さが転出理由となっており、「行政は自分を守ってくれない」という強い拒絶</p> <p>生活の安定：「現在の生活圏に根付いているため、わざわざ転居する必要がない」という意見</p>
40代男性	<p>「経済的安定」と「健康」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康面と経済面の両立が必須 ・仕事と介護の両立ができる環境 	<p>「行政不信」と「生活維持」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護時の行政対応が悪かった（秩父市転出の要因） ・道路の舗装状態やマナーの悪さ
40代女性	<p>「行政サービスの周知」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援制度があるのかもしれないが、周知が不足しており分からない 	<p>「住宅ローン」と「賃金格差」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに市外で家を買って、ローンがある ・専門スキルの受け皿がなく、賃金格差が埋まらない
全体総括	<p>「戻りたいが戻れない」層の要因としては前年代を通じて仕事さえあれば戻りたいというジレンマが強い。</p> <p>30代・40代と結婚・子育て期、生活基盤が固まっている年代に至ると、ライフラインへの不安が大きくなり、子育て世代では「産婦人科がない」「子供の医療」「介護サービス」といった自分の健康だけではない問題を課題とする傾向がある。</p>	<p>「戻らない」層の要因としても仕事がないことが課題として挙げられる。他の要因としては以下の2つが大きい。</p> <p>①利便性の絶対的格差「一度都市部の利便性を享受すると、秩父の不便さが許容できないレベルに感じる」等の物理的要因。</p> <p>②閉鎖的な地域性への忌避感：「男尊女卑の文化」、「閉鎖的な人間関係・噂話」「パワハラ体質への懸念」等、地域のコミュニティの閉鎖性に対する懸念。</p>

いずれも雇用が大きな課題となっている中、10代・20代では大卒での雇用環境の不足、職種の不足、奨学金を理由とした賃金への要望や都市部との給与比較についての言及が見られた。30代となると出産・子育て・教育についての不安が多くなり、年代ごとの要望がライフスタイルに応じて変わっていくことがわかる。

(7) 仕事

【雇用形態と業種】

雇用、収入についての言及が多くあったことから、ここでは、転出者がどのような仕事に就いているかを取り上げる。図 27、図 28 は現在の職業を男女年代別にまとめたグラフである。男性は 80%以上が正規雇用であり、女性も 70%が正規雇用である。女性では 30 代で専業主婦、パート・アルバイト、契約・派遣社員・非常勤等が合計で 12%ほど見られ、これが男性と女性の間での正規雇用率の差異の要因になっている。

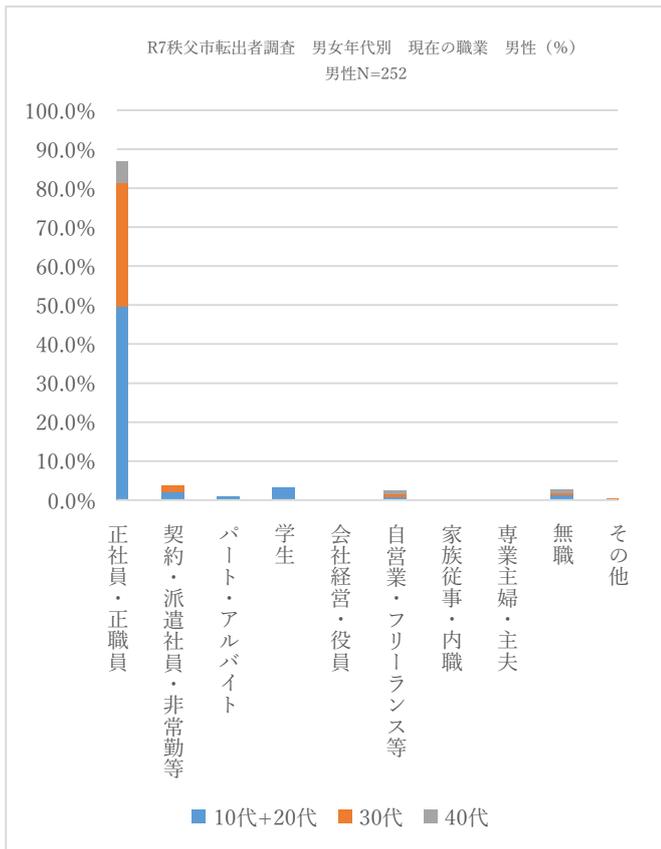


図 27 現在の職業 男性

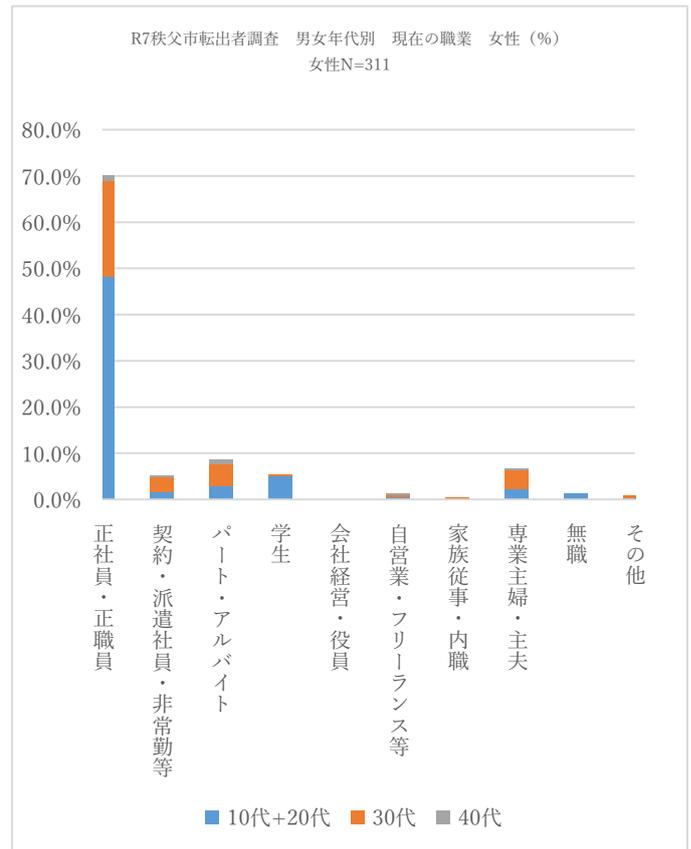


図 28 現在の職業 女性

図 29、図 30 は現在の職業を選択する、または現在働いていない方はこれから働くと仮定して、どのような雇用形態を希望するかという設問に対しての回答を、男女別に年代ごとでグラフにしたものである。

男女ともに 10 代・20 代では正社員であることを 80%以上が重視している。男女ともに年代により正社員重視の傾向が変化することがわかる。

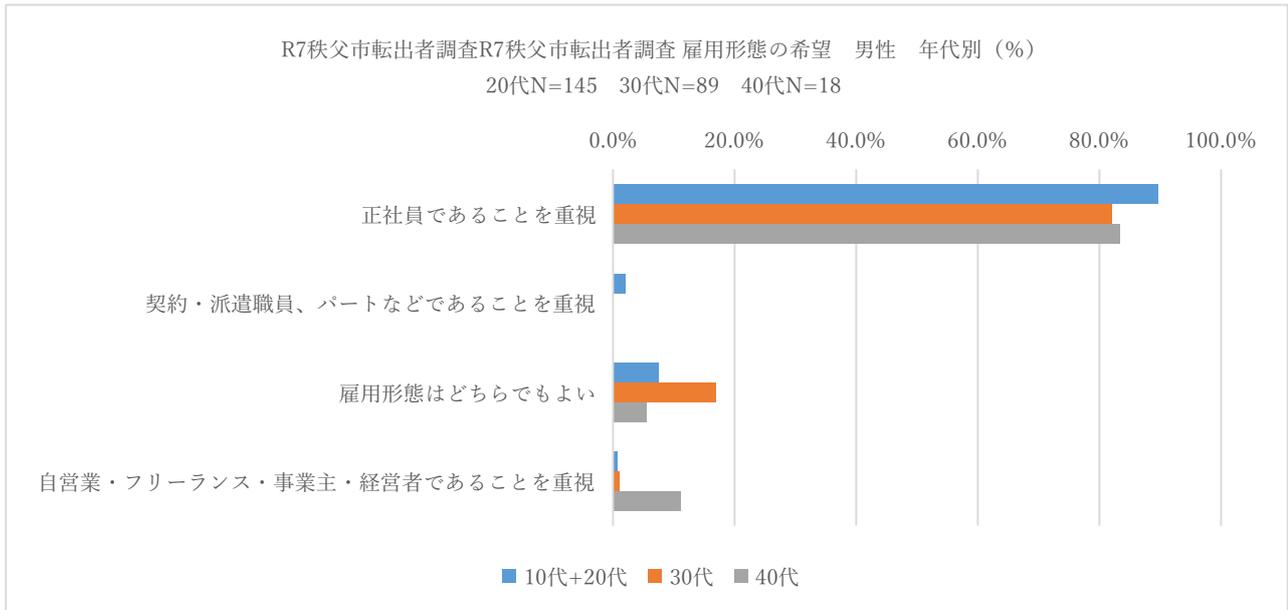


図 29 雇用形態の希望 男性 年代別

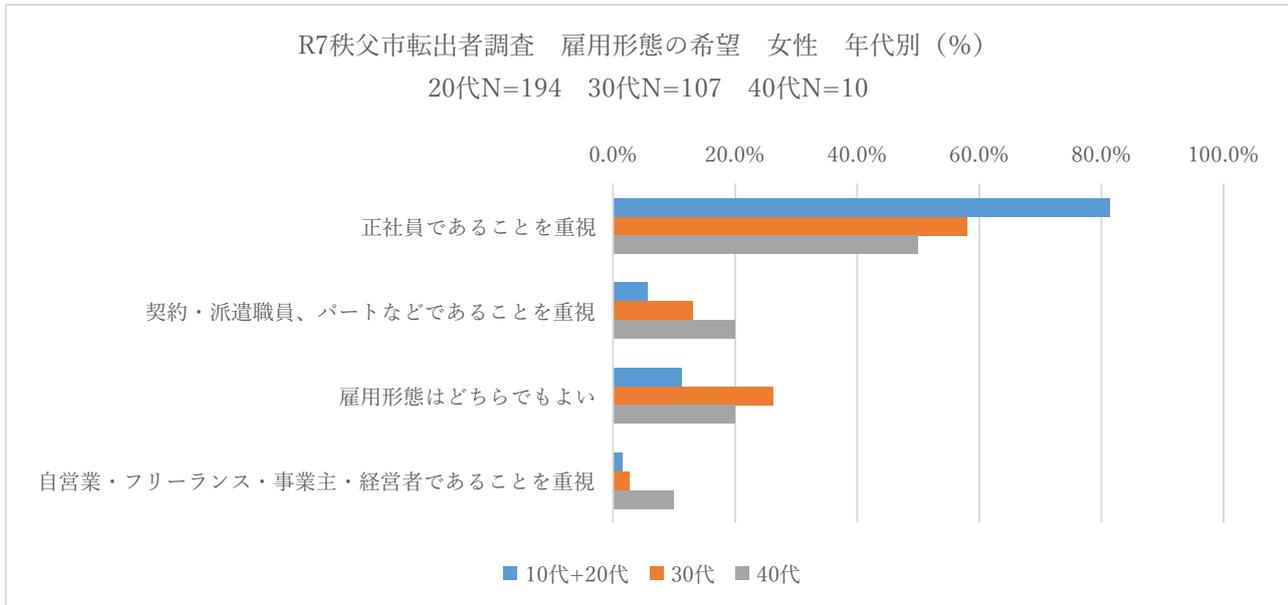


図 30 雇用形態の希望 女性 年代別

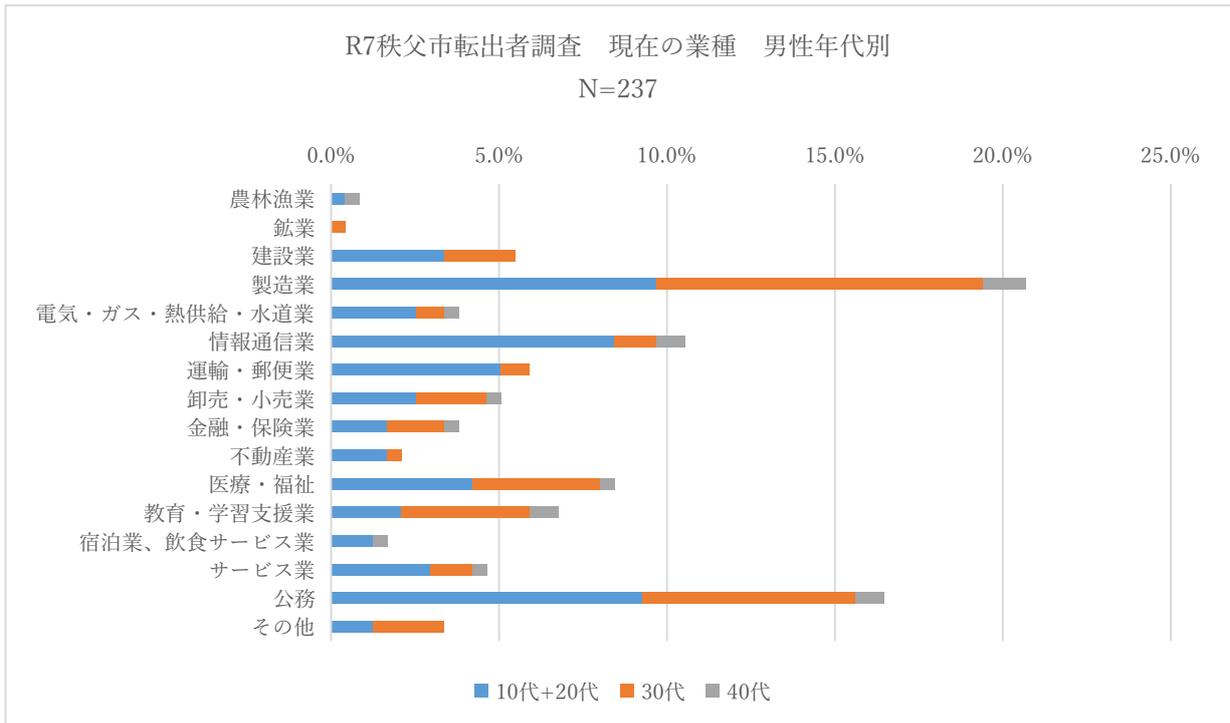


図 31 現在の職業の業種 男性年代別

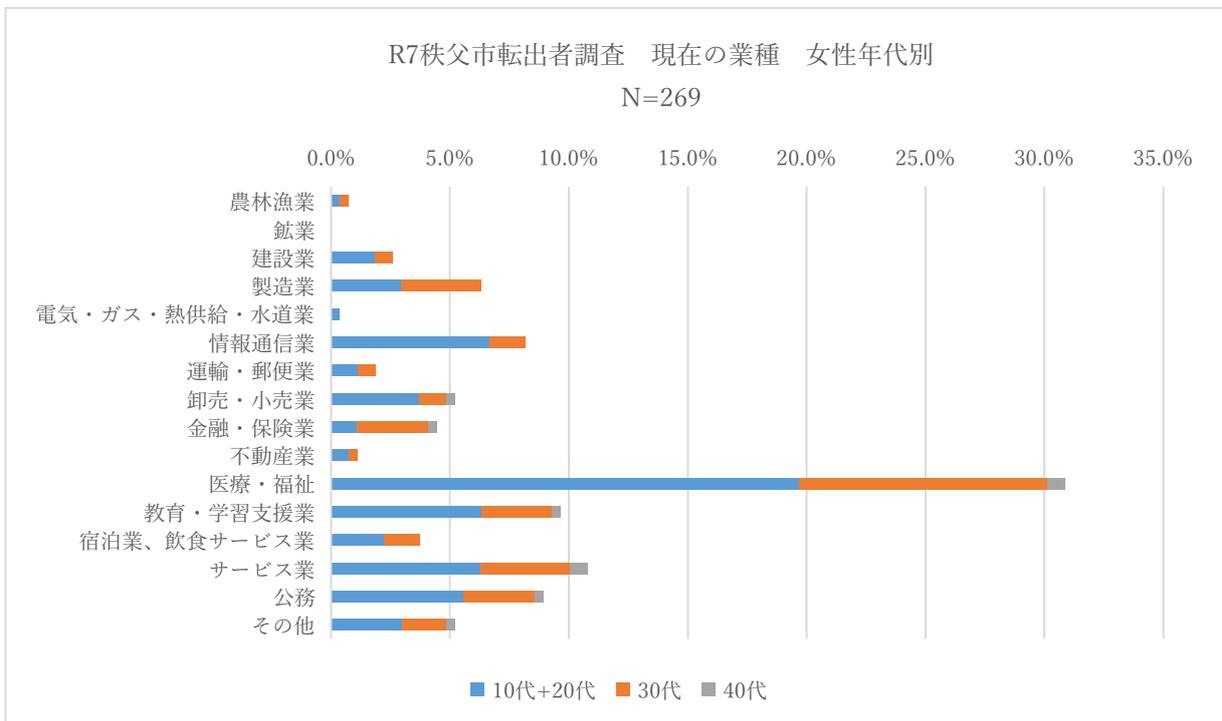


図 32 現在の職業の業種 女性年代別

図 31、図 32 は就業者が回答した現在の業種をグラフにしたものである。就業者は図 29、図 30 の設問において学生、専業主婦・主夫、無職と回答した人以外の方を就業者と定義した。

男性では製造業と公務、女性では医療・福祉、サービス業が多いことがわかる。

【国勢調査からみる業種比較】

戻れないと感じる課題についての自由意見内で見られた仕事の課題として、やりたい職種がない、といった意見があったことを踏まえ、転出者の業種分布が秩父市内の就業者の業種分布とどの程度乖離しているのかを確認するために、秩父市内の就業者の業種分布を令和2年度の国勢調査で見よう。

図33は令和2年度国勢調査の就業状態等基本集計から秩父市、埼玉県、東京都、全国における男性の居住地別の業種の分布割合を比較したものである。今回の調査では10代、40代の回答者数が少なかったこと、国勢調査では年齢が5歳階級別であり若年層は34歳までで区切られていることを踏まえ、国勢調査の若年層である15～34歳から15歳から19歳についてのみ除外し、20歳から34歳までを対象としてグラフとした。また、転出者は埼玉県、東京都に転出していることから、同様に令和2年度国勢調査の就業状態等基本集計から、秩父市、埼玉県、東京都、全国、と20歳から34歳までの業種分布を比較し、秩父市内の業種構造と転出先業種構造との乖離、全国との比較による特徴の抽出を試みた。秩父市、埼玉県、東京都、全国ではそれぞれ就業者数の母数が異なるため、比較においては各自治体における各業種の就業者数をそれぞれの人口全体を100%として割合で表すことで比較を行っている。なお、図33は転出者調査との比較のために作成したものであり、転出者調査の数値ではないことに留意いただきたい。

図33をみると、男性における秩父市在住者の業種分布の特徴として製造業が突出していることが挙げられる。東京都では情報通信業が突出しており、本転出者調査の中で「これが解決しないと秩父に戻れないと感じる課題」自由意見集約の中で挙げられていた仕事の課題に、情報通信業の業種が少ないという意見があったことを踏まえ、図33の国勢調査就業状態等基本集計における情報通信業の秩父市での就業者数を見ると、約0.5%程度であり全国平均と比較しても少ないことがわかる。

図33では埼玉県でも最多業種は製造業であり、転出者調査結果からみる転出者の業種に製造業が多かったことを踏まえると、製造業の中で秩父市と埼玉県内の他自治体とで給与等の条件により比較が行われ、転出が発生していることが推測される。

続いて、女性の就業分布を同様に見ていく。

令和2年国勢調査 就業状態等基本集計
20～34歳男性 居住地別 就業業種割合

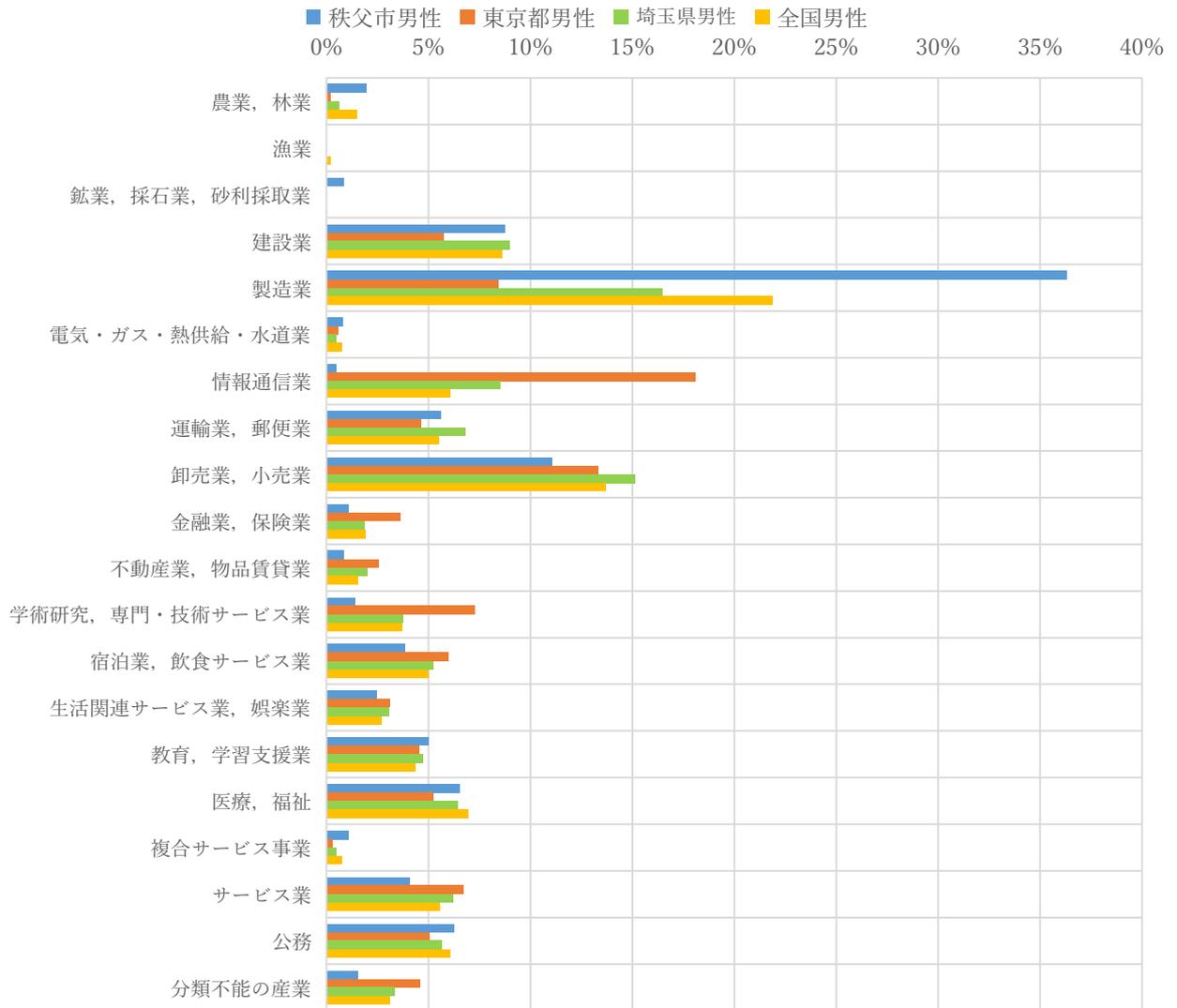


図33 20～34歳男性の秩父市・東京都・埼玉県・全国における居住地別業種割合（令和2年度国勢調査）

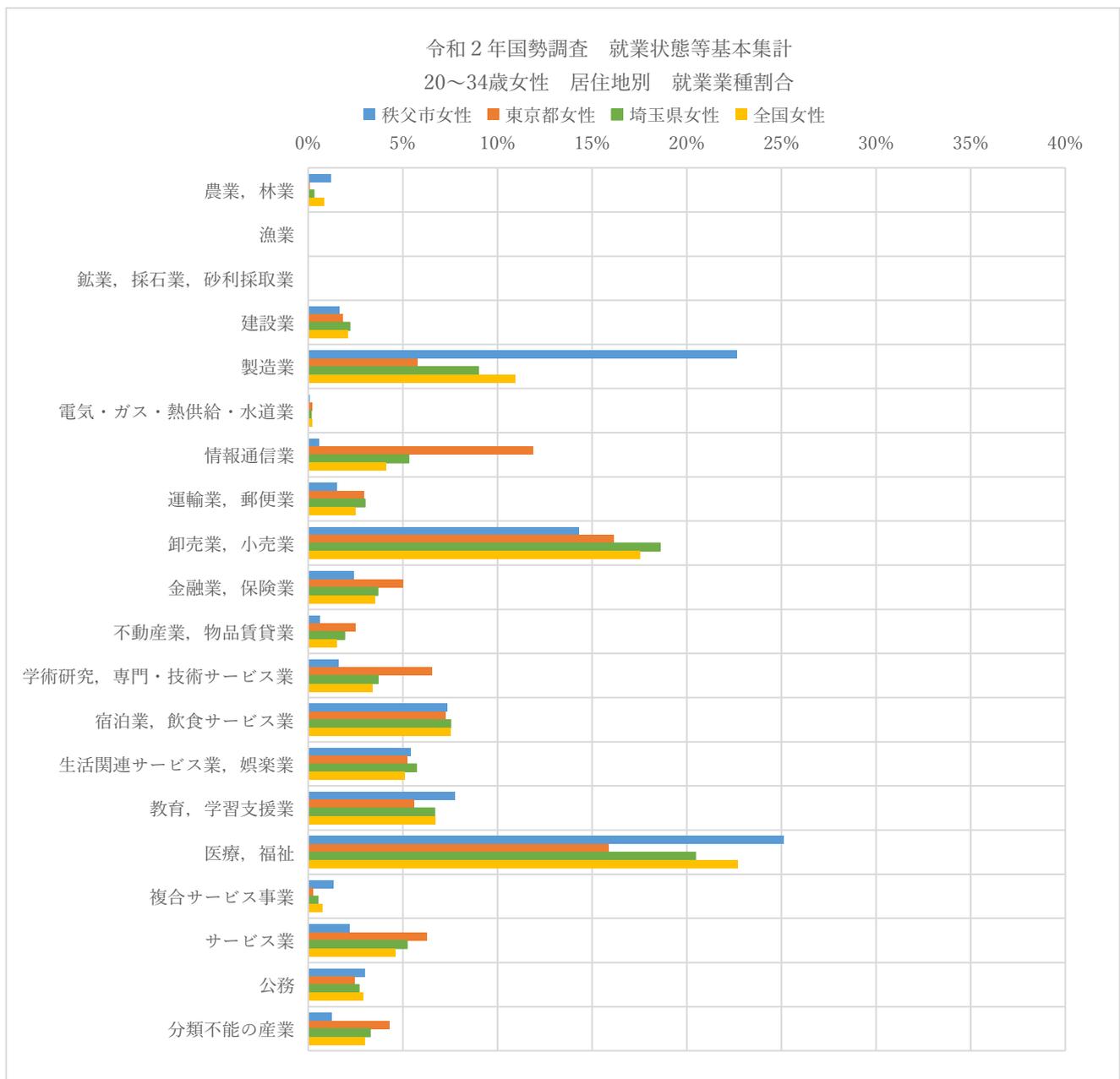


図 34 20～34 歳女性の秩父市・東京都・埼玉県・全国における居住地別業種割合（令和 2 年度国勢調査）

図 34 は、令和 2 年度国勢調査の就業状態等基本集計から秩父市、埼玉県、東京都、全国における女性の居住地別の業種の分布割合を比較したものである。前出の図 33 と同様、転出者調査との比較のために作成したものであり、転出者調査の数値ではないことに留意いただきたい。国勢調査から見る女性における秩父在住者の業種分布の特徴として医療・福祉、製造業が突出していることが挙げられる。医療・福祉は本転出者調査における転出者の業種分布でも突出しているが、転出者調査におけるこれが解決しないと秩父に戻れないと感じる課題」自由意見集約の中で挙げられていた仕事の課題に、秩父市内での医療専門職として働ける枠の不足があり、転出先と秩父市とでは同じ業種内でも専門性の違いなどが発生している可能性がある。

図 34 の国勢調査就業状態等基本集計における医療・福祉職以外での秩父市内での業種割合と、本転出者調査における転出者の業種割合を比較した際、秩父市内での製造業就業者割合よりも転出者の製造業就業者割合

のほうが低い。一方で、情報通信業・サービス業・公務の就業者割合は転出者のほうが高く、製造業ではない業種が希望され、転出につながっている可能性がある。

令和7年度転出者調査において、「これが解決しないと秩父に戻れないと感じる課題」の自由意見集約内では、給与水準と地域の閉鎖性への言及があり、転出には業種だけではない複合要因があることが推察される。

【職種】

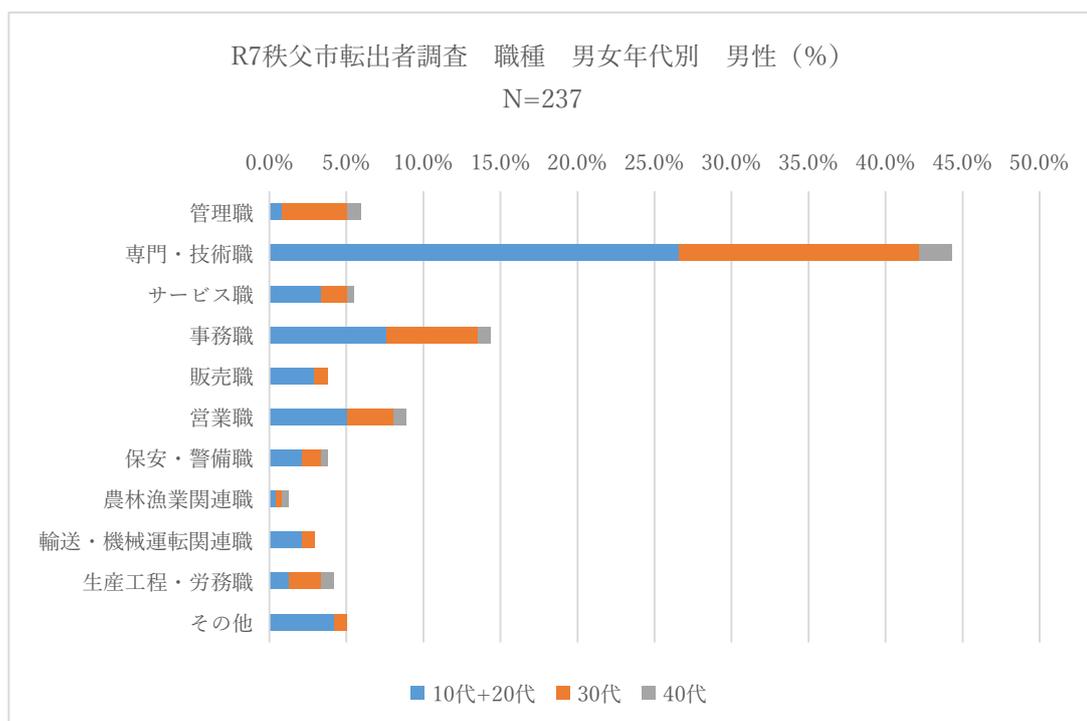


図 35 現在の職種 男性

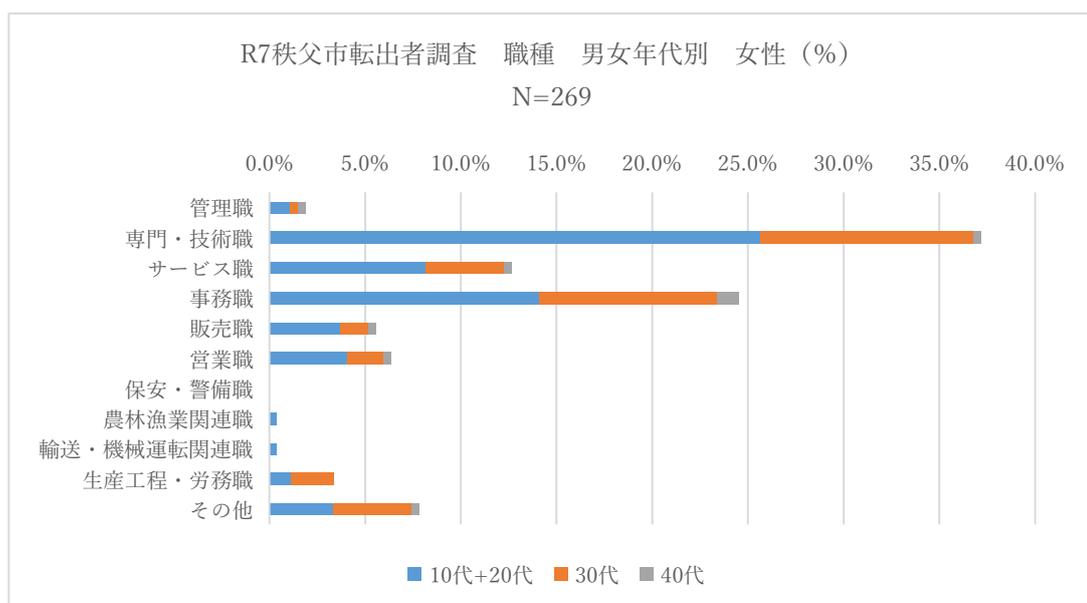


図 36 現在の職種 女性

図 35、図 36 は就業者（図 29、図 30 の現在の職業を問う設問において学生、専業主婦・主夫、無職と回答した人以外の方）が回答した現在の職種をグラフとしたものである。専門・技術職が多く、男性では製造業、公務、女性では医療・福祉、サービス業の就業者割合が多かったこと、「これが解決しないと秩父に戻れないと感じる課題」の自由意見集約にてリモートワークの難しさが挙がっていたことから、製造業や医療・福祉、公務等の職種に就業している転出者が転出先での現在の仕事（雇用）を維持したまま秩父に戻ることは難しいことが推察される。

【在宅勤務の頻度と通勤時間】

図 37、図 38 は就業者（図 29、図 30 の現在の職業を問う設問において学生、専業主婦・主夫、無職と回答した人以外の方）が回答した在宅勤務・リモートワーク状況をグラフとしたものである。

70%以上が在宅勤務・リモートワークを全くしない、またはできないの選択肢を回答している。

図 35、図 36 でも言及したとおり、就業者の業種・職種が大きな要因となっていると考えられる。

これが解決しないと秩父に戻れないと感じる課題の自由意見集約の中では、リモートワークができればとの意見があったが、転出者はリモートワークをしない、またはできない就業形態をとっている。そのため、転出後に転出先での仕事・雇用を維持したまま秩父に戻るという U ターン促進は難易度が高いことがわかる。

図 39 と図 40 は就業者（図 29、図 30 の現在の職業を問う設問において学生、専業主婦・主夫、無職と回答した人以外の方）が回答した現在の職場までのドア to ドアの通勤時間をグラフとしたものである。なお、在宅勤務と通勤のどちらもある方については通勤の場合の時間を回答いただくよう設問にて依頼している。男女ともに 80%程度が 60 分未満までを通勤時間の許容範囲としていることがわかる。

転出先の決定要素として職場までの通勤時間が最も多かったことを踏まえると、転出先で仕事を探しているのではなく、先に仕事が決まり、職場から 1 時間圏内の場所が転出先の候補となっていることが推察される。そのため、転出先自治体（市町村）と秩父市との比較を行うにあたり、転出先自治体の雇用環境と住居環境だけでなく、転出先自治体から 1 時間圏内の近隣自治体の雇用環境も含めた比較を行わなくてはならないことがわかる。

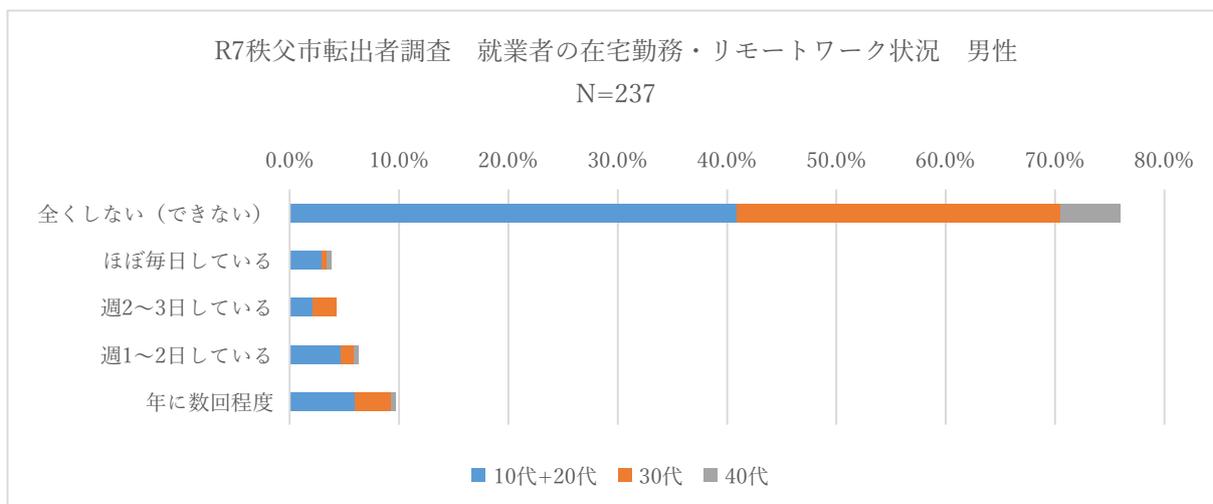


図 37 就業者の在宅勤務・リモートワーク状況 男性

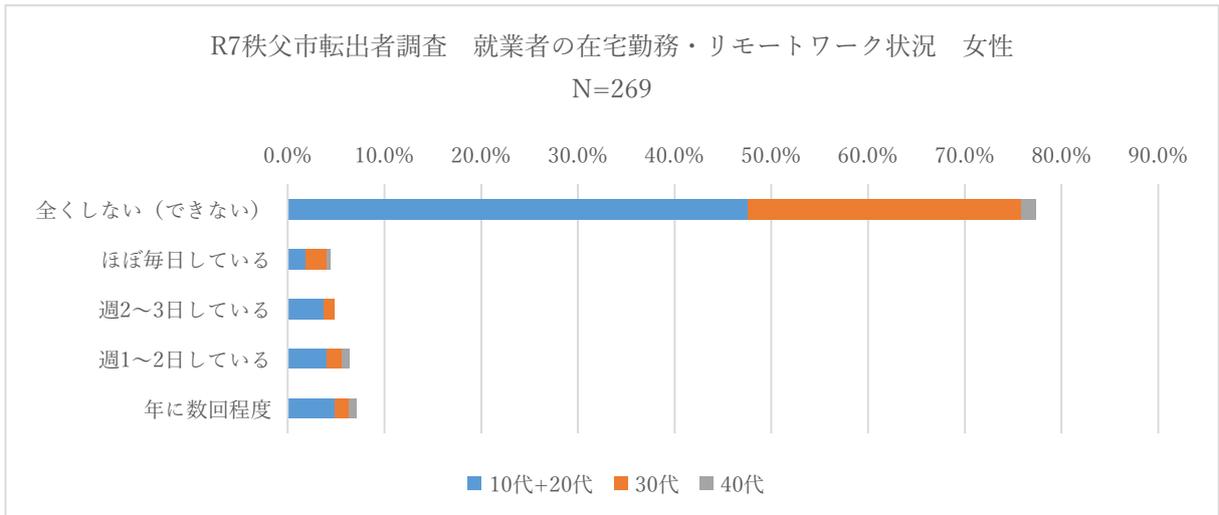


図 38 就業者の在宅勤務・リモートワーク状況 女性

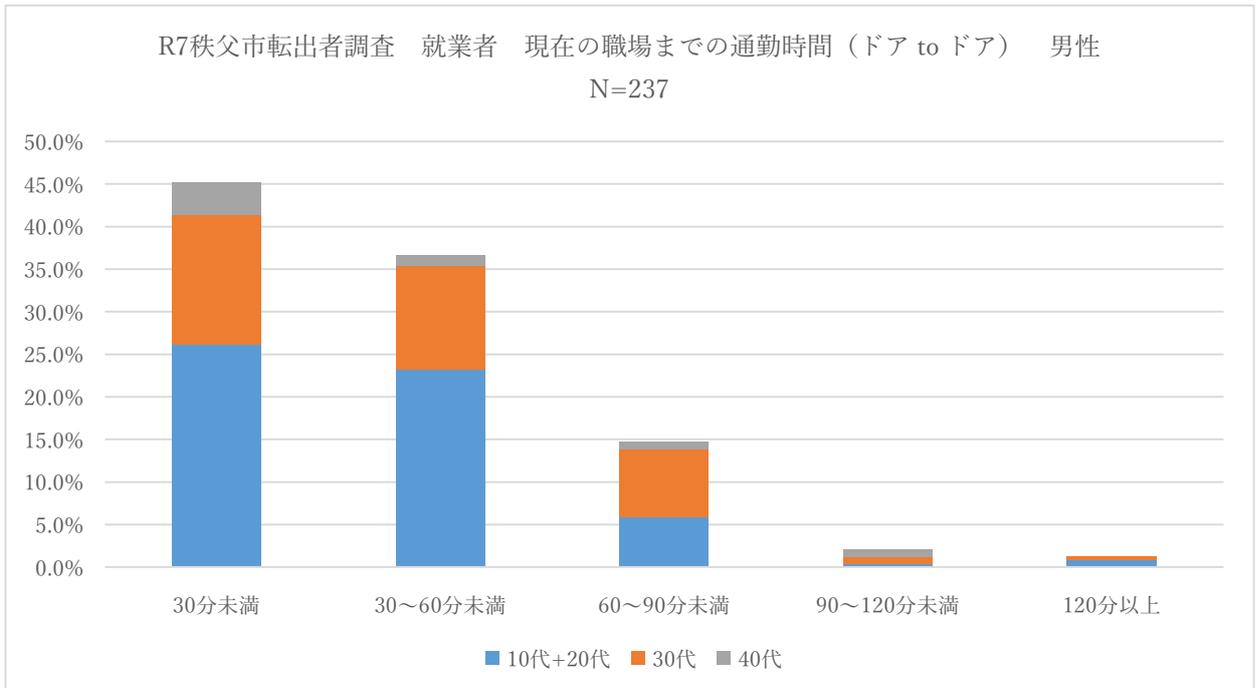


図 39 就業者 現在の職場までの通勤時間 男性

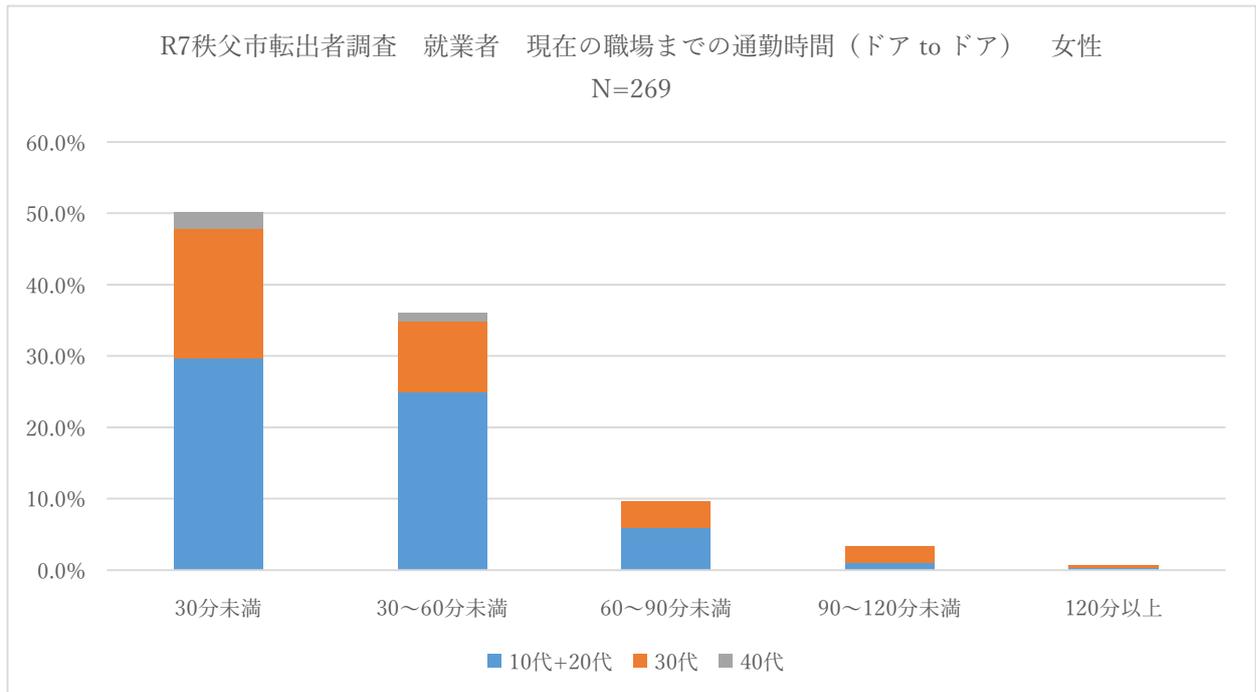


図 40 就業者 現在の職場までの通勤時間 女性

【仕事を選ぶ上で重視すること】

続いて、仕事を選ぶ上で重視する項目についての設問に対する回答を見ていく。設問は、現在働いている方、ならびにこれから働く予定がある方に対し、現在の仕事を選ぶ際、またはこれから仕事を選ぶとして設問で提示する項目をどのくらい重視したかについてを問うた。

設問の中で、1.仕事の内容（業種・営業などの職種）、2.給与・年収の高さ、3.仕事のやりがい（やりたい事・キャリアプランが実現できそうか）、4.仕事をする上での立場・扱いに男女差がなさそうか、という項目については、現在働いている方およびこれから働く予定があるすべての方に対し、各項目ごとに絶対条件、他の条件がよければ我慢・妥協、もともと関心がないという3つの中からそれぞれ1つを選んでいただいた。

また被雇用者（現在の職業を問う設問において自営業と回答した方を除外したすべての方）に対しては更に、5.会社の規模が大きい・従業員数が多い、6.年間休日や福利厚生の実充実、7.通勤時間の短さ、8.安定した会社であること（※設問にて「安定：社員の定着率が高い、経済不況などに影響されなさそうで経営基盤や業績が安定している、仕事量に無理がなさそう、など」と定義）、という4設問についても各項目ごとに絶対条件、他の条件がよければ我慢・妥協、もともと関心がないという3つの中からそれぞれ1つを選んでいただいた。

まずは設問ごとの回答状況を見ていく。

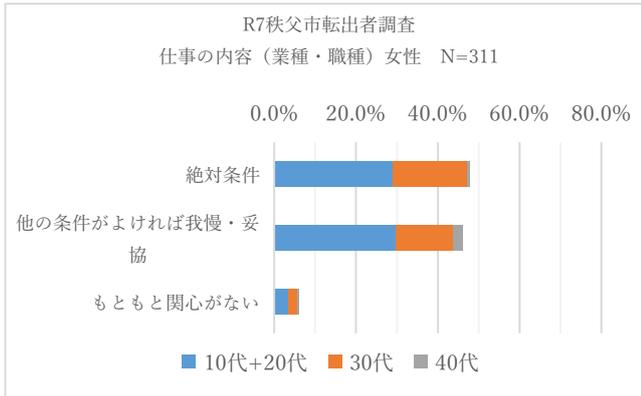


図 41 仕事の内容 男性

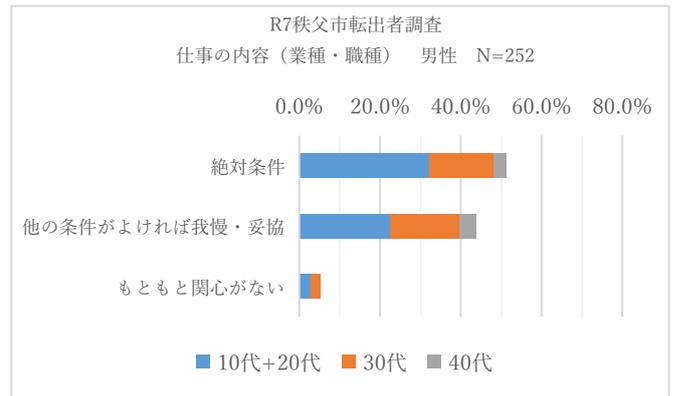


図 42 仕事の内容 女性

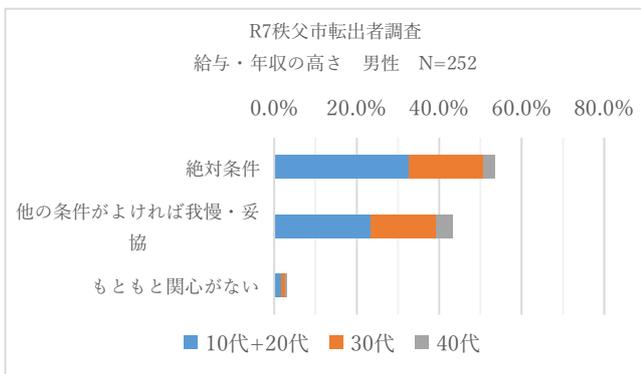


図 43 給与・年収の高さ 男性

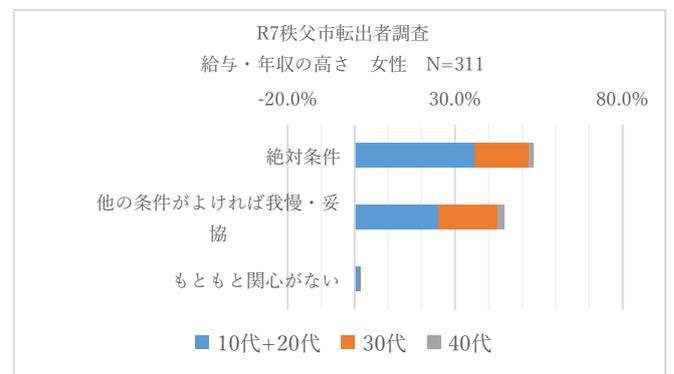


図 44 給与・年収の高さ 女性

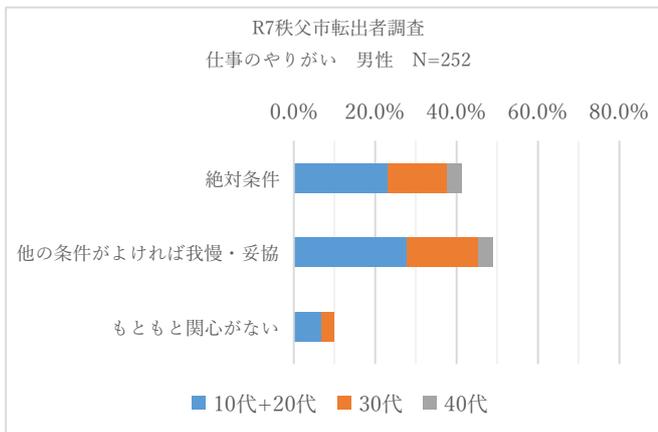


図 45 仕事のやりがい 男性

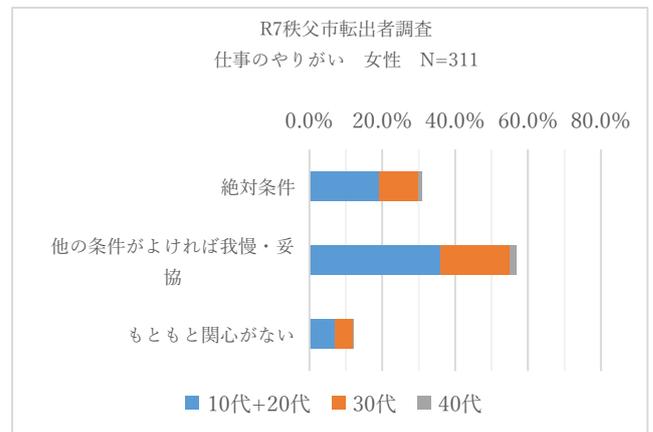


図 46 仕事のやりがい 女性

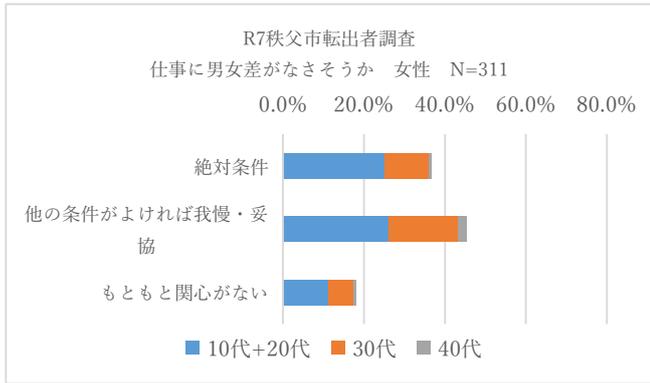


図 47 仕事に男女差がなさそうか 男性

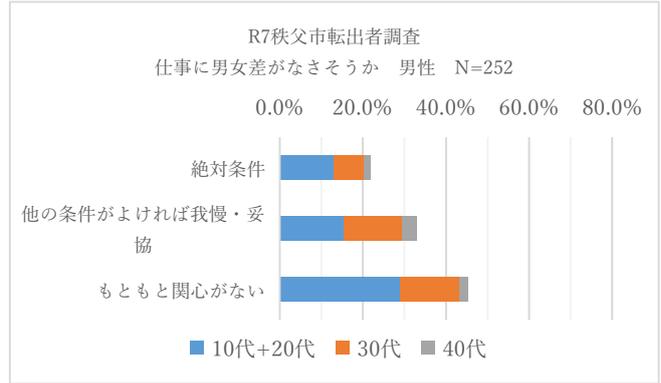


図 48 仕事に男女差がなさそうか 女性

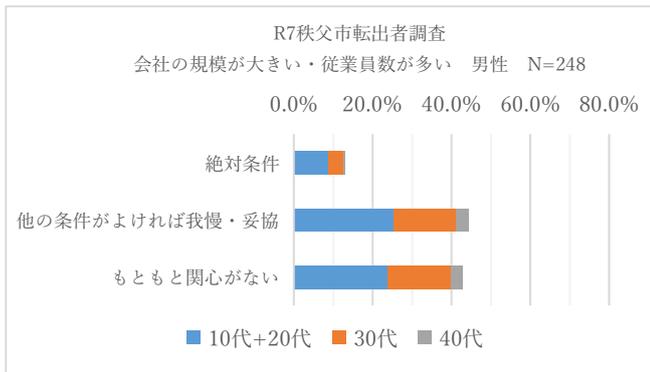


図 49 会社の規模が大きい・従業員数が多い 男性

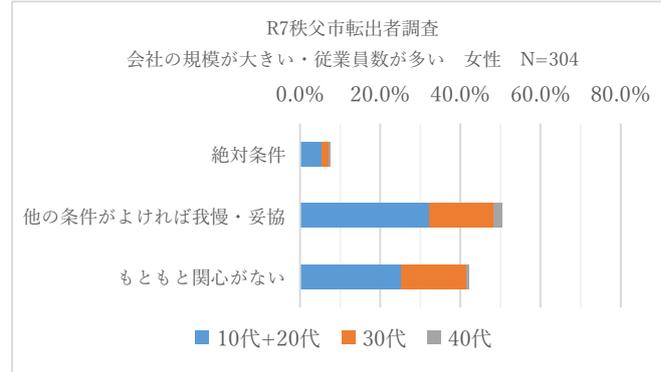


図 50 会社の規模が大きい・従業員数が多い 女性

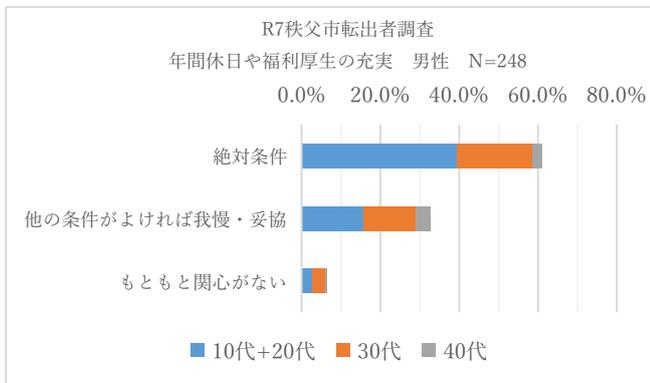


図 51 年間休日や福利厚生 of 充実 男性

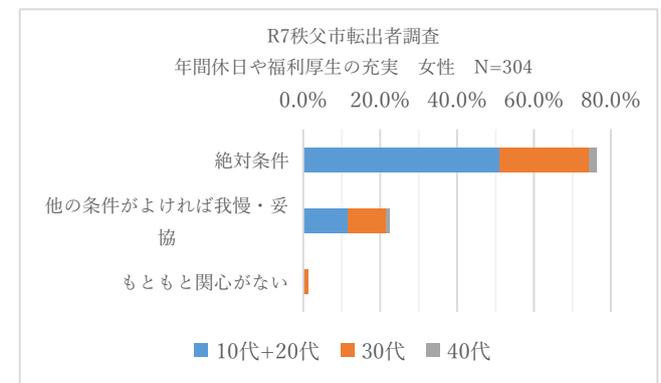


図 52 年間休日や福利厚生 of 充実 女性

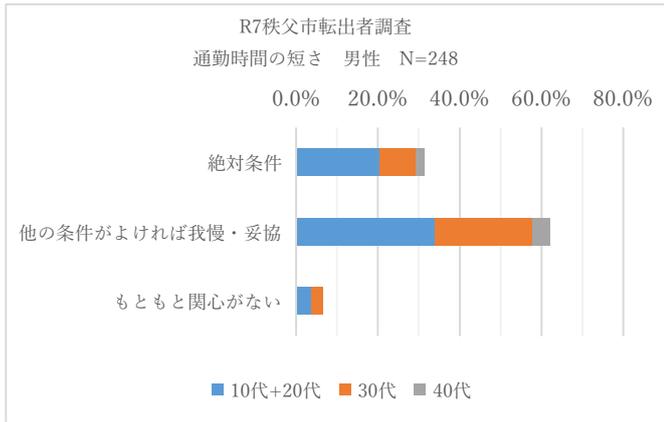


図 53 通勤時間の長さ 男性

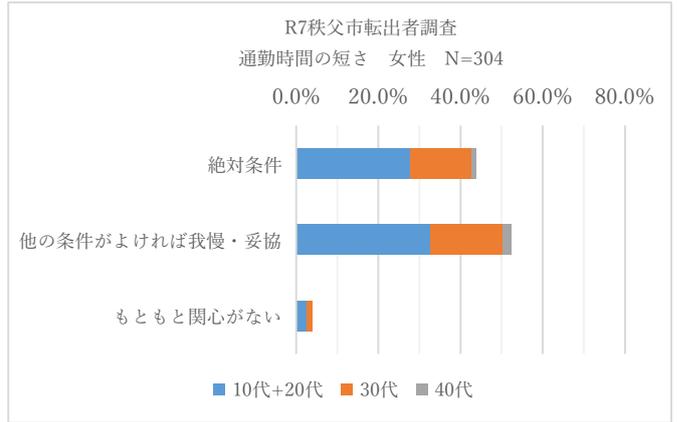


図 54 通勤時間の長さ 女性

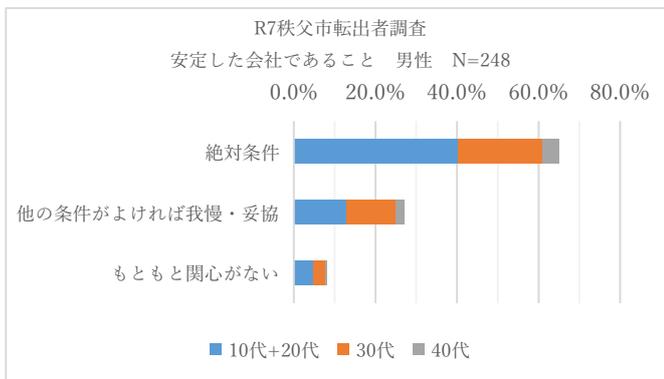


図 55 安定した会社であること 男性

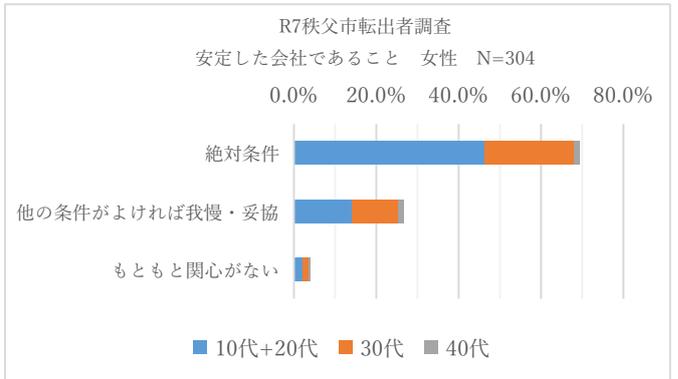


図 56 安定した会社であること 女性

図 41 から図 56 は設問ごとの回答をグラフにしたものである。年間休日や福利厚生充実、安定した会社であることを絶対条件としている方が多いことがわかる。

絶対条件、ほかの条件が良ければ我慢・妥協、もともと関心がない、の3つのカテゴリに分けて分類しなおすと以下となる。

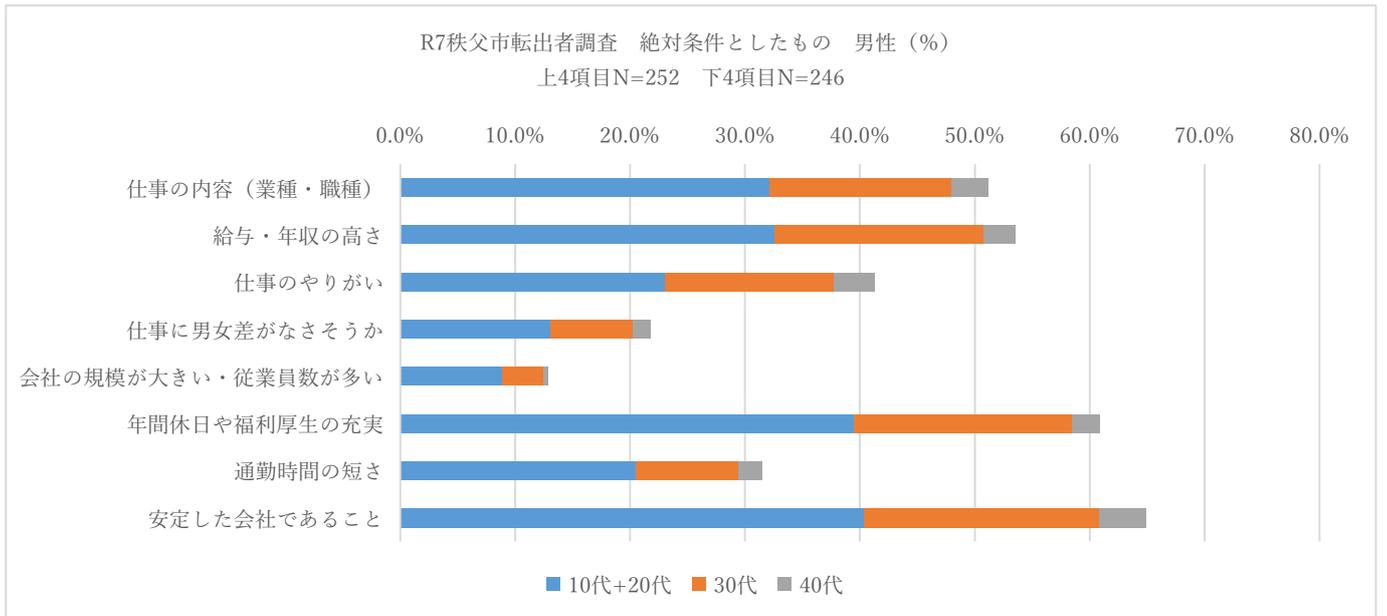


図 57 絶対条件 項目別選択者数割合 男性

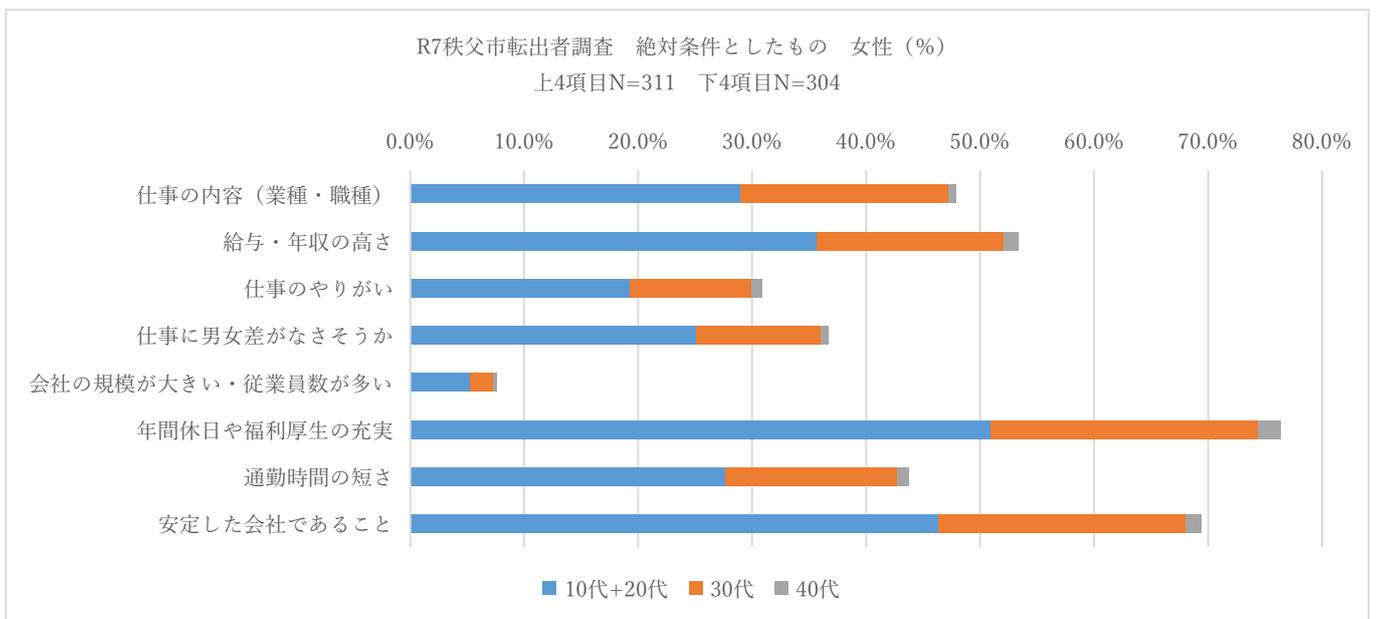


図 58 絶対条件 項目別選択者数割合 女性

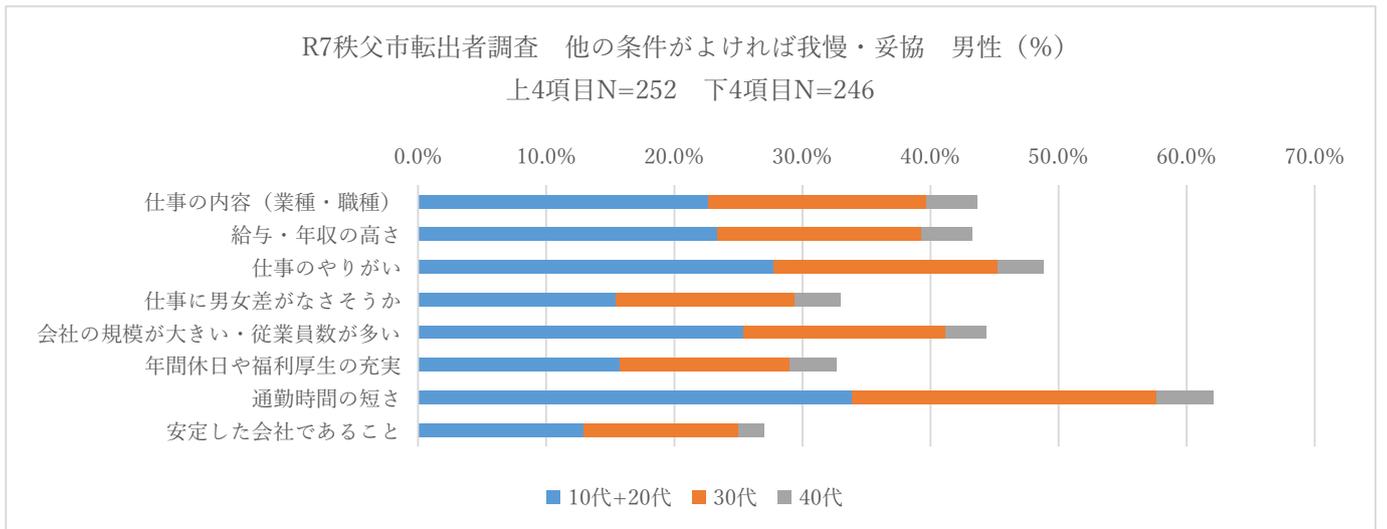


図 59 他の条件がよければ我慢・妥協 項目別選択者数割合 男性

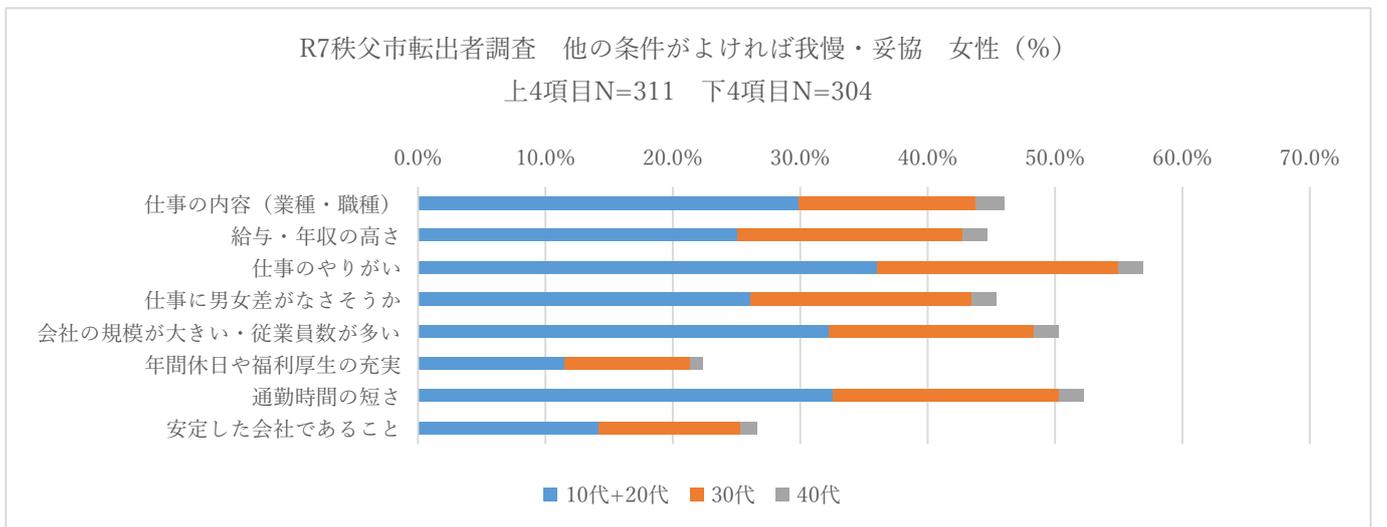


図 60 他の条件がよければ我慢・妥協 項目別選択者数割合 女性

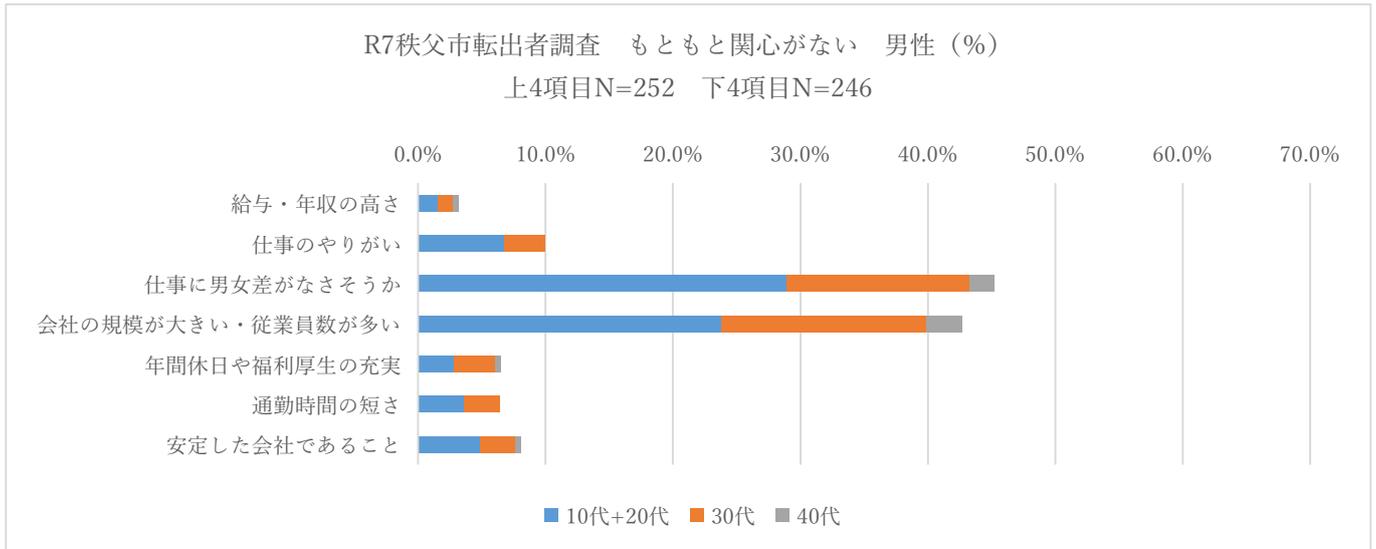


図 61 もともと関心がない 項目別選択者数割合 男性

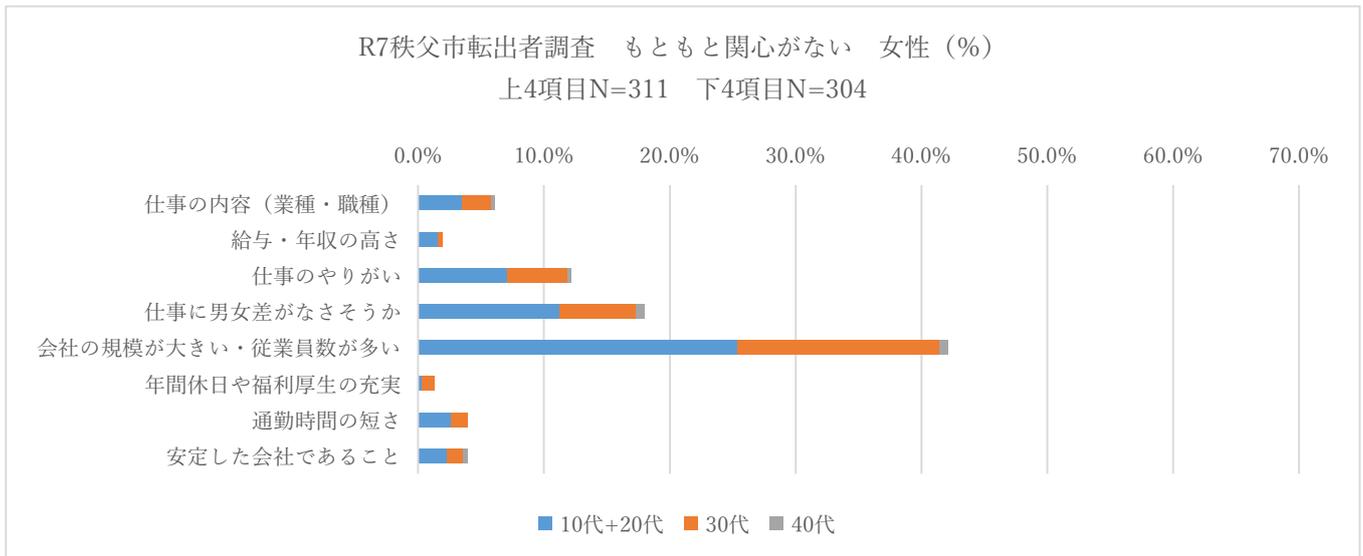


図 62 もともと関心がない 項目別選択者数割合 女性

図 57 から図 62 は回答の選択肢別に、各設問の回答数を 100 とし、各項目を選択した人の割合をグラフにしたものである。図 57、図 59 にて絶対条件として選ばれた設問を見ると年間休日や福利厚生が充実、安定した会社であること、次いで仕事の内容、給与と続いている。

設問内で安定を「社員の定着率が高い、経済不況などに影響されなさそうで経営基盤や業績が安定している、仕事量に無理がなさそう、など」と定義したことを踏まえ、長期的に働くことができることを重視している傾向があると推察できる。

給与については男女ともに約 50%の方が絶対条件としている一方、他の条件がよければ我慢・妥協できると回答している方も男女ともに約 40%程度見られた。一方でこれが解決しないと秩父に戻れないと感じる課題の中では給与が課題であるという意見が多かったことを踏まえ、転出者の年収を男女年代別で見えていく。

【年収】

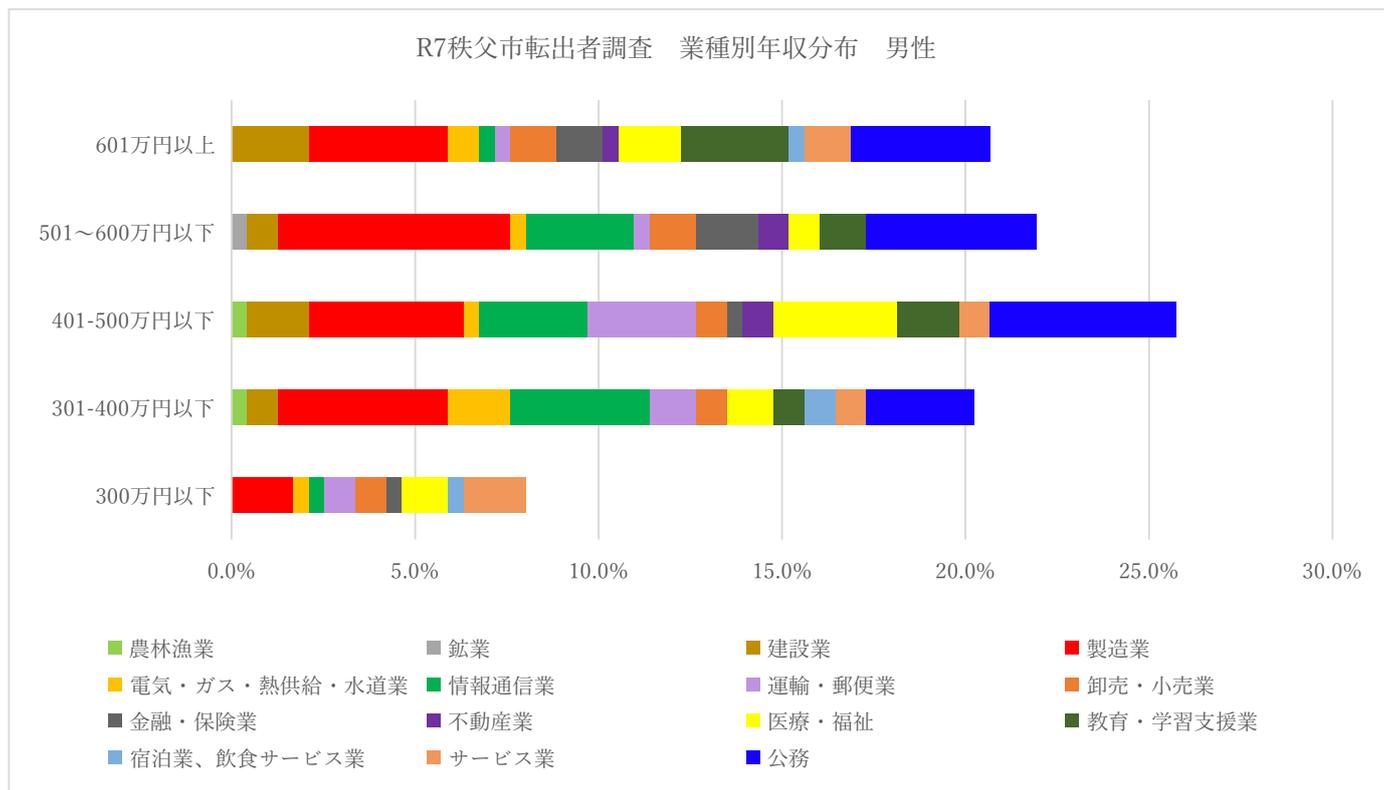


図 63 業種別年収分布 男性

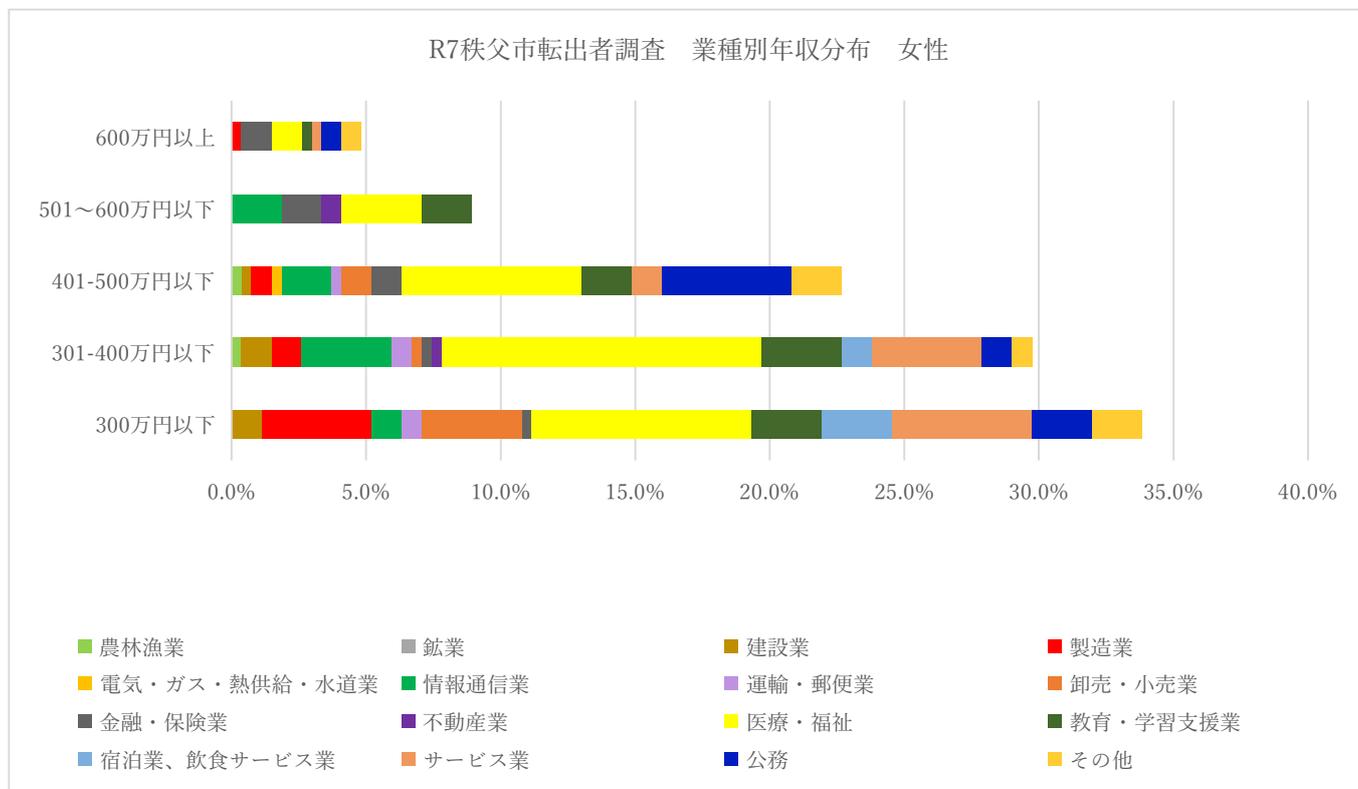


図 64 業種別年収分布 女性

図 63、図 64 は転出者の年収分布をグラフにしたものである。農林業など母数が少ないものについては統計上の母数が十分ではないことを踏まえ参考値としてみる必要があるため、製造業、医療・福祉、公務を中心として見ることを前提として作成した。

男女の間では明確に年収の差があるが、公務においては男女ともに最頻値は 401-500 万円以下である。

男性の製造業では年収最頻値は 501～600 万円以下である。女性の医療・福祉では最頻値は 301-400 万円である。301-400 万円は秩父市立病院給与水準と同様であることを踏まえると、医療・福祉に就業する女性の転出においては給与以外の要素が大きいことが推察される。また、公務を選択する女性が多いことについても、安定を優先する回答が多いことと給与との関連により選択されているのではないかと推察される。

(8) 初めての就職時の選択行動

秩父市内には大学がないことから、大学進学後の初めての就職時に秩父を選んでいるのかという疑問、および高校卒業後の就職について秩父市内企業からは高卒採用確保の困難という課題があることを踏まえ、最後の学校を卒業または中退し始めての就職を行う時（以下、初職選択時）の転出者の行動について見ていく。

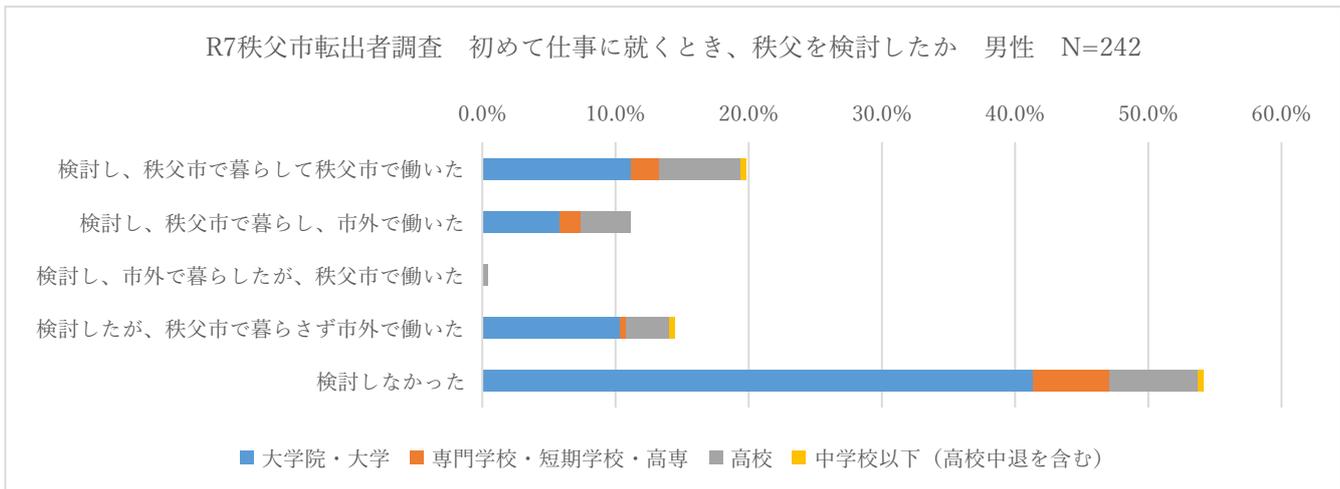


図 65 最後に卒業した学校別 初職選択時の検討状況 男性

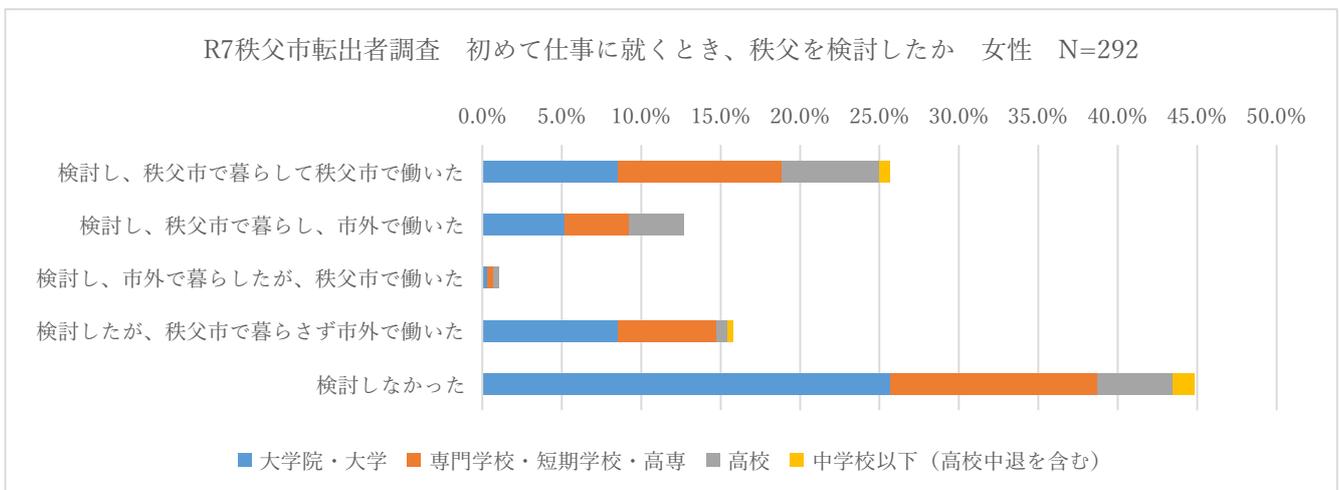


図 66 最後に卒業した学校別 初職選択時の検討状況 女性

図 65、図 66 は最後に卒業した学校別の初職選択時の秩父への就職、および居住の検討状況を男女別にグラフにしたものである。最後に卒業した学校については、設問にて専門学校や大学を中退した場合は高校、といったように、卒業したものを回答していただいているため、高校卒業者が高卒就職者とイコールとはならないことに留意いただきたい。

男性では 50%以上が秩父市での就職、居住を検討しなかったが、30%程度が秩父市での居住を選択している。女性では 45%程度が秩父市での就職、居住を検討しなかったが、男性よりも多い 35%以上が秩父市での就職・居住を選択していた。一方、選択をしたが転出してしまっているという結果については転出理由と併せて考えていかなければならない課題である。

続いて、初職選択時に影響を受けた相手について見ていく。

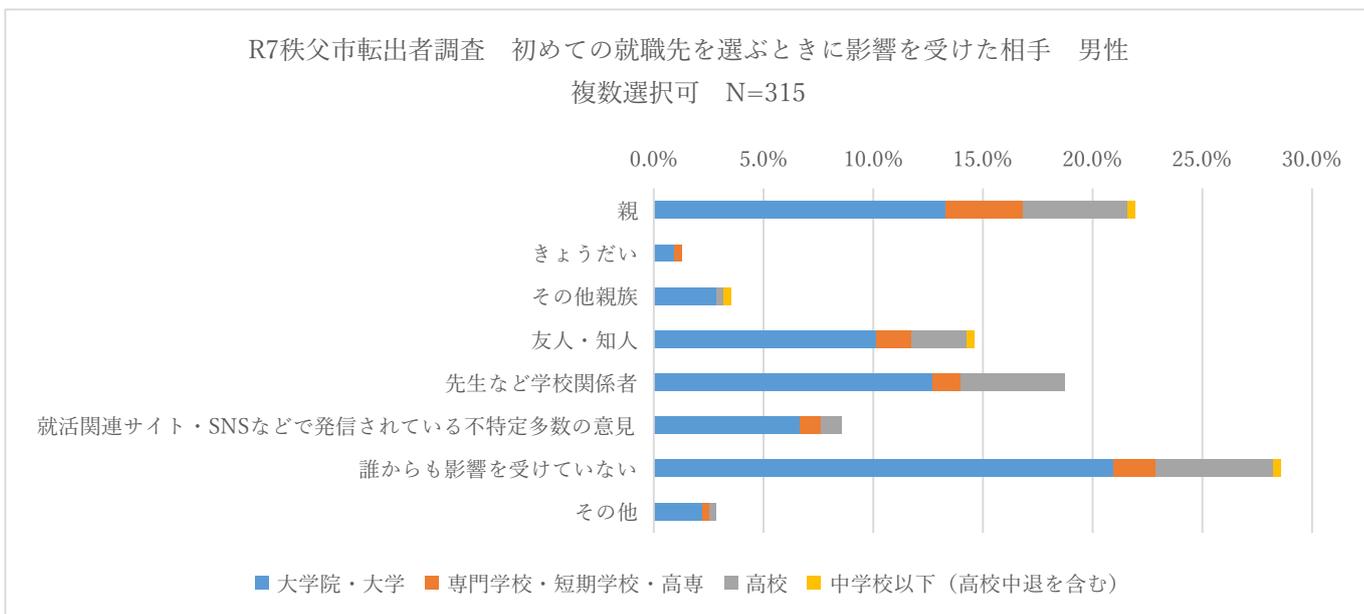


図 67 初職選択時に影響を受けた相手 最終学歴別 男性

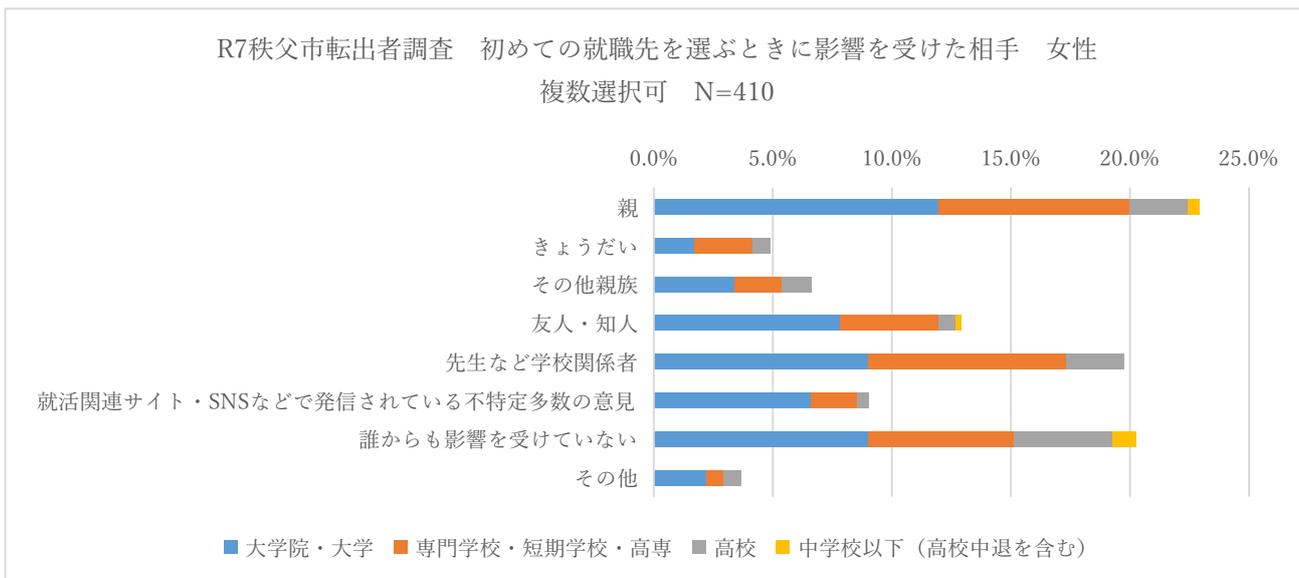


図 68 初職選択時に影響を受けた相手 最終学歴別 女性

図 67 と図 68 は初職選択時に誰かから影響を受けたかという設問に対する回答を最終学歴別にグラフにしたものである。男性は誰からも影響を受けていないという回答が約 28%と一番多く、次点に親からの影響が 20%程度みられる。女性は親からの影響が約 23%と大きい、男性と同様誰からも影響を受けていないという方が 20%程度であった。秩父市住民である親からの影響が一定数見込まれることを踏まえると、学校や生徒に対しての働きかけだけでなく、住民に対しても市の雇用対策を訴求する必要があることがわかる。

(9) 初職選択時に秩父で働くことを検討したかに関する自由記述

初職選択時での秩父を検討したかどうかの選択の理由について自由意見にて聞き取りを行っているため、要約を掲載する。なお、初職選択当時の検討理由であるため、年代は分けられないものとした。また、「市外で暮らしたが、秩父市で働いた」を選択した方のうち、理由の回答件数が 4 件と少なく、男女別とすると母数が極端に少なくなるケースがあることから、男女では分けずに自由意見の集約を行っている。

①初職選択時に秩父で暮らすことを検討し、秩父市で暮らして秩父市で働いた理由（約 93 件）

要因	件数	多く見られたキーワード
勤務地・配属先の影響	35 件	職場が秩父市だった、秩父の職場に配属された、内定先が秩父だった
実家・家庭環境	29 件	実家から通える、親元で暮らしたかった、家族がいる
郷土愛・定住意識	12 件	秩父が好き、地元に残りたかった、出る考えがなかった
経済的理由	11 件	お金を貯めるため、資金不足、1 人暮らしはきつい
利便性・その他	6 件	通勤時間の短縮、障害があり選択肢がなかった

②初職選択時、秩父で暮らすことを検討し、秩父市で暮らし、市外で働いた理由（約 80 件）

要因	件数	多く見られたキーワード
通勤可能範囲	20 件	通える距離だった、許容範囲だった、車で通えた
経済的理由（貯金等）	16 件	1 人暮らしの資金不足、生活費を安く済ませ、貯金のため
市内での仕事不足	6 件	市内に希望職種がない、就職先が市内に店舗をもっていなかった

③初職選択時、秩父で暮らすことを検討し、市外で暮らしたが、秩父市で働いた理由（約 4 件）

要因	件数	多く見られたキーワード
勤務条件・居住環境	4 件	勤務先が決まっていた、1 人暮らしは大変、通勤時間、実家（市外）から通える

④初職選択時、秩父で暮らすことを検討しなかった理由（約 153 件）

要因	件数	多く見られたキーワード
地理的・通勤上の制約	48 件	職場から遠い、通勤不可能・困難、不便
仕事の選択肢・機会	34 件	やりたい仕事がない、求人がない、賃金が低い
関心の欠如	25 件	検討する考えがなかった、関心がない・興味がない、特に理由なし・特になし、眼中に無かった
自立・都会志向	21 件	都会・都内で働きたかった、一人暮らし・自立を経験したかった
制度・配属上の都合	18 件	配属地を選べなかった・居住地が指定されていた、寮・社宅があった、奨学金制度の関係

(10) 自由意見の集約（仕事を選ぶ際に重視する項目、秩父で働くイメージ）

そのほか、自由記述回答にて、選択肢以外での仕事を選ぶ際に重視する項目、秩父で働くイメージについても聞き取りを行っているため、要約を掲載する。

①仕事を選ぶ際に重視する項目

性別・年代	多く見られたキーワード	件数	要因
10代・20代女性	人間関係・雰囲気	11件	良好な人間関係、パワハラのない、相談のしやすさ
	給与・年収・手当	9件	手取り額、昇給、生活水準の維持、通勤手当の満額支給
	休日・有給・ワークライフバランス	9件	年間休日の多さ、有給の取りやすさ、プライベートの両立
	キャリア・将来性	6件	キャリアプランの実現、専門職、安定性、将来性
	通勤・立地・環境	5件	通勤時間の短さ、駐車場の利便性、建物の綺麗さ
10代・20代男性	仕事内容・志・やりがい	7件	やりたいことができるか、志の維持、資格活用
	給与・年収・昇給	4件	給与額の妥当性、定期的な昇給、年収の高さ
	人間関係・環境	4件	人間関係、相談しやすい環境、職場環境
	休日・残業の少なさ	3件	休日日数、残業時間の少なさ、日勤勤務
	安定性・知名度	3件	会社が潰れないか、社会的知名度、有名な所
30代女性	人間関係・雰囲気	12件	風通しの良さ、上司とのコミュニケーション、ストレスのなさ
	給与・賞与・手当	10件	適当な給料、賞与の有無、残業代の支給、手取り額
	休日・有給・ワークライフバランス	10件	年休、土日休み、有休消化率、拘束時間の短さ
	育児との両立・理解	4件	急な欠勤への対応、子育てのしやすさ、育休取得状況
	リモート・副業・自由	4件	在宅勤務、副業可否、縛られない働き方
30代男性	人間関係・雰囲気	6件	従業員や上司の質、風通しの良さ、ハラスメントのなさ
	給与・年収・昇給	4件	収入の多さ、昇給、学歴に見合う賃金
	休日・余暇・福利厚生	3件	休みの取りやすさ、趣味やプライベートの重視
	通勤・立地	2件	通勤時間の短さ
	リモート・副業	2件	在宅勤務の可否、副業ができるか
40代女性	社会貢献・地域性	1件	土地ならではの仕事、社会貢献度の高さ
	専門職種	2件	特定の専門技術を要する医療職
40代男性	人間関係・働きやすさ	2件	上司や従業員の質、過度なストレスがないか
	給与・賃金	2件	自分に見合う賃金、給与額
	仕事内容・やりがい	2件	やりがい、職種の内容
	通勤・自宅との距離	2件	駆けつけられる距離、通勤のしやすさ
	安定性・継続性	1件	障害者採用での継続性

②秩父で働くイメージ

秩父市で働いたことがあるかどうかにて分類を行った。

【秩父市内で働いたことがある方のイメージ】

(対象：秩父市に住んで働いた方および市外に住んで市内で働いた方)

キーワード	性別	件数	要因・理由
給与・賃金が低い	女性	8件	実体験として、残業代が出ない、昇給が望めない、生活基盤を固めるには不十分と感ずるため。
	男性	6件	東京や他市町村と比較して給与水準が低く、共働きでないと厳しいと感ずるため。
人間関係の濃さ・閉鎖性	女性	7件	知り合いが多くて嫌、いじめがある、社長のワンマン体制や古い慣習が残っているため。
	男性	4件	コミュニティが狭く関わる人が限定される、外から入りにくい雰囲気を感じるため。
地域密着・アットホーム	女性	5件	地元で働く安心感がある、人が温かく穏やかな環境で働けるため。
	男性	5件	生まれ育った町を良くしたい、地域に貢献している実感を得やすいため。
職種の選択肢が少ない	女性	4件	製造業や医療福祉に偏っており、自分のやりたい仕事や専門職がないため。
	男性	3件	製造業が中心で、IT系やクリエイティブな職種、大手企業が少ないため。

【秩父市内で働いたことがない方のイメージ】

(対象：秩父市に住んだが市外で働いた方、および検討しなかった方)

キーワード	性別	件数	要因・理由
賃金・年収が低い	女性	25件	都市部（東京等）と比べて明らかに手取りが少なく、キャリアアップのメリットが薄いため。
	男性	18件	安定した給料をいただけるところが少ない、十分な収入を得られない印象があるため。
職種・企業選択の幅が狭い	女性	21件	サービス業や工場、公務員しかなく、専門的なスキル（SE、広告、事務等）を活かせる場がないため。
	男性	15件	大手企業やIT企業がなく、業種が限定的。やりたいことが秩父の外にしかないため。
閉鎖的・人間関係への懸念	女性	16件	田舎特有の閉鎖感、噂が広まりやすい、知り合いだらけでプライベートとの境がない不安。
	男性	11件	情報も人間も閉鎖的、上司の言うことが絶対という古い文化が残っているようなイメージ。
車通勤が必須	女性	9件	免許がないと選択肢が狭まる、ガソリン代や冬の運転が負担になるイメージ。
	男性	5件	交通の便が悪く、公共交通機関での通勤が現実的ではないと感ずるため。

人間関係についてはポジティブな意見もみられる一方、ネガティブな意見も見られた。

これが解決しないと秩父に戻れないと感ずる課題の自由意見の集約の中でも、地域に根付く価値観への言及や閉鎖性への指摘があったことから、地域のコミュニティとの関係については一定の課題として認識されていることがわかる。

(11) 日頃の情報収集方法と転出後の秩父との接点

転出し、戻りたい方に対しての情報発信という観点、および秩父市雇用対策協議会の中でもSNSによる求職者への情報発信という取り組みがあることを踏まえ、「普段どのような媒体から情報を得ていますか。日常

的に利用しているものをすべて選択してください（※「特に情報を求めているなくても日常的に見る媒体」も含んでお答えください。）という設問、および「秩父市を離れた後、秩父市の情報やコミュニティに接する機会がどのくらいありますか？」という設問を設け、回答していただいた。

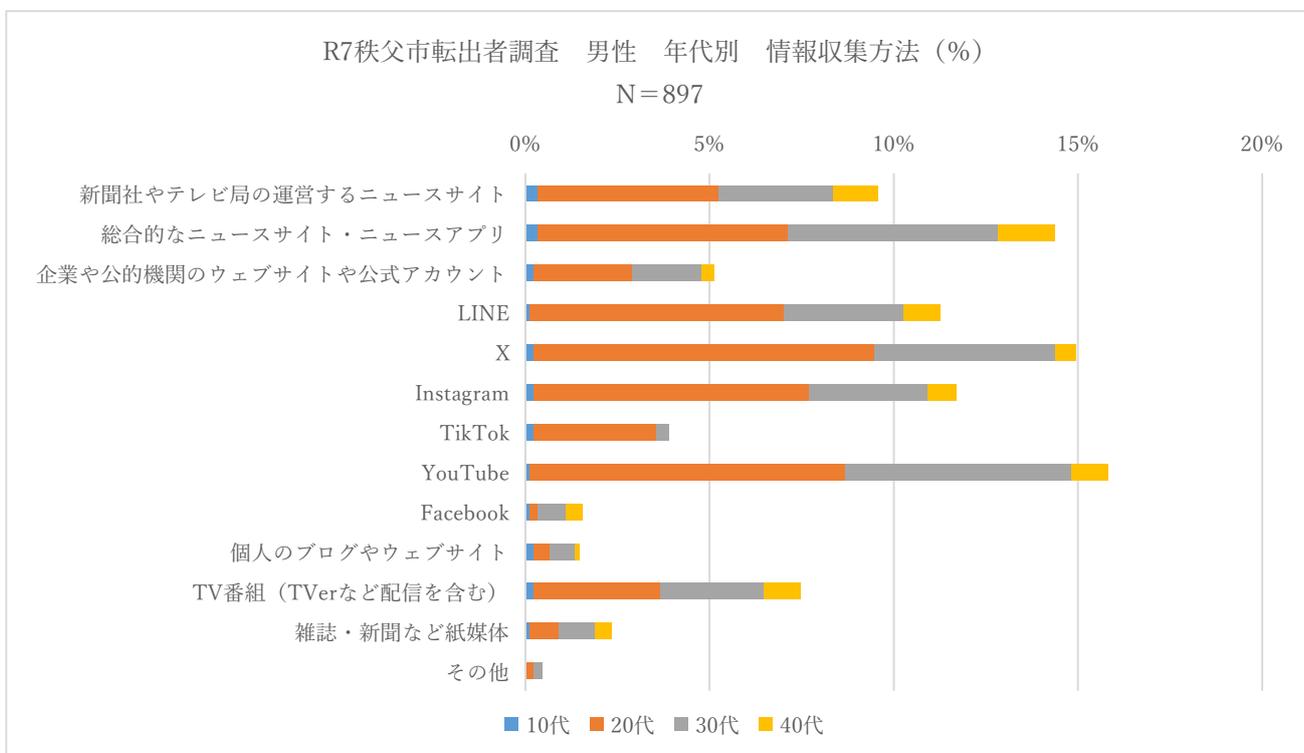


図 69 普段の情報収集方法 男性

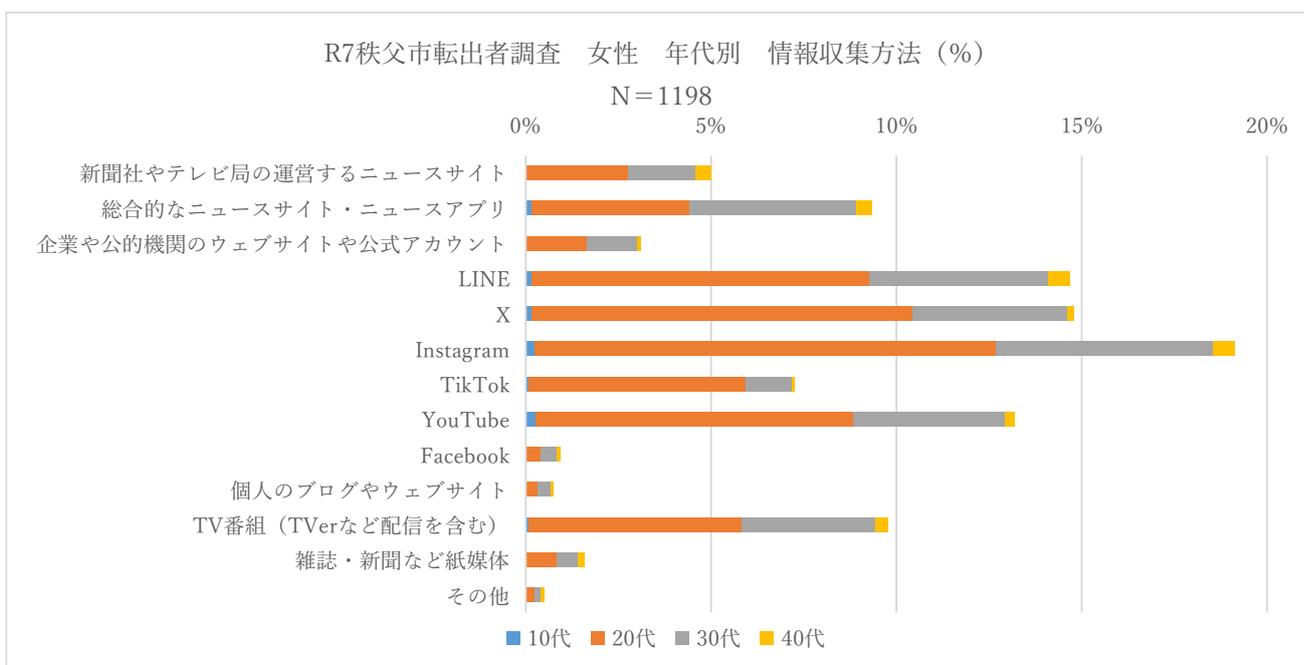


図 70 普段の情報収集方法 女性

図 69、図 70 は男女年代別の情報収集方法への回答についてグラフにしたものである。男性では若年層で

YouTube、X、ニュースサイトやニュースアプリ、女性ではInstagram、X、LINEでの情報収集が行われている。YouTube、X、Instagramで共通するものとして、ショート動画などの短い動画や短い投稿が多いことがある。また、興味関心を持って検索をした単語等に関連した情報をサジェストされることもあることから、情報発信をInstagram、YouTube、X等で頻度を高くし多く行うことは有効ではないかと推察される。

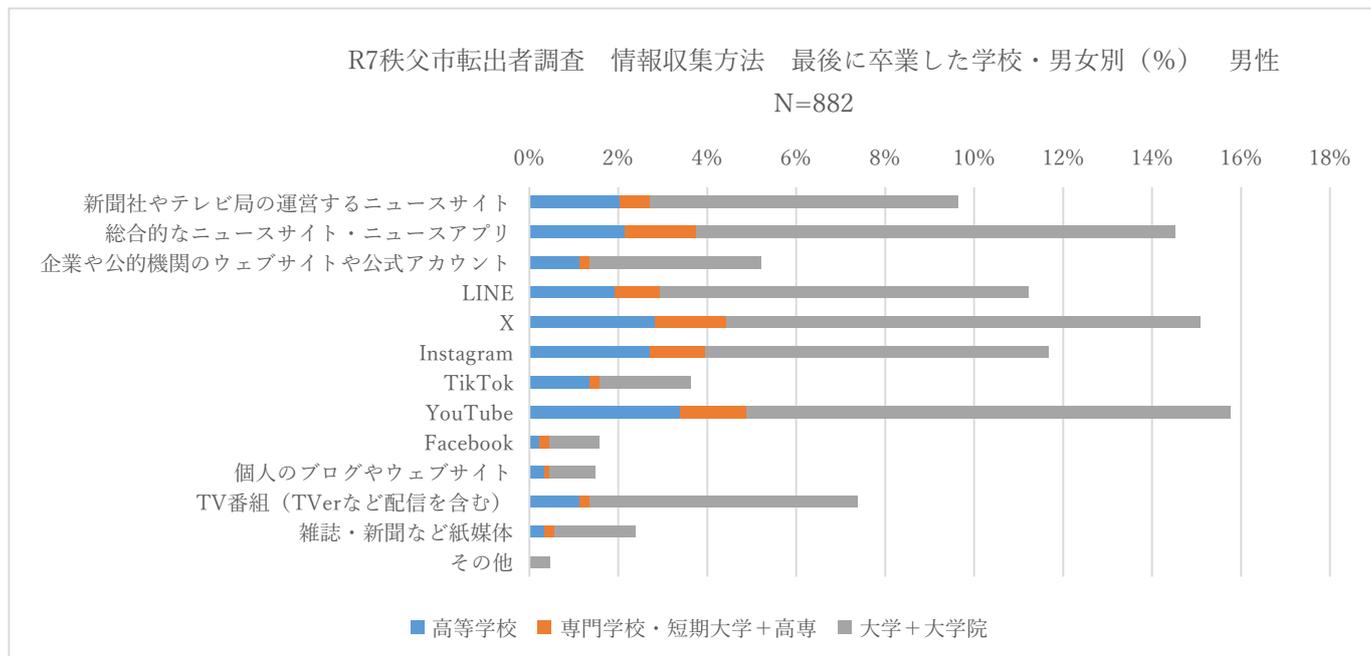


図 71 最後に卒業した学校別 情報収集方法 男性

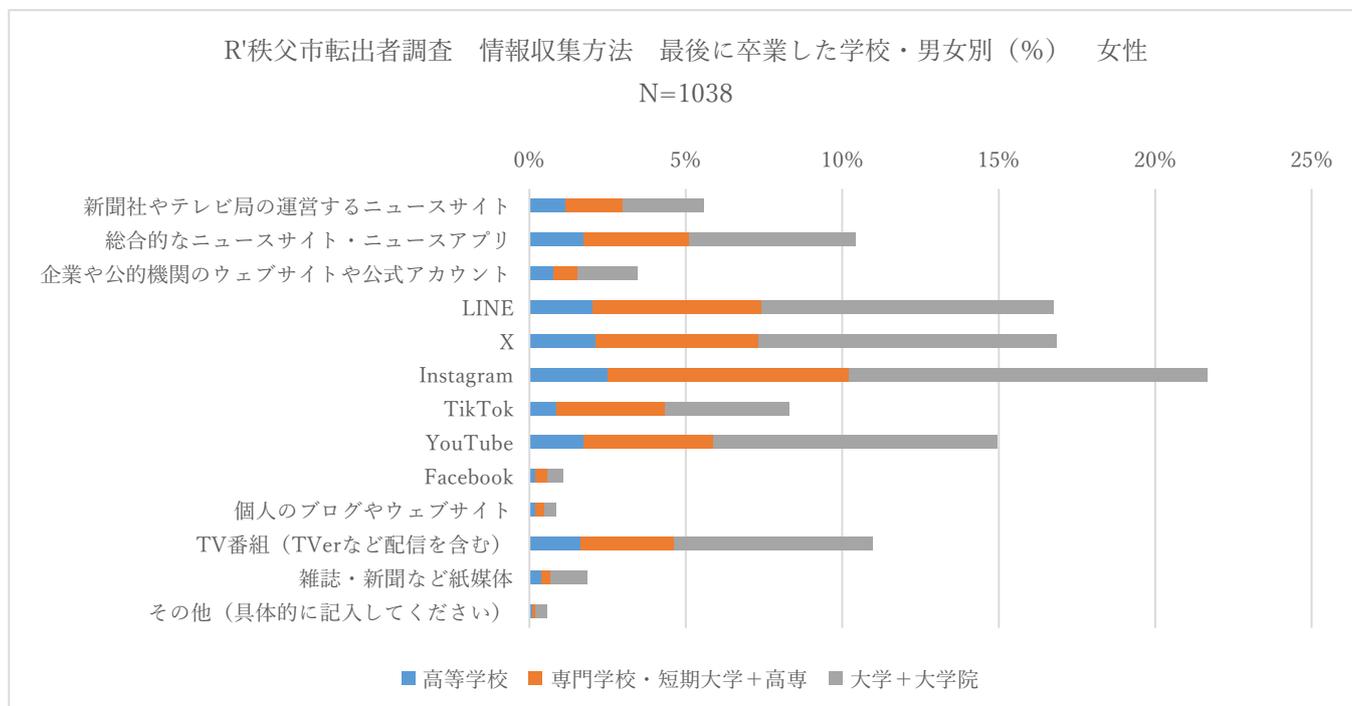


図 72 最後に卒業した学校別 情報収集方法 女性

図 71、図 72 は最後に卒業した学校別での情報収集方法をグラフとしたものである。雇用対策協議会では高卒

採用の確保に苦慮していることを踏まえ、最後に卒業した学校別で情報収集方法の傾向が異なるかもグラフとした。なお、グラフにするにあたり中学校以下のカテゴリ（高校中退者も含む）については、母数が少なくなることから除外している。傾向として、最後に卒業した学校が高校である場合、男性はYouTube、X、Instagram、女性はInstagram、X、LINEと、男性のみ全体的な傾向とは異なる傾向が出ていることがわかる。

女性においては最後に卒業した学校のカテゴリにかかわらずInstagramでの情報収集が多く、男性においてもYouTubeが同様に最後に卒業した学校のカテゴリにかかわらず最多であった。

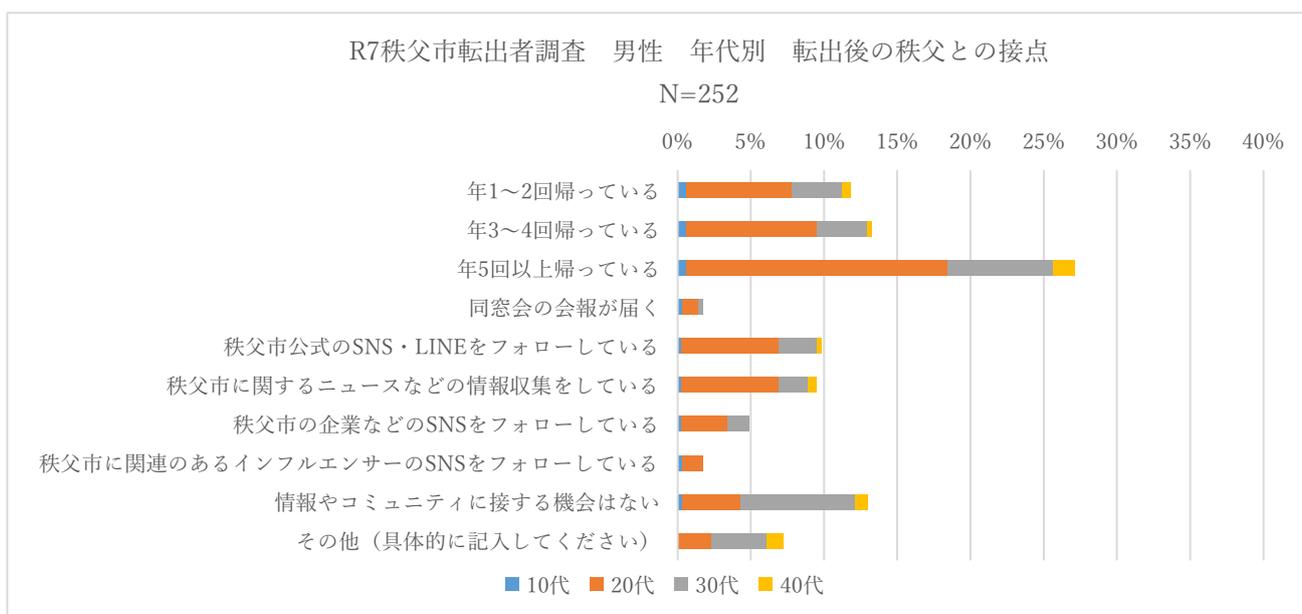


図 73 転出後の秩父との接点 男性

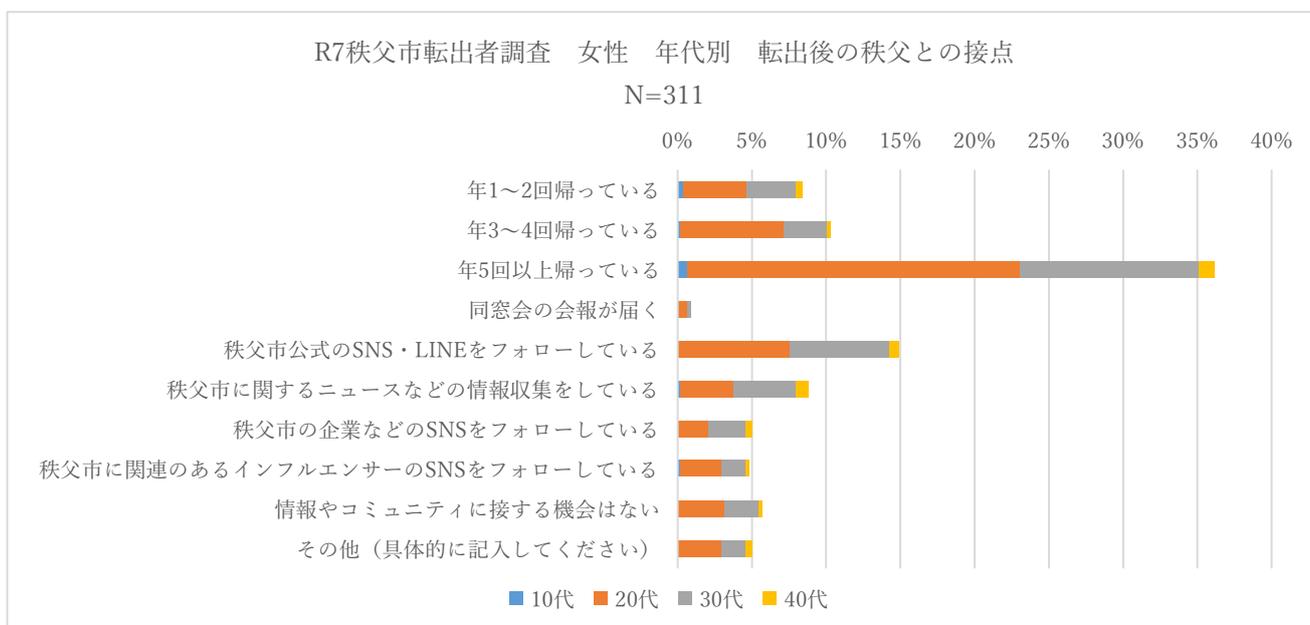


図 74 転出後の秩父との接点 女性

秩父市では現在公式アカウントとして、Xに秩父市公式アカウントおよび観光課公式アカウント、

Instagram に秩父市観光課公式アカウント、LINE に秩父市公式アカウントがあり、情報発信を行っている。秩父市から転出した後の秩父市の情報やコミュニティにどのように接しているかについても調査した。図 73、図 74 は転出者が回答した転出後の秩父との接点についてグラフにしたものである。年 5 回以上秩父に帰ってきている方が男性 25%超、女性は 35%超と最多であった。男性よりも女性のほうが秩父の情報に接している割合が高い。帰還意向においても戻りたいが戻れないと答えた割合は男性より女性のほうが多かったことを踏まえると、女性は秩父に対し関心を示しているが、環境が要因となり戻ることができていない状況が推察される。

(12) 結婚

ここまで、転出者調査として社会減に注視してきたが、市内への転入者増と同時に重要となってくる項目として出生数の増加がある。結婚および子供を産むこと、子供を育てることは個人の選択であり行政が介入するものではないが、結婚および子供を産むこと、子供を育てることを希望する方が希望を叶えられるための支援は行政の役割が大きい。そのため、令和 7 年度転出者調査の中では、結婚・子育てについての設問も設け、転出された方がどのようなライフプランを希望しているのかを調査した。

【埼玉県保健統計年報からみる秩父市の状況】

調査結果の報告にさきがけ、まずは国・県の統計を用いて市内の状況を見ていく。

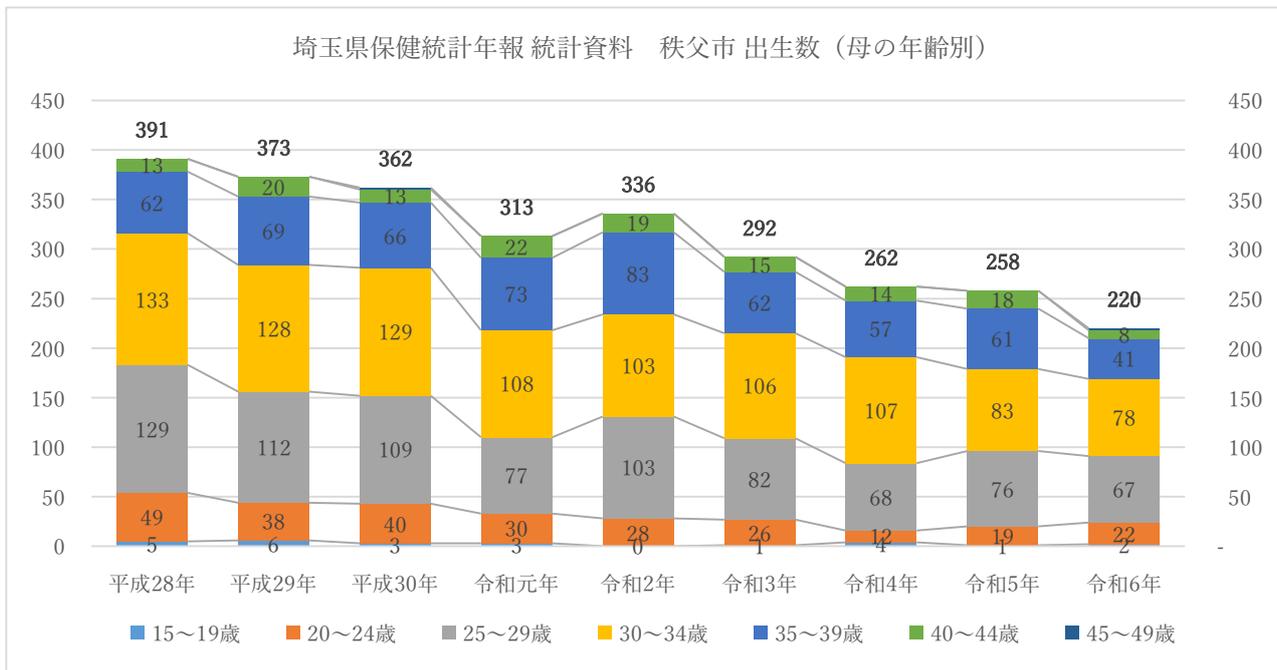


図 75 秩父市出生数推移 母の年齢別（埼玉県保健統計年報）

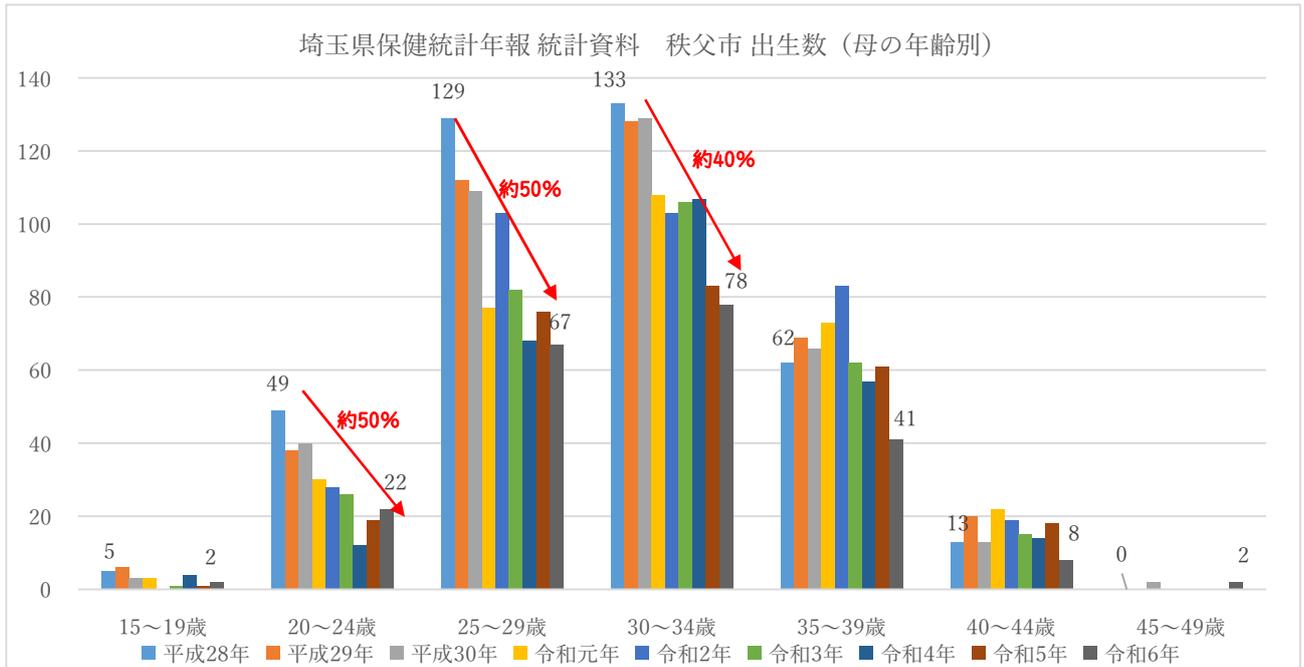


図 76 秩父市出生数推移 母の年齢別（埼玉県保健統計年報）

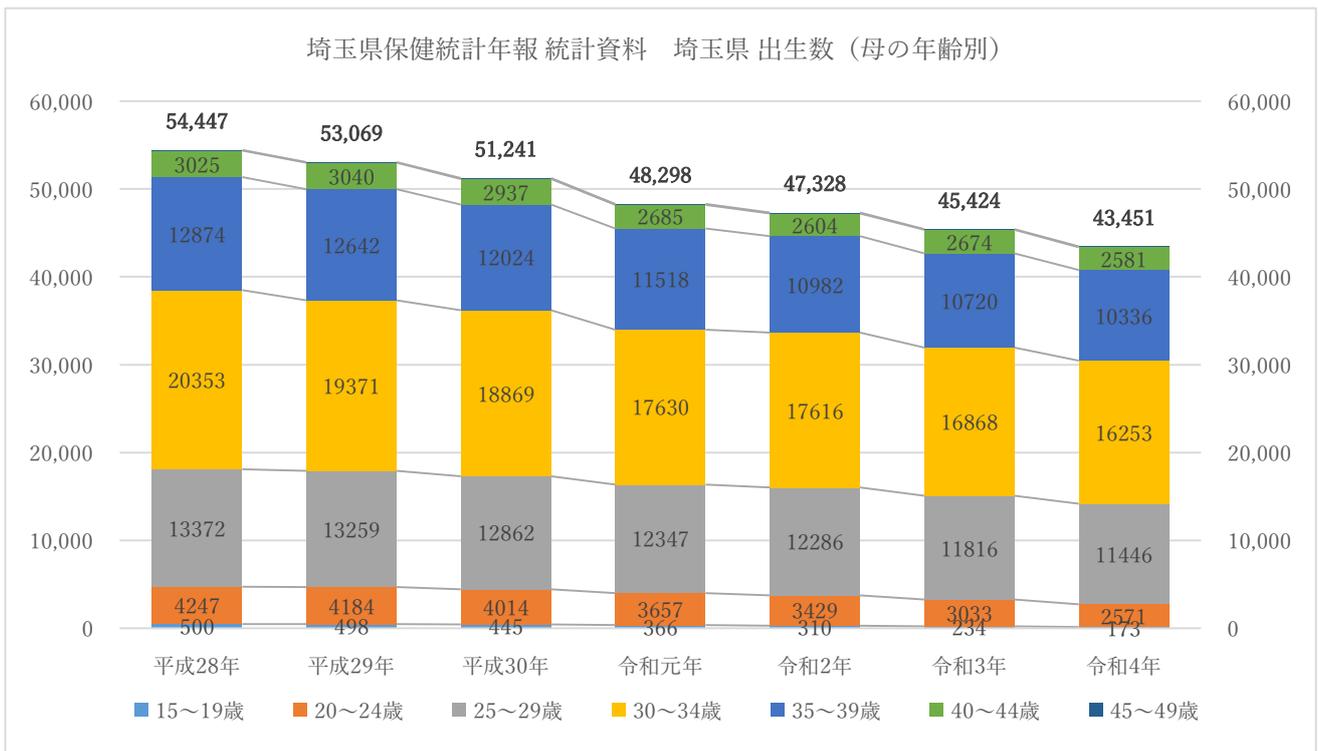


図 77 埼玉県出生数推移 母の年齢別（埼玉県保健統計年報）

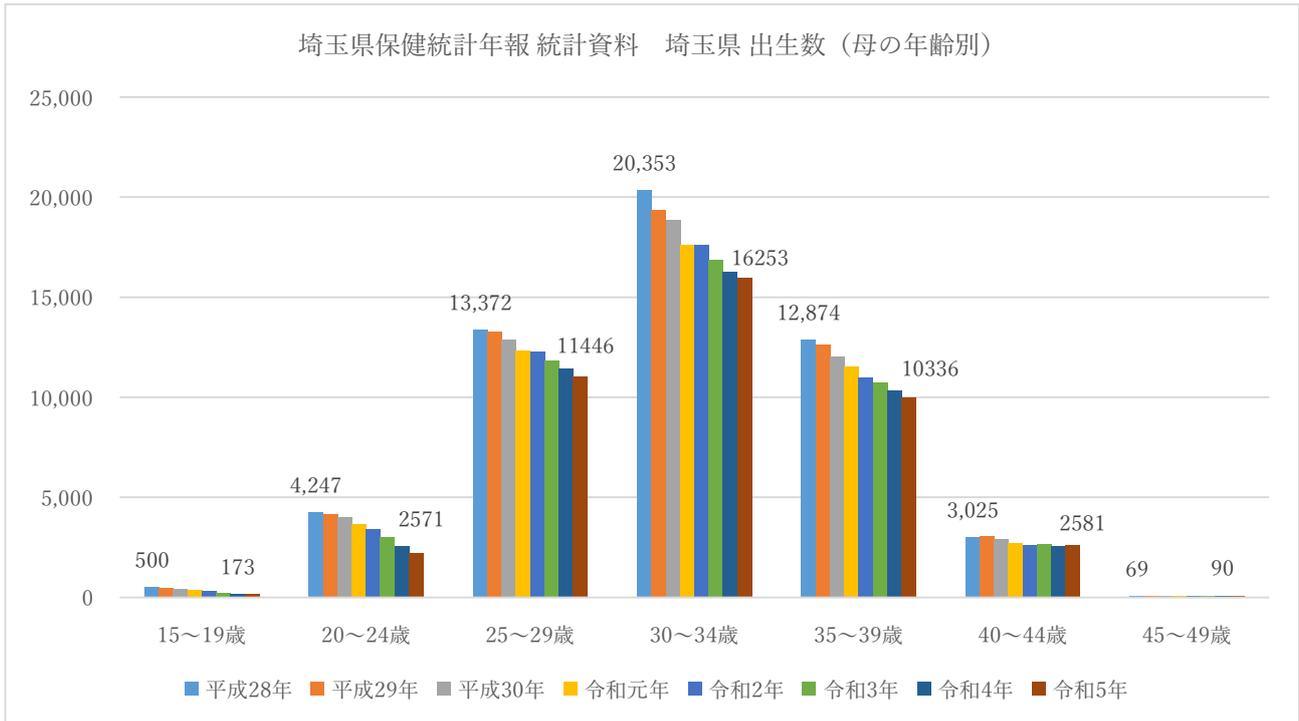


図 78 埼玉県出生数推移 母の年齢別（埼玉県保健統計年報）

図 75、図 76 は埼玉県保健統計年報から作成した、秩父市の母の年齢別出生数推移、図 77、図 78 は同じく埼玉県保健統計年報から作成した、埼玉県の母の年齢別出生数推移を示したものである。図 75 と図 76、図 77 と図 78 はどちらも同じ数字をもとにグラフの形のみを変えて示している。また、報告書作成時点で埼玉県の令和 6 年度数値が公開されていなかったことから、埼玉県のグラフのみ令和 5 年度までとなっている。

図 76、図 77 を見ると秩父市の出生数は平成 28 年から令和 6 年までの 6 年間で約 45% 減少しており、その主要な理由としては 25～29 歳、30～34 歳の出生数の減少であることがわかる。

埼玉県と比較すると、埼玉県は平成 28 年から令和 5 年までの 5 年間で出生数は 21% 減少しているのに対し、秩父市は同 5 年で 35% 減少している。25～29 歳、30～34 歳の出生数の減少についても、25～29 歳では埼玉県は 15% 減少に対し秩父市は 42% 減少、30～34 歳では埼玉県は 21% 減少に対し 38% 減少と秩父市の減少の方が大きい。

【国の公的統計と転出者調査の比較】

現在の社会制度の設計において、子育ては夫婦で行うものが前提となっており、単身で就労しながらの子育てにはハードルがあることを踏まえ、国は婚姻数の増加を奨励している。秩父市も少子化対策重点支援交付金を受け、結婚支援として婚活イベント等を行っている。一方で、今回の転出者調査の中で秩父市の転出理由では結婚が男性約 9%、女性が約 15% であり、転出理由の 3 位となっていた。

こういった現状を踏まえ、今回の転出者調査の回答から、転出者の婚姻状況、ならびに子供の希望状況などを市内の状況と比較しつつ見ていく。

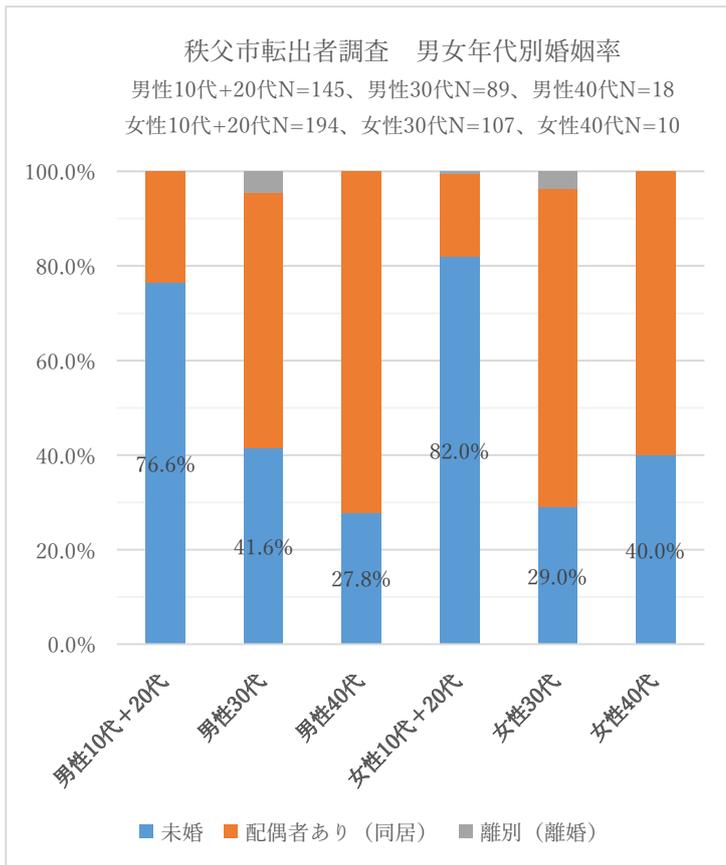


図 79 転出調査回答者の婚姻状況

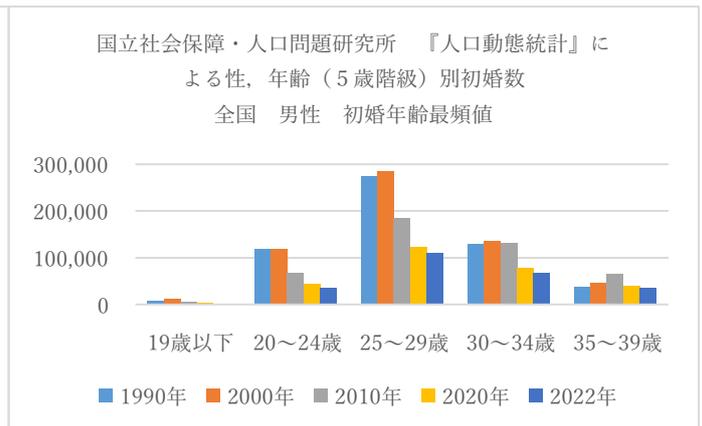


図 80 全国初婚年齢 男性

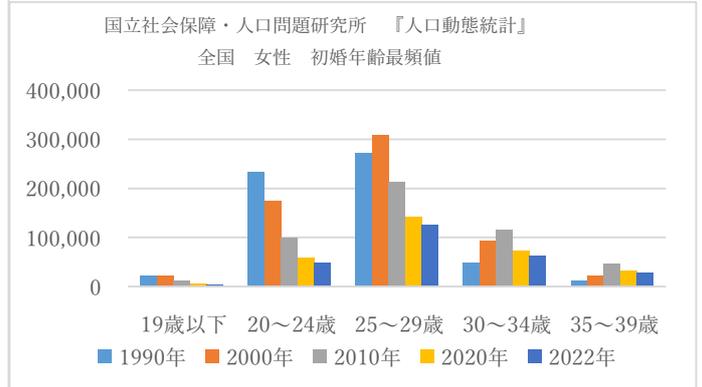


図 81 全国初婚年齢 女性

図 79 は転出者調査に回答いただいた方の婚姻状況について、各年代を 100%とし、年代の中での婚姻割合をグラフとしたものである。男女ともに 40 代は回答母数が少ないことを踏まえてみていただく必要がある。20 代までは未婚率が 8 割であるが、30 代では男性未婚率が約 42%、女性未婚率は約 30%となる。

図 80、図 81 は国立社会保障・人口問題研究所の統計から、全国の男女初婚年齢をグラフとしたものである。初婚年齢の最頻値は 25~29 歳であることがわかり、転出者の婚姻率が 20 代から 30 代で大きく変化することは転出者特有の特徴ではなく、全国的な統計と合致していることがわかる。

図 82、図 83 は国勢調査に基づく秩父市内在住男女の年代別の未婚率推移をグラフとしたものである。図 80、図 81 で示した全国的な初婚年齢最頻値と同様、30~34 歳で未婚率が大きく低下することがわかる。

図 80、図 82、図 83 をもとに転出者の未婚率と市内在住者の未婚率を比較すると、30~34 歳の男性未婚率は転出男性で 41.6%、秩父市在住男性で 53.1%と、秩父市在住男性の方が 11.5%高く、秩父市在住男性の方が未婚者が多いことがわかる。30~34 歳の女性未婚率は転出女性で 29%、秩父市在住女性で 33.5%と、秩父市在住女性のほうが約 4.5%高く、男女ともに転出者の方が婚姻を選択していることがわかるが、男性の未婚率で大きく差が見られることがわかる。

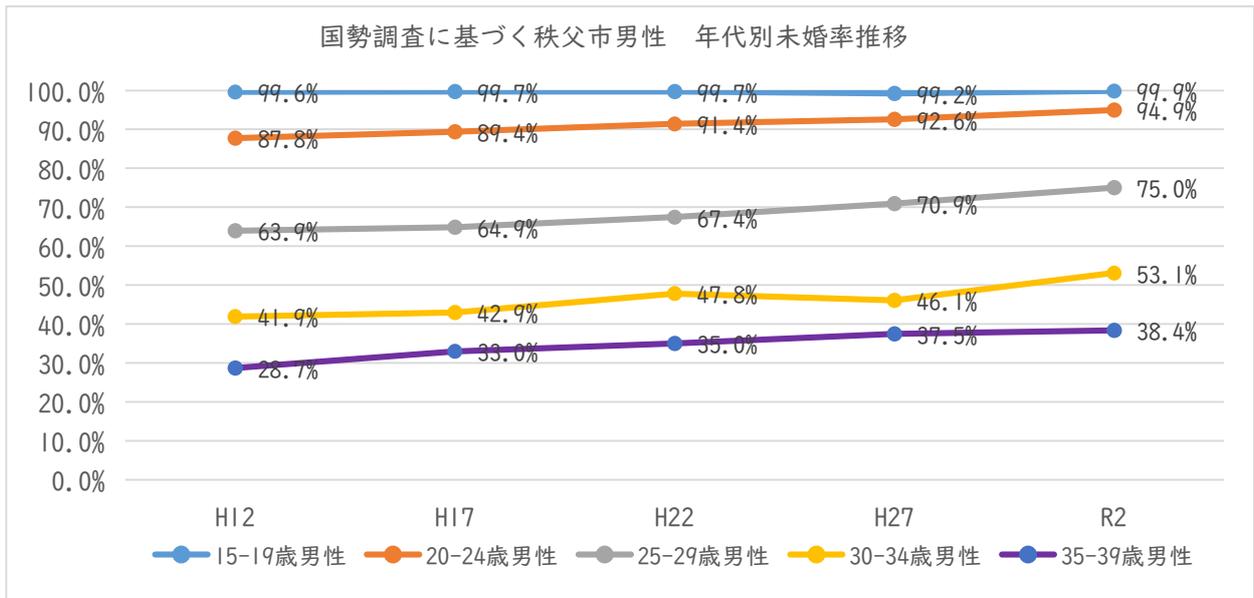


図 82 秩父市内在住男性 年代別未婚率推移（国勢調査）

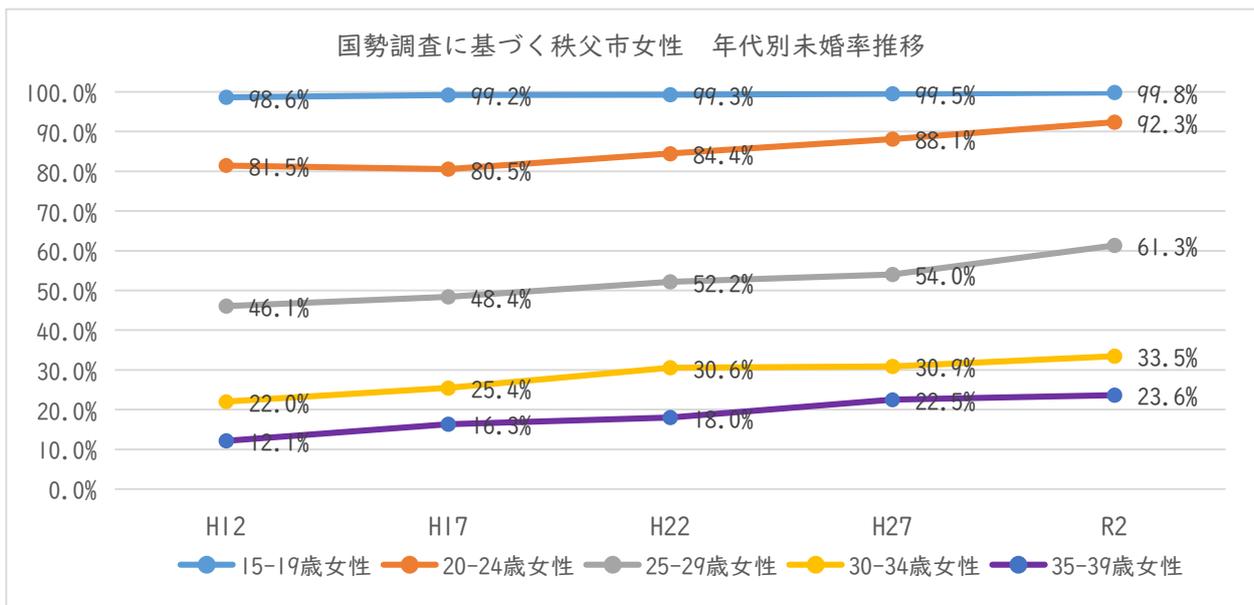


図 83 秩父市内在住女性 年代別未婚率推移（国勢調査）

図 84 は令和 2 年度国勢調査の人口、ならびに婚姻状況の統計から、市内男女人口と婚姻状況をグラフとしたものである。未婚者の数を見ると、30～34 歳では男性未婚者数が女性未婚者数の 1.7 倍となっていることがわかる。当然、未婚者の中には婚姻を希望しない方が含まれることも念頭に入れて考えないとならないが、出生数の改善を目的とした婚姻数の増加を考える際には、市内の女性人口増加策の検討を必要としなくてはならないことがわかる。

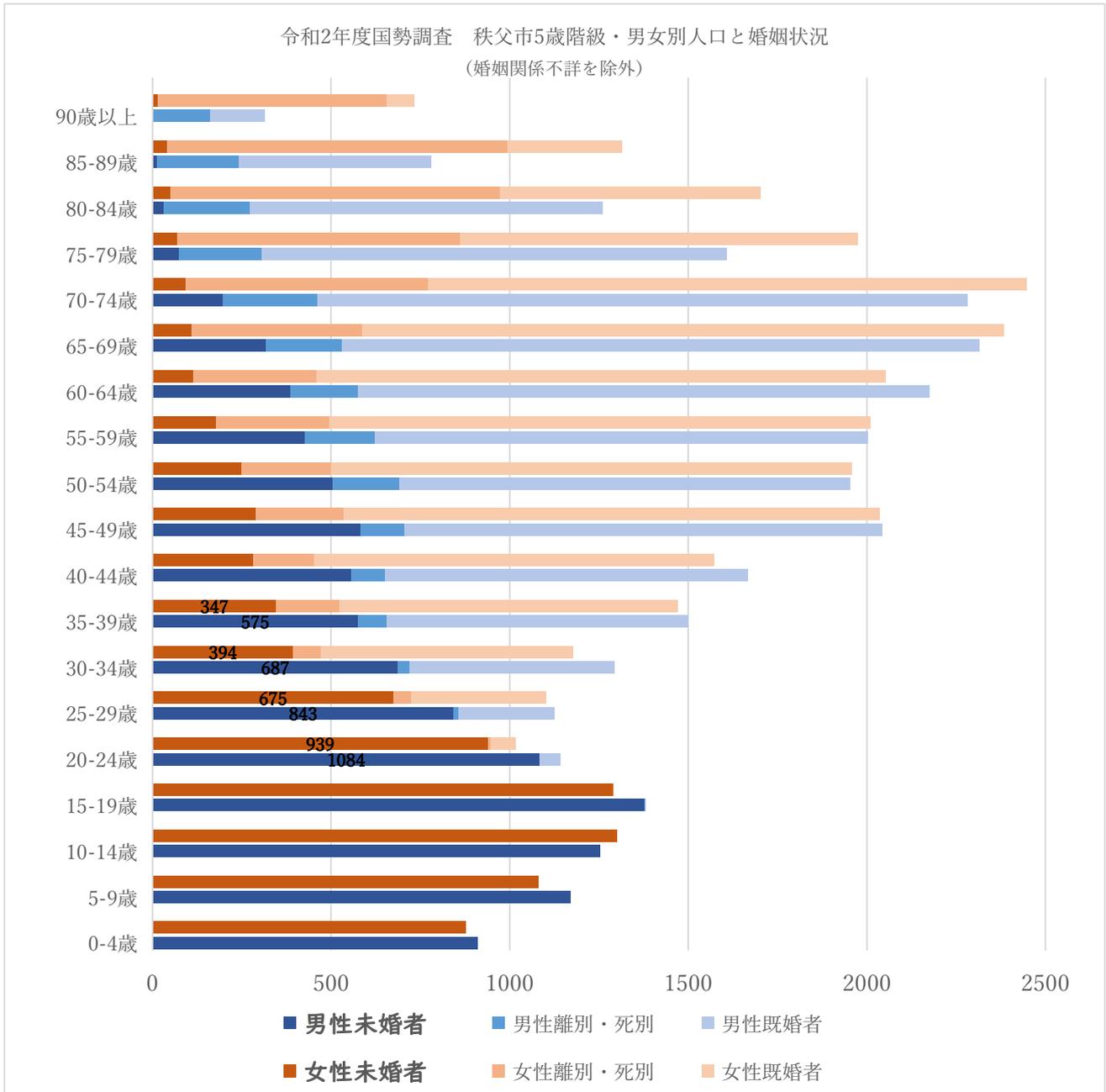


図 84 秩父市内在住者 人口と婚姻状況

【転出者調査における未婚者の婚姻意向】

続いて、転出者のうち、未婚であると回答した方の婚姻意向を見ていく。図 85、図 86 は令和 7 年度秩父市転出者調査の中で未婚であると回答した方の今後の婚姻の意向についての回答をグラフとしたものである。いずれ結婚するつもり、結婚したいができる気がしない、と、結婚に対しての希望を示した方が男性で約 85%、女性で約 81%と、結婚を希望する方が多いことがわかる。

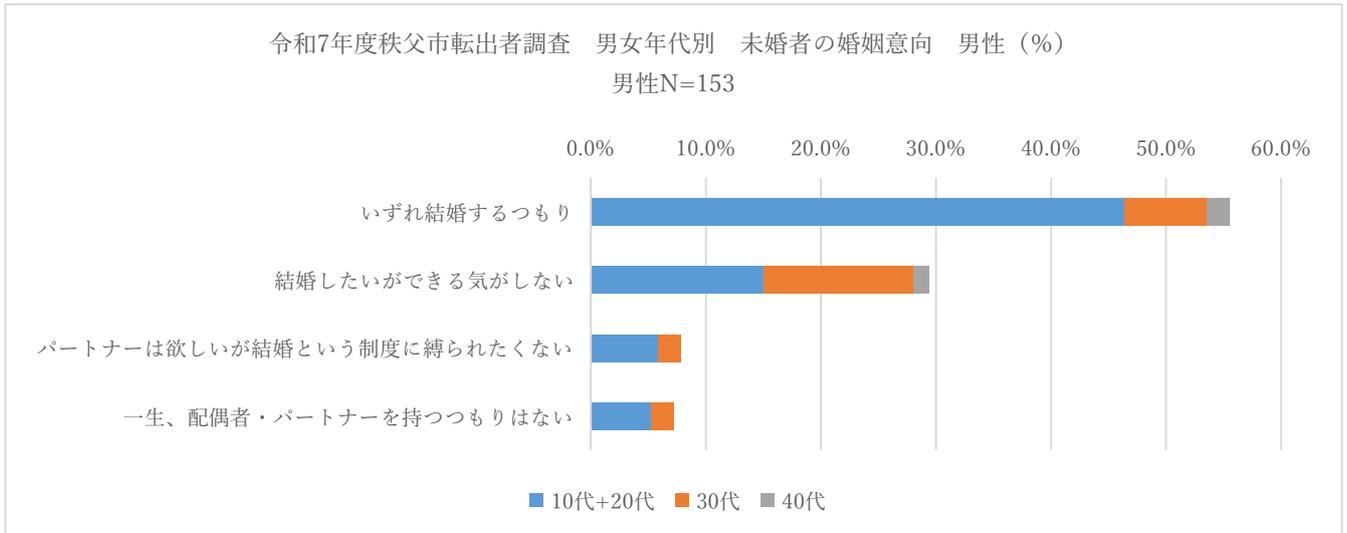


図 85 未婚者の婚姻意向 男性

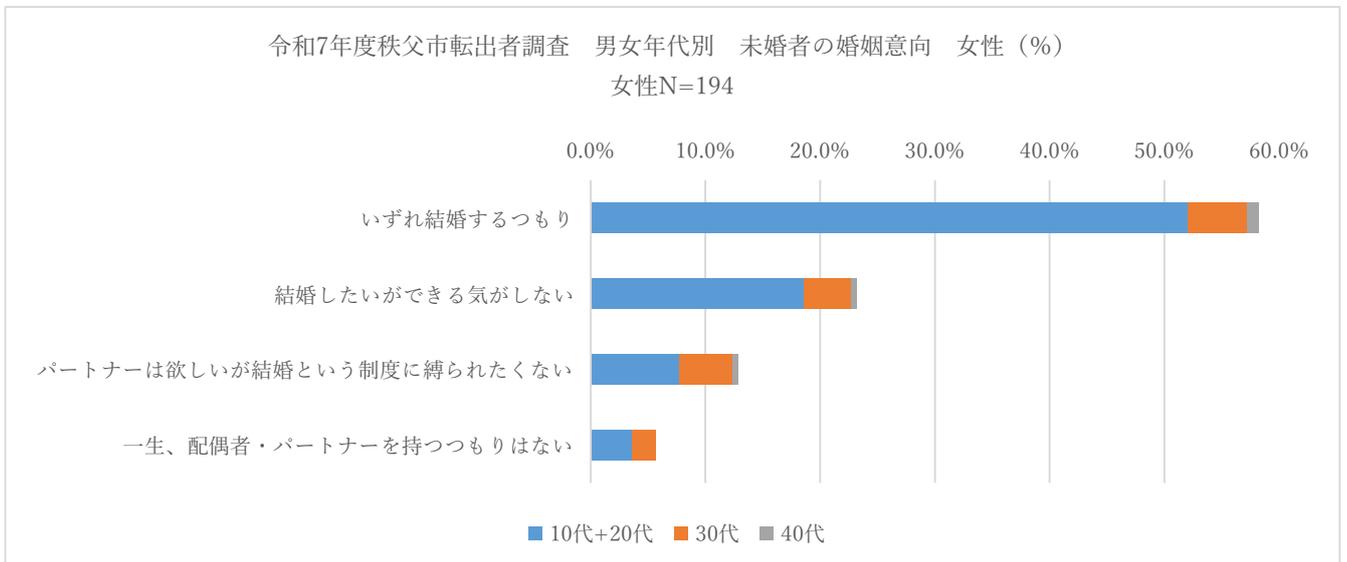


図 86 未婚者の婚姻意向 女性

(13) 結婚の希望を叶える上で障壁になるものに関する自由記述

結婚を希望する方（いずれ結婚するつもり、結婚したいができる気がしない、と回答した方）に対しては、結婚の希望を叶える施策を検討するため、「どういう状況になれば結婚できると思いますか。結婚を考える際、障壁となっているものがあれば教えてください」という設問にて、自由記述形式で回答を行っていただき、自由意見を収集した。

この自由意見の集約については、年代、男女により分類し、要因、件数、概要という形でまとめた。年代については10代+20代、30代、40代で分類した。10代の母数が少ないことから10代と20代は集約したが、10代と同じく母数の少ない40代においてはライフステージが大きく変わる年代であることを踏まえ、40代は独立した年代として集約を行った。

【10代+20代男性（回答数：約70件）】

要因	件数	概要
経済的要因	22件	安定した生活が確保できる貯金、収入の安定、生活への余裕（回答者年収301～600万円） 十分な収入、給料が上がり生活に余裕が出ること
出会いの環境	12件	職場に女性がない、異性と出会える場が少ない、出会いの機会がない、 忙しくて出会いの場がない
仕事に関する余裕のなさ	10件	労働時間が長い、残業が多い、仕事メインの生活になっている、仕事が多忙で出会いの場に行く 時間や体力の余裕がない
心理・価値観	5件	自分に自信がない、恋愛に向き合う心構え不足、結婚にメリットを感じない
それ以外の余裕のなさ	4件	趣味に没頭している、自身のやる気、引っ越し等のタイミング

【10代+20代女性（回答数：約85件）】

要因	件数	概要
経済的要因	24件	物価高騰と手取りの不均衡、貯金不足、生活費（家賃等）の圧迫（回答者年収201～400万円） 奨学金の返済、将来の育児費用への不安
出会いの環境	16件	いい出会いがない、マッチングアプリは怖い、気が合う人がいない
仕事に関する余裕のなさ	14件	職場と家の往復で精一杯、フルタイム勤務による疲弊、キャリア形成、仕事のスキルを付けたい、社 会人としての地盤を固めたい、休日は一人でゆっくり休みたい
それ以外の余裕のなさ	7件	自分のやりたいこと・夢がある、学業優先
心理・制度・価値観	5件	同性婚の未整備、夫婦別姓等の制度が整っていない、結婚による自由な時間の喪失への不安

【30代男性（回答数：約25件）】

要因	件数	概要
経済的要因	9件	貯金額の少なさ、将来への貯蓄、年収の低さ、子育て支援の不足 (回答者年収301～600万円、1001万円以上)
出会いの環境	6件	異性と出会う場がない、良い人と巡り会おうのを待っている、マッチングアプリは使いたくない、関係 性の深め方がわからない
仕事に関する余裕のなさ	3件	労働時間が長い、残業が多い、労働最優先の生活でプライベートに割く時間がない、自己研鑽に時間 がかかる
タイミング・その他	3件	転職による余裕のなさ、タイミング

【30代女性（回答数：約15件）】

要因	件数	概要（括弧内は該当者の主な年収）
出会いの環境	6件	同年代の異性と会う機会がない、性格の良い男性がない
経済的要因	4件	税金等の出費が多く金銭面で不安、可処分所得が上がれば安心できる（回答者年収301～600万円） 労働に見合う給与があれば
仕事に関する余裕のなさ	3件	仕事が多忙で話し合いができない、労働優先、休みが合わない
生活価値観	2件	働いていても家事負担が女性に偏ることへの懸念、一人のほうが楽

【40代男性（回答数：約4件）】

要因	件数	概要
経済的要因	2件	障害による就労の難しさ、十分な収入を得られること（回答者年収0～200万円）
仕事に関する余裕のなさ	1件	仕事が忙しい、残業が多い
出会いの環境	1件	人との出会いが少ない生活スタイル

【40代女性（回答数：約3件）】

要因	件数	概要
意欲・心理	2件	年齢や自分の性質（他人との同居が継続できるか）への懸念、そこまで結婚したくない
出会いの環境	1件	良い人が見つければ

自由意見の集約を踏まえると、経済的要因、出会いがないことに加え、仕事に関する余裕のなさとして就労時間の長さ、仕事中心の生活となっていることが挙げられている。これまで雇用の問題として出てきていた給与への関心の高さ、福利厚生や年間休日、安定（社員の定着率が高い、経済不況などに影響されなさそう）で経営基盤や業績が安定している、仕事量に無理がなさそうといったワークライフバランスとの関連が濃厚であることが考えられる。

経済的要因を挙げている回答者の年収は10代+20代では300～600万円であるが、30代では300～600万円に加えて1,000万円と回答した層も含まれており、また概要では物価高騰や家賃の上昇による家計の圧迫、奨学金の返済など、可処分所得が少ないことが大きく影響していることがわかる。

出会いのなさを挙げた層では異性と出会う機会のなさに加えて、良い相手がいないというコメントや、忙しさが出会いの機会を奪っているという傾向がみられた。

まだ男性では自分への自信のなさや出会った後の関係性の深め方がわからないといったコメントがみられ、出会いの機会の創出だけでなく、人間関係の構築方法への不安解消支援等も必要であることが見えた。

なお、こういった傾向は市婚活イベントの男性参加者の中からも見えており、伴走型支援が必要とされていることから、結婚への課題は転出男性と秩父在住男性で共通である可能性がある。

一方、賃金や出会い、労働環境の改善は、秩父市内においては雇用の課題と男女人口の課題として転出先自治体と比較した場合に不利になる点であり、市の少子化対策としての婚姻率の上昇や出生数の向上については、若年層の雇用課題の解決と共通の課題を有しているといえる。また、雇用で重視されていた安定というキーワードが多く出ていることも、若年層の安定への関心の高さがうかがえる。

(14) 子ども希望

結婚を希望する若年層が多いことが分かったことから、続いて子どもについての希望を見ていく。図87、図88は回答者全員に対し理想の子どもの数を回答いただいた結果をグラフとしたものである。男女どちらも2人を希望する方が半数を超えており、子どもを希望する方の合計は男性で90%、女性で86%であった。

結婚と同様、子どもを持ちたいと希望する方の希望を叶えるための施策を検討するため、すべての方に対し「子どもの数の希望をかなえるにあたり、課題になると考えられる項目」について選択式で設問を設けて回答

いただいた。

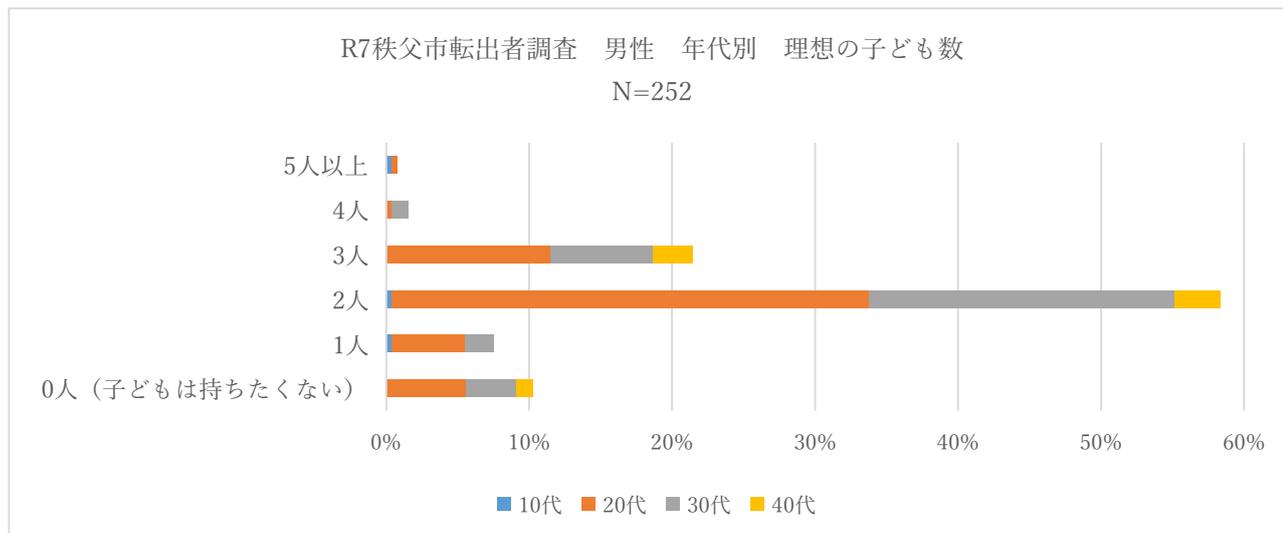


図 87 理想の子供数 男性

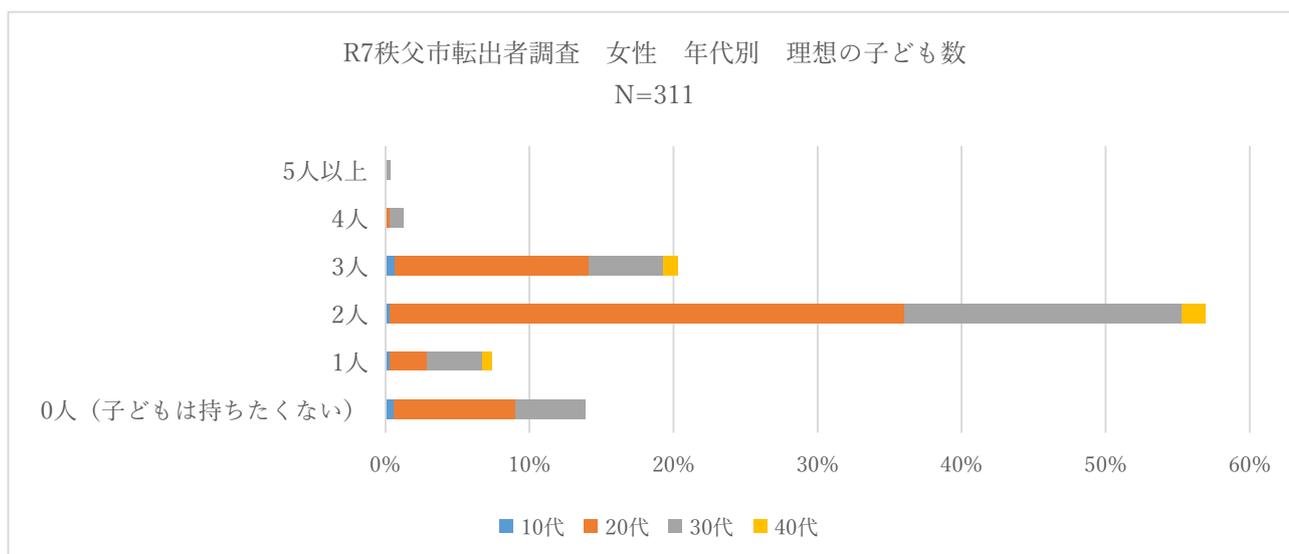


図 88 理想の子供数 女性

R7秩父市転出者調査 理想の子供数をかなえるにあたり課題となる要素 男性
 複数選択可 N=796

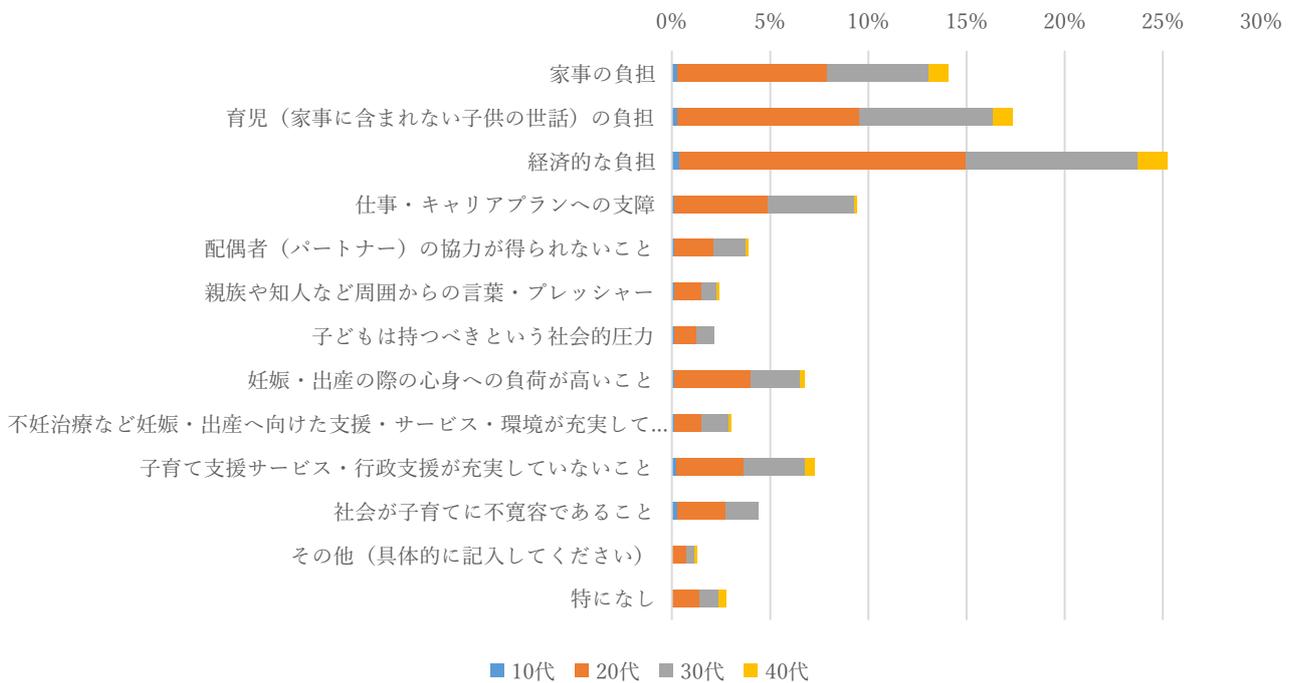


図 89 理想の子供数をかなえるにあたり課題となる要素 男性

R7秩父市転出者調査 理想の子供数をかなえるにあたり課題となる要素 女性
 複数選択可 N=1,308

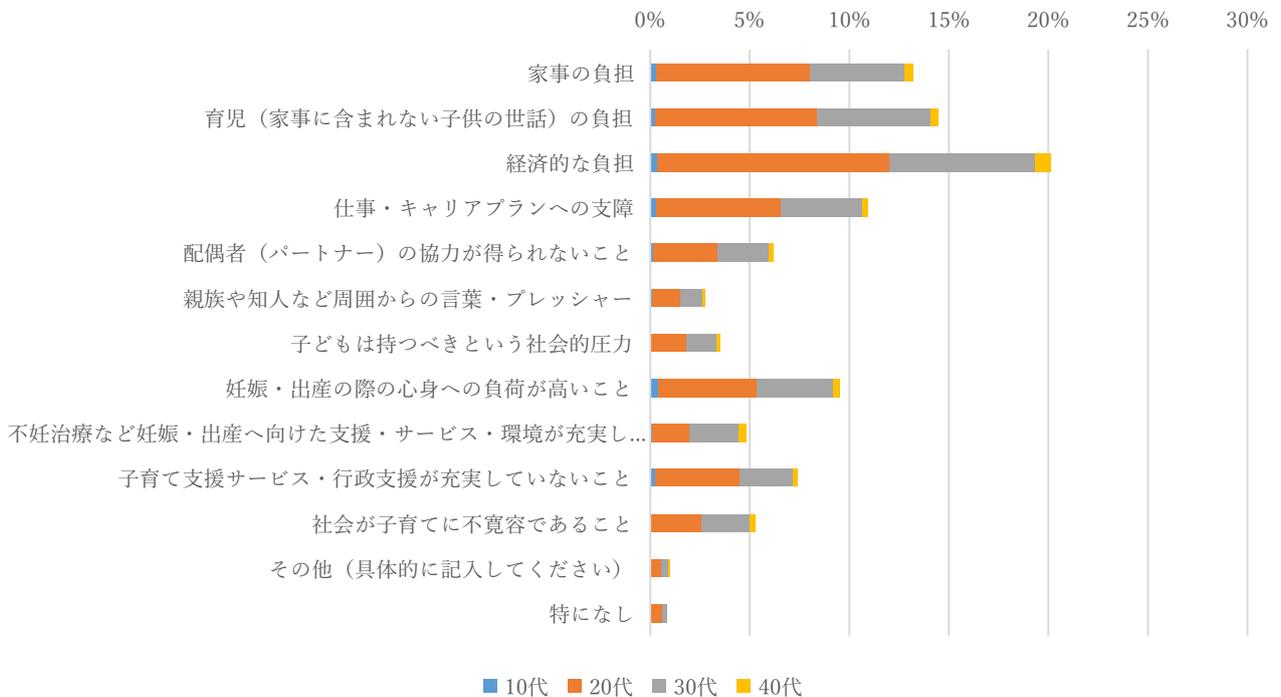


図 90 理想の子供数をかなえるにあたり課題となる要素 女性

図 89、図 90 はすべての方を対象に、理想の子供数をかなえるにあたり課題となる要素を回答していただいた結果である。なお、選択肢内の「育児（家事に含まれない子供の世話）の負担」は、「具体的には子供の送迎（学校・習い事・スポーツなど）や子供の看護・通院、子供の教育にかかる時間的・精神的・体力的な負担」として設問で定義を示して回答いただいている。

まず、男性の回答者数 252 人に対して回答数が 796 件と平均 3 項目を回答しているのに対し、女性は回答者数 311 人に対して回答数が 1,308 件と平均 4 項目を回答しており、女性のほうが懸念する項目が多いことがわかった。課題について特になしと答えた方は男性で 3%、女性で 1%と少なく、子どもの数の希望をかなえるにあたり、何かしらの課題を認識されている方が多いことがわかる。

男性においては経済的な不安について女性よりも多い割合が回答しており、男性が稼ぐ、といった旧来的な価値観が残っていることを示唆している。一方、経済的な不安は女性も多く挙げており、男女共通して育児に向けた経済的不安があることがわかる。結婚における障壁となるものとしても経済的な不安は多く挙げられており、結婚を希望し、子どもを希望する方ほど賃金に対する関心が高くなる相関関係があるのではないかと推測される。

また、家事の負担は男女でほぼ等しい割合で課題と認識されており、また、育児の負担については女性よりも男性が課題として挙げている。このことから、男性が家事・育児に参画するという価値観がある程度浸透してきていることがわかる。

男性が家事・育児に参画することを踏まえ、仕事で重視する項目に関する設問で多く選ばれた福利厚生・年間休日、安定（設問内にて「社員の定着率が高い、経済不況などに影響されなさそうで経営基盤や業績が安定している、仕事量に無理がなさそう、など」と定義）、給与、という条件と、結婚に対しての課題の中で頻出した、経済的不安、忙しさによる余裕のなさとは密接につながっていると考えられる。

若年層が結婚、子どもの希望を叶えるためには、給与の向上、ワークライフバランスが実現可能、つまり仕事中心ではなく家で子どもの世話や家事などを行う時間を確保できる働き方、すなわち長時間労働の是正や、交際相手や子供と過ごす（幼稚園行事・小学校行事などへの出席も含む）ための休日の確保、育休といった福利厚生が重要である。さらには結婚に対しての課題で挙げられた生活への余裕がないこと、貯蓄の不足、といったキーワードを見ると、ある程度余裕や貯蓄を持ち、不測の事態に備える必要があるという認識があるのではないかと推察できる。

若年層は結婚、子どもの希望を持っているからこそ、自身のライフプランを考えて長期的に働き続けられる環境を求め、福利厚生・年間休日、安定、給与を雇用に対して求めていると考えられ、そのため、雇用の課題解決が少子化への対応策として有効であると考えられる。

(15) 結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについての考え方

今回の転出者調査では、雇用の課題に加え、国立社会保障・人口問題研究所が令和 3 年に行った第 16 回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）において、「結婚年別にみた、結婚前後の妻の就業変化」で 8 割が就業継続をしているといった、男女の共働き増加に伴う、仕事と家事・育児に対する若年層の考え方をより深く知るために、前述の第 16 回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）から、「結婚、男女関係、家庭、子どもを持つこと」についての考え方についての設問を 4 つ設け、すべての方に回答していただいた。なお、考え方の提示においては社会保障・人口問題研究所の調査票表記を参考とし、「賛成・反対の立場がとりやすいように断定的な表現を用いています。また示している考え方はあくまでサンプルであり、必ずし

も一般的ではない考え方も含まれています。」として、旧来的な価値観ととらえられる可能性がある設問について事前に説明を行った。この説明は、設問作成者が旧来的な価値観で設問を設計しており、回答結果の利用に際して旧来的な価値観の補強とされるのではないかとといった不安が生じないように、回答者の心理的安全性が担保されることを目的として行ったものである。

考え方の設問は以下の4つであり、それぞれに、賛成、どちらかといえば賛成、反対、どちらかといえば反対、という選択肢に対し、あなたの考えに最も近いものを1つだけ、という形で回答をいただいた。

- 考え方1 「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」
- 考え方2 「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ」
- 考え方3 「少なくとも子供が小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい」
- 考え方4 「結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのはやむを得ない」

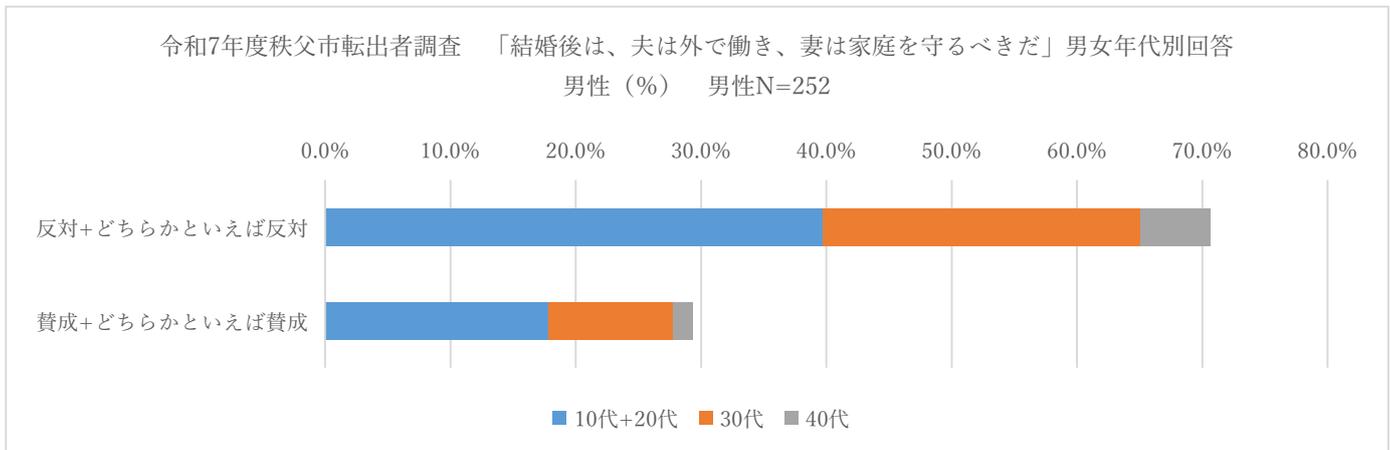


図91 考え方1 「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」 男性

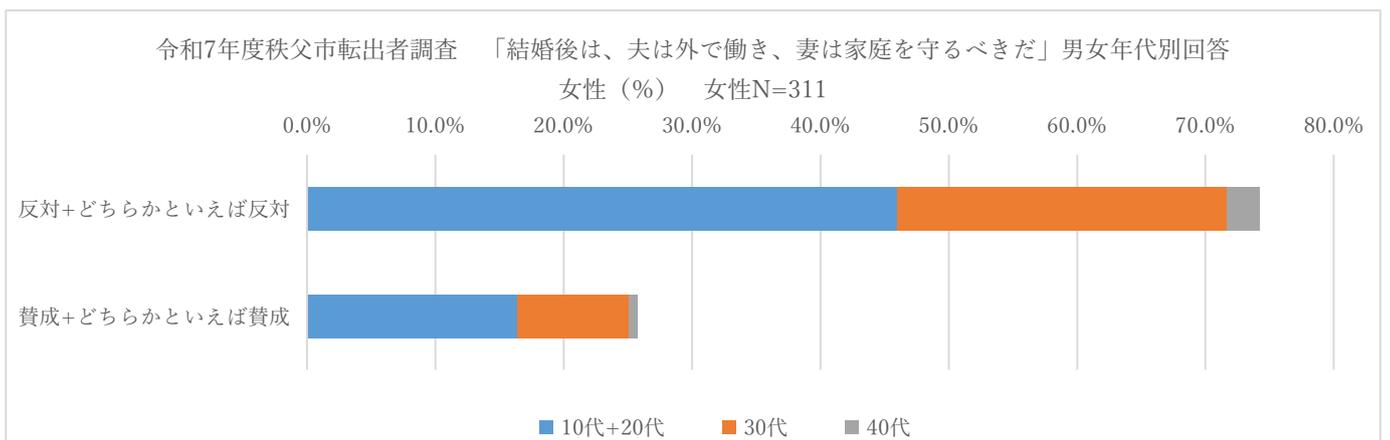


図92 考え方1 「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」 女性

図91、図92は考え方1「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」への回答を男女年代別にグラフとしたものである。旧来的な男女の役割分担に関する考え方については、男女ともに7割以上が反対と回答

した。女性で賛成する方は男性で賛成する方より少なく、男性は仕事、女性は家事といった役割分担に対しては女性のほうが反対を示すことがわかる。

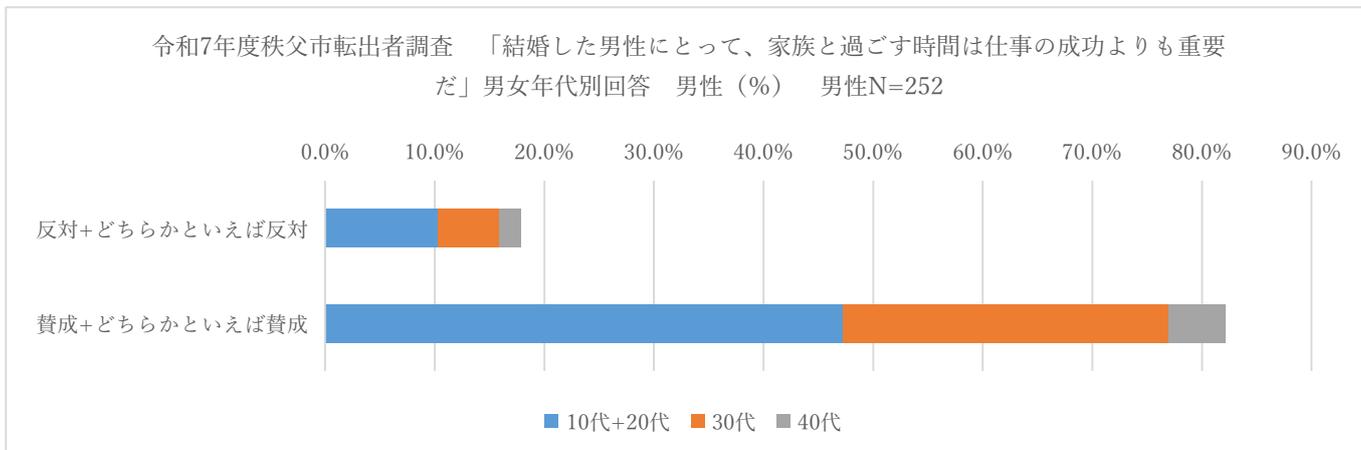


図 93 考え方 2 「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ」 男性

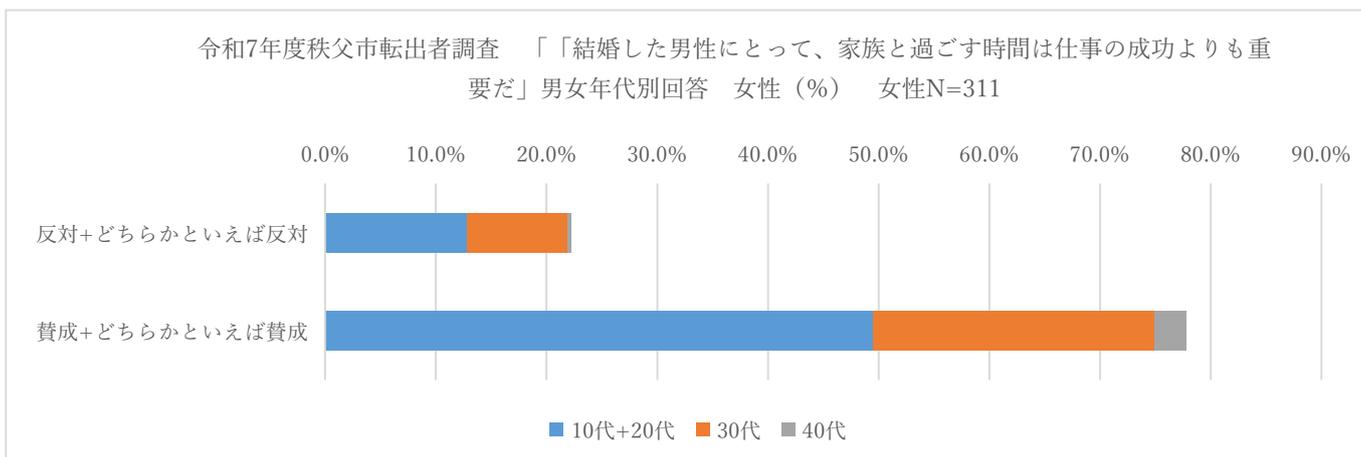


図 94 考え方 2 「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ」 女性

図 93、図 94 は「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ」への回答を男女年代別にグラフとしたものである。考え方 1 の旧来的な男女の役割分担に対しては 7 割が否定を示したことと同様、男性の家庭への参画、家事・育児への関与については、男性が約 82%、女性が約 78%と、男性のほうが強く家庭への参画、家族との時間をもちたいと希望していることがわかった。

考え方 1 の回答結果と併せると、雇用においてワークライフバランスを重視する考え方が強いことが推察される。また秩父に戻れないと感じる課題の自由意見の集約で見られた、男尊女卑の文化、古い価値観、閉鎖的といった要素、および秩父で働くイメージにて秩父に住んで働いたことがある方の意見として見られた古い慣習が残っている、閉鎖的といった意見が、旧来的な考え方が住民としてだけでなく地域の企業における雇用主として現れ、雇用条件や働き方にも影響している場合、若年層の転出の要因となっている可能性がある。

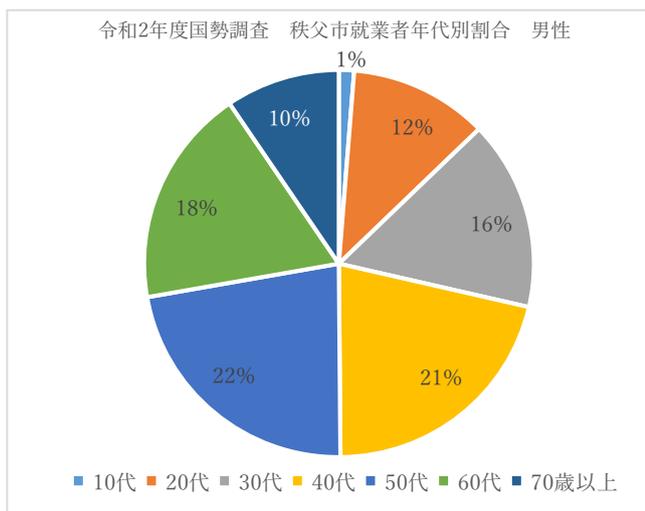


図 95 秩父市就業者年代別割合 男性

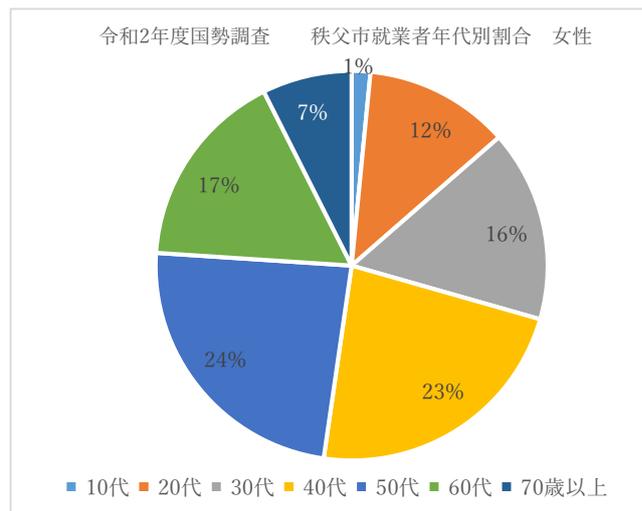


図 96 秩父市就業者年代別割合 女性

参考までに、図 95、図 96 は令和 2 年度国勢調査による秩父市内の就業者を、年代別割合で示したものである。就業者で一番多い年代は男女ともに 50 代、次いで 40 代、60 代となっている。就業者の多数が 50 代であることを踏まえ、前述の古い慣習、閉鎖性が見られる場合、若年層が共働き、ワークライフバランスを希望した際、多様な働き方を許容する環境が整っているかについては楽観的な認識はできないと言える。転出者調査結果の活用にあたり、市内企業の労働環境について、地域一体となった認識共有、課題認識を形成するため、市施策として取り組んでいく必要があると考えられる。

転出者調査の結果に戻ると、図 97、図 98 は「少なくとも子供が小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい」への回答を男女年代別に示したものである。考え方 1、考え方 2 と比較し、賛成と反対の差が縮まっている傾向がわかる。男性においては反対、つまり女性に就労を継続してほしい意見が約 42% である一方、賛成が約 58% である。女性においては反対、つまり就労を継続したい意見が約 43% である一方、賛成が約 57% と、男女ともに同様の傾向がみられる。なお、約 4 割が子どもが小さいうちから就労を継続したいという意向を示していることを踏まえると、福利厚生の実、つまり産休・育休によるキャリアの断絶が起きない制度設計や、子どもが小さい状況であっても働き続けられる環境が必要とされていることがわかる。特に産休・育休の取得にあたって、就労を継続するにあたって、子どもを預けられる環境や子どもの教育環境だけでなく、職場環境の要因が大きい。雇用における福利厚生の実、安定、という価値観はこういった価値観からも求められているのではないかと推察される。

図 99、図 100 は「結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのはやむを得ない」への回答を男女年代別にグラフとしたものである。考え方 4 においては男女において回答傾向に差がみられた。男性が賛成の傾向が強く、家庭への参画の意識が強くなっていることがわかる。一方で、女性においては反対の意見が過半数を超えている。結婚に対する課題の中で女性側の懸念として、働いていても家事負担が女性に偏ることへの懸念が出ていたが、家庭のために自分の個性や生き方を犠牲にすることへの反対、は、同様の家庭のための犠牲が女性に求められることへの懸念が女性にある可能性が推察される。

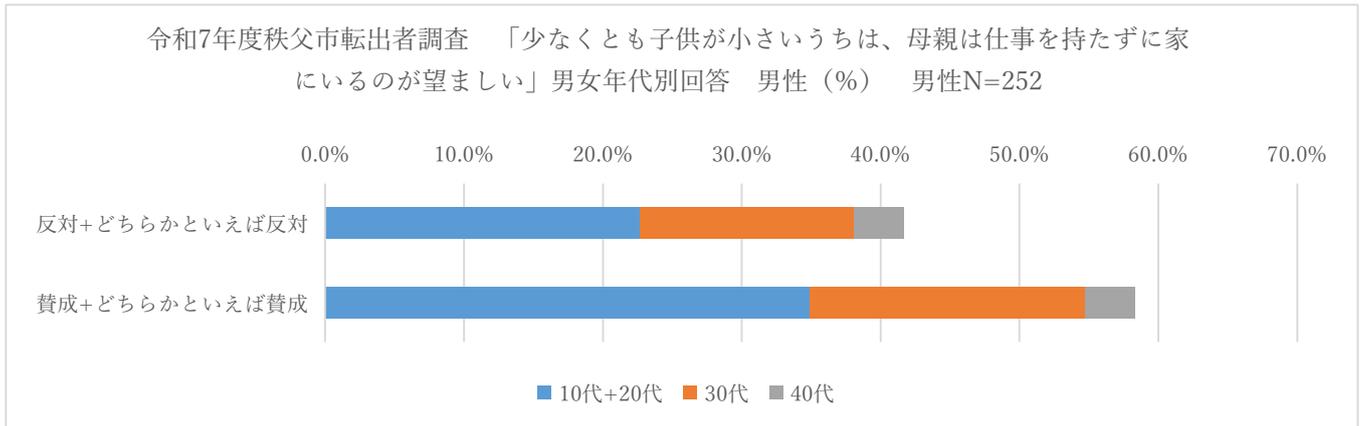


図 97 考え方 3 「少なくとも子供が小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい」 男性

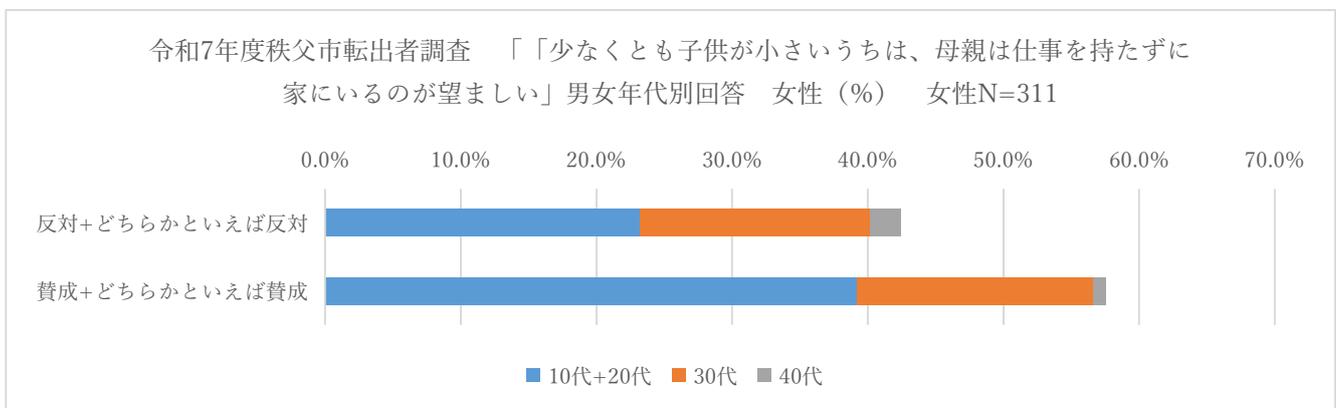


図 98 考え方 3 「少なくとも子供が小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい」 女性

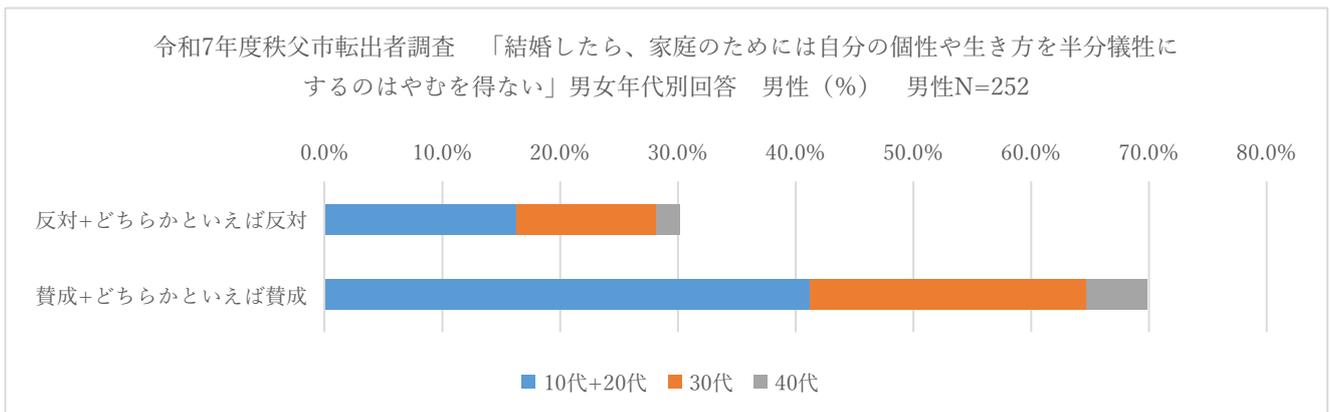


図 99 考え方 4 「結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのはやむを得ない」 男性

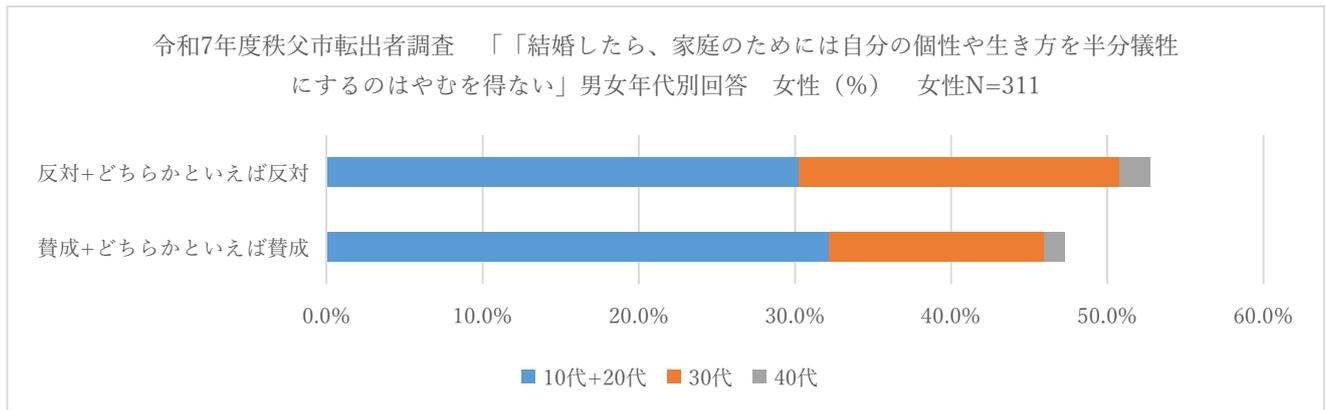


図 100 考え方 4「結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのはやむを得ない」女性

4. インタビュー調査の結果

選択肢だけではわからない背景などを聞き取るため、インタビュー調査を行った。インタビューは20名ほどに依頼を行い、スケジュール調整等の結果、女性1名、男性3名の合計4名に対して実施することが出来た。インタビューの要約は以下の通りである。

(1) 女性 A

26年ほど秩父で暮らした女性で、結婚を機に秩父市を転出した。中学生の頃から「キラキラした場所」への憧れがあり、大学進学時に都内へ出たが、卒業後は地元地域の金融機関に就職した。現在は2児を育てながら育休中で、夫の職場近くに居住している。秩父での生活については、車がないと自由に移動できない交通環境や低賃金、プライバシーの欠如（噂話がすぐ広まる環境）に強い不満を感じていた。特に育児の面で、小児科や産院などの医療機関が少なく、緊急時の対応が困難であることを致命的な欠点として挙げている。将来的に秩父に戻る可能性については、交通の便と医療体制への不安から「絶対に戻らない」と断言している。老後の生活を考えても、徒歩や公共交通機関で生活が完結する現在の利便性の高い環境を重視している。

(2) 男性 B

25年ほど秩父で暮らした男性。都内の大学に秩父から片道2時間かけて通学し、卒業後は秩父の会社で3年間働いた。転出したきっかけは、勤務先の経営方針の変化によるトップとの軋轢や過重労働を要求される体制に疲弊したことであった。現在は、市外で土木職の公務員として働いている。秩父の良さとして、自然の豊かさや災害への強さ、物価の安さを挙げる一方、不満点として大卒向けの仕事の選択肢の少なさや公共交通の不便さを指摘している。また、雪かきや自治会などの地域特有の負担（無言の圧力）も心理的な障壁となっている。将来の帰郷については、パートナーの意向や子供の教育環境、アクセスの悪さを考慮するとハードルが高いと感じている。秩父が生き残るためには、若者が残りやすい環境作りや公共交通の充実、観光と生活の質の共存が必要だと考えている。

(3) 男性 C

18歳まで秩父に在住し、大学進学を機に転出した男性。埼玉県の高校で教員を3年間務めたが、仕事のハ

ードさと賃金が見合わないことを理由に転職し、現在は九州で独立行政法人に勤務している。現住地に関しては、都市部のコンパクトシティとしての利便性を高く評価しており、秩父時代の往復2時間の自転車通学や娯楽施設の少なさを不便に感じていた。また、文系職の選択肢が公立学校や役所等に限定されることや、所得水準（地域手当の差）も大きな課題として挙げている。さらに、無職期間中に秩父に戻って過ごしていたところ、近隣住民や親戚の間で戻ってきたことが噂になるなど、プライバシーのなさも嫌厭する要因となった。基本的にはのどかな環境で暮らすことを好んでいるが、大卒資格を活かせる高待遇の職場や、公共施設が充実した「適度な田舎」としての整備が進まない限り、秩父への帰郷は厳しいと考えている。

(4) 男性 D

20年ほど秩父で暮らした男性。秩父の高校を卒業後、地元の企業に就職したが、会社の異動やキャリアアップを目指した転職を経て、現在は市外で屋内電気設備の施工管理に従事している。秩父の魅力として伝統行事（夜祭等）や地域コミュニティの繋がり、水の美味しさを挙げており、現在も祭りの時期には帰省している。一方で、職業選択の幅の狭さや車必須の社会、鉄道運賃の高さに不満を抱いていた。現在は都心へのアクセスの良さと買い物の利便性を重視し、埼玉県都市部に居住している。将来については、親の介護や結婚相手の意向次第で戻る可能性を否定してはいないが、IT系などの新しい職種の増加や年収水準の向上が、現役世代が秩父を選択するための重要な条件になると考えている。

インタビュー調査では、車社会への不満が共通して見られた。戻らない理由の心理的な障壁として地域住民との関係も共通して挙げられていた。雇用については秩父の会社で働いた方からは、転出者調査の雇用についての設問で見られた「安定（社員の定着率が高い、経済不況などに影響されなさそうで経営基盤や業績が安定している、仕事量に無理がなさそう）」、「年間休日・福利厚生」に関する要素の強さがうかがえた。仕事を選ぶ際に重視する項目、の自由意見内でも、組織の風通しのよさ、ハラスメントがないことは20代、30代に共通して重視されており、賃金だけでなく職場環境も重要視されていることがわかる。

女性においては医療、特に小児科・産科に対しての強い懸念が見られた。帰還意向のある男性においても、パートナーの意向、子供の教育環境が影響するとの回答が出ている。産婦人科は子供を持つ女性のみが利用するものではなく、女性の日常的な健康にかかわる医療機関であることを踏まえると、少子化対策としては小児科だけでなく、産婦人科等、産前からの女性の暮らしやすい環境の整備が重要であると推察できる。

また、市内での車移動に対する不満に対しコンパクトシティへの評価、徒歩や公共交通機関で生活が完結する環境への評価があり、都市部からのUターン促進において、公共交通の充実は重要であると考えられる。

5. おわりに

設問の最後には、「秩父市へ伝えたいことやアンケートの設問などについてご意見・ご感想があればご自由にご記入ください」という設問を設け、自由記述形式で回答をいただいた。

回答結果は表2のように整理した。ポジティブな意見では全世代で秩父市への愛着が示される一方、ネガティブな意見では10代+20代・30代で、これまでの設問への回答や自由意見集約の中で見られてきた、雇用、給与、閉鎖性についてのコメントが見られた。市政への要望では全世代から産婦人科の不足が指摘されており、また子育て支援や子どもの遊び場など、安心して出産・育児ができないことに対する要望が見られる。

表2 秩父市へのご意見

分類 (総回答件数)	ポジティブな意見 (件数)	ネガティブな意見 (件数)	市政・秩父市への要望 (件数/内容)	アンケートへの意見・感想 (件数/内容)
10代・20代 総括 (141件)	124件：自然、祭り、 伝統文化への強い誇り。	98件：低賃金、雇用の選択 肢不足、車社会の負担（お 金が貯まらない）。進学先 の不足（良い高校や大学が 熊谷方面にしかない）、古 い価値観	82件：進学校の設置、池 袋以外の都心アクセス改 善、若者向け店舗（無印 等）の誘致。	34件：若者の声を聴く姿勢 を評価。一方で「設問が多 すぎる」との苦言も。
10代・20代 女性 (71件)	65件：街の雰囲気や ポテくまくんへの愛着。	45件：娯楽の少なさ、冬 の寒さや花粉への悩み。	40件：無痛分娩ができる 産婦人科、雨天時の屋内 遊び場、公式HPのデザ イン刷新。	18件：スマホ回答時の改行 の多さ（読みづらさ）、保 存機能の不便さの指摘。
10代・20代 男性 (70件)	59件：独自の経済圏 としてのポテンシャル への期待。	53件：ソーラーパネルによ る自然破壊、閉鎖的な人間 関係、古い価値観。	42件：国道299号の制限 速度引き上げ、道路舗装 の改善、鉄道ダイヤの利 便性向上。	16件：回答の選択肢に「特 になし」を希望。調査の趣 旨説明をより明確に求める 声。
30代 総括 (114件)	92件：強い帰郷意欲 と、出身者ではないが 「第二の故郷」という 意識。	65件：深刻な産婦人科不 足、古い価値観、パワハ ラ。家庭環境、学校、就職 先の人間関係。	75件：年収500万円以上 を確保できる企業誘致、 空き家活用による若者向 け住宅地の整備。若い人 の意見を聞いて対応して ほしいという要望。	22件：「セクション5（学術 研究）」の意図が不明確で 不適切との厳しい指摘。
30代 女性 (54件)	42件：児童館（中村 児童館等）への高い満足 度。	32件：他市（深谷・熊谷 等）に劣る子育て支援策。 家庭環境、学校、就職先 の閉鎖性・価値観の古さ。	30件：「市民課の窓口対 応」の改善、東京都並み の子育て金銭的サポート 導入。	8件：自由記述欄で意見を伝 えられること自体への感 謝。
30代 男性 (60件)	50件：合唱や祭りな ど独自の文化への愛着。	33件：公共施設（ホール 等）の使用料の高さ。パワ ハラ。	45件：合唱文化などを活 かしたハイレベルな活動 誘致、市民向け施設利用 料の減額。	14件：調査を起案し、予算 を確保した職員の行動力を 高く評価。
40代 総括 (27件)	21件：市の環境、武 甲山の景観などへの愛着。 市の観光施策への評価。	12件：老後のインフラ不安	18件：公共交通機関の再 編（老後の移動手段確 保）、行政手続きの迅速 化。	8件：「項目が多すぎて時間 がかかる」。回収率を上げ るための謝礼の検討提案。
40代 女性 (12件)	10件：生まれ育った 土地への深い愛着。	5件：医療や教育における都 市部との格差。	10件：ユネスコ指針に基 づく性教育の実施、三峯 神社ロープウェイの復活 要望。	3件：アンケートが長すぎる 点への指摘。
40代 男性 (15件)	11件：地域活性化に 向けた企画を歓迎。	7件：道路の混雑、三峯ロー プウェイの停止に対しての 苦言。	8件：地質学や民俗学に 特化した大学学部の誘 致、花粉症対策の抜本的 な改善。三峯神社ロー プウェイの復活要望。	5件：アンケートを通じて課 題を把握しようとする姿勢 を「とても良い」と支持。

秩父市が令和7年度から採択を受けている、内閣府主導施策の地域働き方・職場改革（若者・女性に選ばれる地方）に取り組む自治体では、豊岡市が先進事例として取り上げられているが、豊岡市においては家庭と職場、両輪で男性の家庭参画、女性の働き続けられる環境を実現していく考え方があった。豊岡市においては共働きであっても女性は子育ての合間にパート、といった考え方で非正規雇用に偏る、家事育児は女性、また保育園や急な病気の際の子どものお迎えは女性、時短で働くのは女性、女性は事務や窓口対応等と仕事が割り振られ、男性と職歴が異なる配属とされることでキャリア形成に差が生じている、という環境を女性の転出理由としてとらえ、市内企業への男性育休制度整備の促進、女性のキャリアデザイン制度の導入、全体的な労働時間の短縮、また地域における考え方を変えていくことで、多様な人材が転入し過ごしやすい環境を整備する取り組みを行っている。

また豊岡市では、地域の町会においても女性は炊き出しといった担当であることを見直し、若者・女性の意見を取り入れるよう事業を見直す等、地域のジェンダーギャップを解消する取り組みを行っているが、これはまちづくりへの若者の参画を促すものでもある。

図 91 から図 94 の考え方 1、考え方 2 で見られた家庭への参画の意識が男性にあったとしても、そういった姿勢が地域に受け入れられない場合、インタビュー調査、および秩父に戻れないと感じる課題の中で言及されていた、自治会などの地域特有の負担（無言の圧力）、すぐ噂になる環境、閉鎖性といったことが要因となり、転出につながる可能性が考えられるため、秩父市も同様に、地域との課題共有、まちづくりへの若者の参画を促進していく必要があると考えられる。

また、インタビュー調査では、秩父に戻るにあたり配偶者の意向が大きいことにも言及されていた。ここまでの調査結果、および考え方 1 から 4 を踏まえると、秩父出身者が市外で婚姻し、秩父へ帰還意向がある場合、配偶者、つまり非秩父出身者に対し秩父が魅力的であり、働きやすい環境である必要がある。

秩父で若年層が転出せずに定着する、また転出者が帰還し、結婚・子どもの希望を叶えるためには、雇用の魅力、つまり福利厚生が充実、安定、給与が充実する必要があることが今回の調査で傾向として示され、さらに、地域環境が転入者に対し開かれたものとなっている必要もあること示唆されたと考えられる。

今回の転出者調査の結果として見えてきた課題については、若年層の雇用だけでなく、若者・女性に選ばれるために重要な要素であると考えられる。今後、市の人口減少対策、雇用対策に向け、本調査結果を活用していきたい。

資料 令和7年度秩父市転出者調査 設問一覧

令和7年度秩父市転出者調査 設問一覧

大きくセクションを5つに分けてお伺いします。
 セクション1：あなたご自身について
 セクション2：家族構成・ご結婚・お子さんについて
 セクション3：今後戻る/戻らないのご希望と理由について
 セクション4：お仕事（雇用）について
 セクション5：考え方について
 質問は全部で30～40問程度、目安回答時間は7～15分程度です。
 選択した回答により出てくる設問が変わるようになっていきますため、上から順番に回答してください。
 ※「選択肢の結果によって入力条件が変わります」と表示されている設問は、前の設問の回答結果により表示される内容が変わるものです。気にせずご回答ください。
 本調査は完全匿名式で行います。電子申請にログインされた状態で回答してもユーザー情報は市に通知されませんためご安心ください。

セクション1：あなたご自身について教えてください

設問	設問概要	設問・設問文	回答選択肢
1	秩父市を転出した年（西暦） ※複数回転出経験がある方は最初に転出した年	秩父市を転出した年（西暦）を教えてください 複数回秩父市からの転出経験があるかたは最初に転出したときの年（西暦）を教えてください	2000年～2025年
2	現在の年齢	あなたの現在の年齢を教えてください	18～45歳
3	戸籍上の性別	あなたの戸籍上の性別を教えてください	男性 女性
4	きょうだいの数	あなたのきょうだいの数を教えてください 両親の再婚などにより同じ家庭で育ったきょうだいも含んでご回答ください。 配偶者と婚姻したことによる義きょうだいは除外してください。 【例】兄・兄・妹の3きょうだいの一番下の場合→兄がいるをチェックして人数を2と入力してください 兄・姉・妹の3きょうだいの真ん中の場合→兄がいる、妹がいるをチェックして人数をそれぞれ1と入力してください	ひとりっこである（兄弟はいない） 兄がいる（人数を数値入力） 姉がいる（人数を数値入力） 弟がいる（人数を数値入力） 妹がいる（人数を数値入力）
5	現在の居住地（都道府県）	現在の居住地について教えてください。 (1)都道府県：以下から1つ選択してください。	47都道府県 その他（海外）
6	現在の居住地（市町村）	現在の居住地について教えてください。 (2)市町村：以下にご記入ください 例：秩父市、豊島区など	自由記述回答
7	現在の居住形態	あなたの現在のお住まいについて教えてください	賃貸 自分または配偶者の持ち家 自分の親や祖父母の持ち家 配偶者の親や祖父母の持ち家 下宿やシェアハウス 会社や学校の寮・宿舎 その他（具体的に記入）
8	転出理由（もっとも重要だと思う理由を1つだけ）	秩父市から転出した（複数回秩父市からの転出経験があるかたは最初に転出したときの）理由を伺います 次の中から、もっとも重要だと思う理由を1つだけ選択してください。	入学・進学 就職・転職 転勤 退職 住宅事情 生活環境上の理由 交通の便 親と同居・近居 家族の移動に伴って 結婚 同棲 離婚 子育て環境上の理由 その他（具体的に記入）

設問	設問概要	設問・設問文	回答選択肢
9	転出先の市区町村を選ぶにあたり重視した要素(複数選択)	転出先の市区町村を選ぶにあたり重視した要素を伺います。 秩父市から転出した際(複数回転出経験のあるかたは最初)に転出した際)、転出先の市区町村を選ぶにあたり重視した要素として、あてはまるものをすべて選択してください。	自分が通う学校や職場への交通利便性がよい 家族が通う学校や職場への交通利便性がよい 自分の実家への交通利便性がよい 配偶者・パートナーの実家への交通利便性がよい 業種・職種など仕事の選択肢が豊富 住宅の広さ、家賃、土地の価格など住宅事情がよい 買い物など生活の利便性がよい 文化・娯楽施設が豊富 病院や介護施設が豊富 子どもの遊び場(公園、児童館など)が豊富 保育園・幼稚園、学校など教育機関の選択肢が豊富 医療・介護に関わる行政サービスが充実している 結婚、妊娠・出産、子育てに関わる行政サービスが充実している 治安がよい 親戚・知人がすでに住んでいる 自然環境・文化・風土 その他(具体的に記入)
10	秩父市在住時、印象が悪かった(大きな不満があった)点 1. 暮らしの利便性や行政サービス(複数選択)	秩父市にお住いのときに、印象が悪かった(大きな不満があった)点について教えてください 1:暮らしの利便性や行政サービスに関わること 2:環境や風土に関わることの2つの観点からお伺いします。 1. 暮らしの利便性や行政サービスに関わることについて暮らしの利便性や行政サービスに関わることについて、秩父市にお住いのときに、印象が悪かった(大きな不満があった)点として挙げられるものをすべて選択してください。	住宅の広さ、家賃・土地の安さなどの住宅事情 買い物など生活の利便性 業種・職種など仕事の選択肢 収入・賃金の高さ 文化・娯楽施設 都市部への交通利便性 地域内の公共交通 公共施設(図書館・公園など) 医療・介護に関わる環境・行政サービス 子育てに関わる環境・行政サービス 学校 その他(具体的に記入)
11	秩父市在住時、印象が悪かった(大きな不満があった)点 2. 環境・風土に関わることについて(複数選択)	2. 環境・風土に関わることについて環境・風土に関わることについて、秩父市にお住いのときに、印象が悪かった(大きな不満があった)点として挙げられるものをすべて選択してください。	自然環境 災害・治安 地域行事(お祭り、自治会活動など) 近隣住民との関係 ジェンダーに関わる価値規範 同世代のコミュニティ 世代間のつながり 多様性の許容 その他(具体的に記入)
12	中学校を卒業した時点の居住地(都道府県)	中学校を卒業した時点の居住地について教えてください。 (1)都道府県:以下から1つ選択してください。	47都道府県 その他(海外)
13	中学校を卒業した時点の居住地(市町村)	中学校を卒業した時点の居住地について教えてください。 (2)市町村:以下にご記入ください 例:秩父市、豊島区など	自由記述回答
14	現在、学校に在学しているか	現在、学校に在学しているかどうかについて次の中から1つ選択してください。 あてはまるものを1つだけ選択してください ※休学中の方は在学中を選択してください	在学中 卒業した 中退した
15	在学中の学校、または最後に卒業した学校の種別	在学中の学校、または最後に卒業した学校を1つ選択してください。 中退した場合はその前に卒業した学校を1つだけ選択してください。 例:高等学校を中退した場合→中学校を選択してください	大学院 大学 専門学校・短期大学 高等専門学校(高専) 高等学校 中学校以下 その他(具体的に記入)

設問	設問概要	設問・設問文	回答選択肢
16	中退した学校の種別	中退された学校を1つ選択してください。 複数学校を中退している場合は、最後に中退した学校を1つだけ選択してください	大学院 大学 専門学校・短期大学 高等専門学校（高専） 高等学校 中学校以下 その他（具体的に記入）
17	在学中の学校、または最後に卒業・中退した学校の所在地（都道府県）	在学中の学校、または最後に卒業・中退した学校の所在地（都道府県）を教えてください。 学校（在学していたキャンパス）の所在地（都道府県）を選択してください	47 都道府県 その他（海外）
18	最後の学校を卒業（または中退）した時点の居住地（都道府県）	最後の学校を卒業（または中退）した時点の居住地について教えてください。 (1) あなたが居住していた都道府県：以下から1つ選択してください。	47 都道府県 その他（海外）
19	最後の学校を卒業（または中退）した時点の居住地（市町村）	最後の学校を卒業（または中退）した時点の居住地について教えてください。 (2) あなたが居住していた市町村：以下にご記入ください 例：秩父市、豊島区など	自由記述回答
20	在学中の生活費	在学中の生活費をどのようにまかなっていましたか。最も割合が高かったものを選んでください	主に仕送り 主に奨学金 主にアルバイト代 その他（具体的に記入）

セクション2：家族構成・ご結婚・お子さんについて

設問	設問概要	設問・設問文	回答選択肢
21	法律上の配偶者の有無	法律上の配偶者の有無について教えてください。 1つだけ選択してください 離婚後に再婚されているなど複数要素があてはまる方は現在の状況（離婚後現在は再婚されている場合は配偶者あり）を選択してください。	未婚 配偶者あり（同居） 配偶者あり（別居） 離別（離婚） 死別
22	現在同居している方（複数選択）	現在のお住まいで同居している方をすべて選んでください（複数選択可能） あてはまる方をすべて選択してください	自分のみ（同居者なし） 配偶者・交際相手 子ども 父母・義父母 祖父母・義祖父母 兄弟・姉妹などの親族 その他（具体的に記入）
23	一生を通じて考えた場合の結婚に対する考え（結婚希望） ※未婚者のみ	一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えを教えてください。 あなたの考えに最も近いものを1つだけ選択してください	いずれ結婚するつもり 結婚したいができる気がしない パートナーはほしいが結婚という制度に縛られたくない 一生、配偶者・パートナーを持つつもりはない
24	結婚を考える際に障壁と考えられること（自由記述回答） ※未婚者のみ	どういう状況になれば結婚できると思いますか。結婚を考える際、障壁となっているものがあれば教えてください 例：労働時間が長い、異性との出会いに使える時間がなく出会いがない、など	自由記述回答
25	お子さんの人数	お子さんの人数を教えてください。 同居している・していないを問わず、あなたのお子さんの人数を教えてください。 いない方は0人を選択してください。あなたまたは配偶者が妊娠中の方は「妊娠中」の選択肢を選択してください。	0人 1人目妊娠中 1人 1人（2人目妊娠中） 2人 2人（3人目妊娠中） 3人 3人（4人目妊娠中） 4人 4人（5人目妊娠中） 5人以上

設問	設問概要	設問・設問文	回答選択肢
26	生涯を通じて、理想とする子どもの数	生涯を通じて、理想とする子どもの数を教えてください。 現実の子ども数は気にせずにお答えください 現実を考えると、ではなく、あくまで理想、希望としての数を教えてください。	0人（子どもは欲しくない） 1人 2人 3人 4人 5人以上
27	子どもの数の希望をかなえるにあたっての課題（複数選択）	子どもの数の希望をかなえるにあたり、課題になると考えられる項目を教えてください あてはまるものをすべて選択してください 子どもの数の希望を0人と答えた方は、持たないという希望をかなえるにあたり課題になると思われる項目をお答えください。 選択肢内の「育児（家事に含まれない子供の世話）の負担」は、具体的には子供の送迎（学校・習い事・スポーツなど）や子供の看護・通院、子供の教育にかける時間的・精神的・体力的な負担とお考え下さい。	家事の負担 育児（家事に含まれない子供の世話）の負担 経済的な負担 仕事・キャリアプランへの支障 配偶者（パートナー）の協力が得られないこと 親族や知人など周囲からの言葉・プレッシャー 子どもは持つべきという社会的な圧力 妊娠・出産の際の心身への負荷が高いこと 不妊治療など妊娠・出産へ向けた支援・サービス・環境が充実していないこと 子育て支援サービス・行政支援が充実していないこと 社会が子育てに不寛容であること その他（具体的に記入） 特になし
28	一番上のお子さんの年齢 ※お子さんがいる方のみ	一番上のお子さんの年齢を教えてください	0～30歳

セクション3：今後戻る/戻らないのご希望と理由について			
設問	設問概要	設問・設問文	回答選択肢
29	秩父に戻る意向	あなたはいずれ、秩父に戻るとお考えですか？現時点での想定で構いませんのでお答えください 現時点での考えに最も近いものを1つ選択してください	戻らぬと思う 戻りたくないが戻らぬと思う 戻らぬと思う 戻りたいが戻らぬと思う
30	秩父に戻る時期の想定 ※戻る意向がある方のみ	秩父に戻る時期の想定について教えてください 現時点でのお考えに最も近いものを1つ選択してください	1年以内 おおむね5年以内 おおむね10年以内 定年退職したら 具体的な時期はわからないがいつか戻らぬと思う その他（具体的に記入）
31	秩父市に戻るために具体的に行動していること（複数選択） ※戻る意向がある方のみ	秩父市に戻るために具体的に行動していることはありますか？あてはまるものをすべて選んでください あてはまるものをすべて選択してください	特にまだ何もしていない 戻らぬためのライフプランなど計画を練っている 親族や配偶者など関係者に相談している 友人・知人に相談している 仕事に関する情報収集 秩父市での住まいや住環境など引っ越しに関する情報収集 秩父市での住居費・生活費などお金に関する情報収集 秩父市での子育て・教育に関する情報収集 移住支援制度などの公的支援に関する情報収集 その他（具体的に記入）
32	将来自分は秩父に戻らぬ理由（自由記述回答） ※戻る意向がある方のみ	将来自分は秩父に戻らぬ理由について、なぜそう思うのか具体的に教えてください	自由記述回答

設問	設問概要	設問・設問文	回答選択肢
33	秩父に戻らない・戻れないと思う理由に関わる要素（複数選択） ※戻る意向がない方のみ	秩父に戻らない・戻れないと思う理由に関わる要素についてあてはまるものをすべて選んでください（複数選択可） この条件が悪いから絶対に戻らない・戻れないというものをすべて選択してください	住宅の広さ、家賃・土地の安さなどの住宅事情 買い物など生活の利便性 業種・職種など仕事の選択肢 収入・賃金の高さ 文化・娯楽施設 都市部への交通利便性 地域内の公共交通 公共施設（図書館・公園など） 医療・介護に関わる環境・行政サービス 子育てに関わる環境・行政サービス 学校 自然環境 災害・治安 地域行事（お祭り、自治会活動など） 近隣住民との関係 ジェンダーに関わる価値規範 同世代のコミュニティ 世代間のつながり 多様性の許容 その他（具体的に記入）
34	これが解決しないと秩父に戻れないだろうという課題（自由記述回答）	これが解決しないと秩父に戻れないだろうという課題や、問題と覚えることがあれば教えてください ない場合は「ない」とご回答ください	自由記述回答
35	秩父市を離れた後、秩父の情報やコミュニティに接する機会	秩父市を離れた後、秩父の情報やコミュニティに接する機会がどのぐらいありますか？ 以下からあてはまるものをすべて選んでください（複数選択可）	年1～2回程度帰っている 年3～4回程度帰っている 年5回以上帰っている 同窓会の会報が届く 秩父市公式のSNS・LINEをフォローしている 秩父市に関するニュースなどの情報収集をしている 秩父市の企業などのSNSをフォローしている 秩父市に関連のあるインフルエンサーのSNSをフォローしている 情報やコミュニティに接する機会はない その他（自由記述）
36	普段どのような媒体で情報収集しているか	あなたは普段どのような媒体から情報を得ていますか。日常的に利用しているものをすべて選択してください ※「特に情報を求めていなくても日常的に見る媒体」も含んでお答えください。 あてはまるものをすべて選択してください	新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト 総合的なニュースサイト・ニュースアプリ 企業や公的機関のウェブサイトや公式アカウント LINE X Instagram TikTok Youtube Facebook 個人のブログやウェブサイト TV番組（Tiverなど配信を含む） 雑誌・新聞など紙媒体 その他（具体的に記入）

セクション 4-1 お仕事など、雇用に関することについて

秩父市は人口減少に対し、若者の雇用や収入の改善が大きな課題であると考えております。今後の施策の参考とするため、皆様の雇用や収入についての状況をお伺いさせていただきます。 ※休職中（産休・育休含む）の方は、お休みに入る前の雇用状況について教えてください。

設問	設問概要	設問・設問文	回答選択肢
37	現在の職業	あなたの現在の職業として、あてはまるものを1つ選んでください ※副業・兼業をされている方は主となる職業を回答してください 例：学生でアルバイトをしている→学生と回答してください	正社員・正職員 契約・派遣社員・非常勤・臨時職員・期間従業員 パート・アルバイト 学生 会社経営・役員 自営業・フリーランス・個人事業主 家族従事・内職 専業主婦・主夫 無職 その他（具体的に記入）
38	現在の業種	あなたの現在の業種として、あてはまるものを1つ選んでください 複数要素がある場合は主となる要素を選択してください。 例：市立病院などで公務員として看護師をしている→医療を選択してください	農林漁業 鉱業 建設業 製造業 電気・ガス・熱供給・水道業 情報通信業 運輸・郵便業 卸売・小売業 金融・保険業 不動産業 医療・福祉 教育・学習支援業 宿泊業、飲食サービス業 サービス業 公務 その他（具体的に記入）
39	現在の職種	あなたの現在の職種として、あてはまるものを1つ選んでください 複数要素があるお仕事の場合は、主となる要素の職種を1つだけ選択してください 例：専門・技術部門で管理職をしている→管理職とご回答ください	管理職 専門・技術職 サービス職 事務職 販売職 営業職 保安・警備職 農林漁業関連職 輸送・機会運転関連職 生産工程・労務職 その他（具体的に記入）
40	今後の就労意向の有無 ※無職・専業主婦/専業主夫と回答した方のみ	今後働く予定はありますか	働く予定がある 働く予定はない その他（具体的に記入）
41	現在の職場までの通勤時間	現在の職場までの通勤時間（ドア to ドア）について教えてください。 在宅勤務と通勤のどちらもある方は、通勤の場合のお時間をお答えください	30分未満 30～60分未満 60～90分未満 90～120分未満 120分以上
42	在宅勤務・リモートワークの頻度	あなたは日頃の程度在宅勤務・リモートワークをしていますか？あてはまるものを1つ選択してください。 所属する事業所に出社せず、自宅やワーキングスペースなどにて遠隔で働いている頻度について、あてはまるものを1つだけ選択してください 週によって状況が異なるような場合は、月平均としてお答えください。	全くしない（できない） ほぼ毎日している 週2～3日している 週1～2日している 月に1～2回程度 年に数回程度

設問	設問概要	設問・設問文	回答選択肢
43	職場の所在地（都道府県）	現在働いている職場の所在地を教えてください 職場の所在する場所を、都道府県単位、またはその他（海外）からお選びください ※フルリモートの方は、所属している部署または会社本部の所在地をご回答ください	47 都道府県 その他（海外）
44	年収（額面）	あなたの年収（額面）について教えてください	0 円 1 円～100 万円以下 101～200 万円 201～300 万円 301～400 万円 401～500 万円 501～600 万円 601～700 万円 701～800 万円 801～900 万円 901～1000 万円 1001 万円以上
45	配偶者の方の年収（額面） ※配偶者ありと回答した方のみ	配偶者の方の年収（額面）について教えてください	0 円 1 円～100 万円以下 101～200 万円 201～300 万円 301～400 万円 401～500 万円 501～600 万円 601～700 万円 701～800 万円 801～900 万円 901～1000 万円 1001 万円以上 わからない

セクション 4-2 お仕事など、雇用に関することについて
 あなたが今のお仕事を選ぶにあたって、各項目をどのぐらい重視したかについて教えてください
 現在働いていらっしゃらない方は、働き先を選ぶとしたら重視する項目をご回答ください

設問	設問概要	設問・設問文	回答選択肢
46	今の仕事を選ぶにあたり各項目をどのぐらい重視したか 雇用形態	1-1：雇用形態 あてはまるものを1つだけ選択してください	正社員であることを重視 契約・派遣職員、パートなどであることを重視 雇用形態はどちらでもよい 自営業・フリーランス・事業主・経営者であることを重視
47	なぜ自営業・フリーランス・事業主・経営者であることを重視するか ※雇用形態で自営業・フリーランスを選択した方のみ	なぜ自営業・フリーランス・事業主・経営者であることを重視するか教えてください	自由記述回答
48	今の仕事を選ぶにあたり各項目をどのぐらい重視したか 仕事の内容（業種・営業などの職種）	1-2：仕事の内容（業種・営業などの職種） あてはまるものを1つだけ選択してください	絶対条件 他の条件がよければ我慢・妥協 もともと関心がない
49	今の仕事を選ぶにあたり各項目をどのぐらい重視したか 給与・年収の高さ	1-3：給与・年収の高さ あてはまるものを1つだけ選択してください	絶対条件 他の条件がよければ我慢・妥協 もともと関心がない
50	今の仕事を選ぶにあたり各項目をどのぐらい重視したか 仕事のやりがい（やりたい事・キャリアプランが実現できそうか）	1-4：仕事のやりがい（やりたい事・キャリアプランが実現できそうか） あてはまるものを1つだけ選択してください	絶対条件 他の条件がよければ我慢・妥協 もともと関心がない

設問	設問概要	設問・設問文	回答選択肢
51	今の仕事を選ぶにあたり各項目をどのくらい重視したか 仕事をする上での立場、扱いに男女差がなさそうか	1-5：仕事をする上での立場、扱いに男女差がなさそうか あてはまるものを1つだけ選択してください	絶対条件 他の条件がよければ我慢・妥協もともと関心がない
52	今の仕事を選ぶにあたり各項目をどのくらい重視したか 会社の規模が大きい・従業員数が多い ※雇用されている方のみ	2-1：会社の規模が大きい・従業員数が多い あてはまるものを1つだけ選択してください	絶対条件 他の条件がよければ我慢・妥協もともと関心がない
53	今の仕事を選ぶにあたり各項目をどのくらい重視したか 年間休日や福利厚生が充実 ※雇用されている方のみ	2-2：年間休日や福利厚生が充実 あてはまるものを1つだけ選択してください	絶対条件 他の条件がよければ我慢・妥協もともと関心がない
54	今の仕事を選ぶにあたり各項目をどのくらい重視したか 通勤時間の短さ ※雇用されている方のみ	2-3：通勤時間の短さ あてはまるものを1つだけ選択してください	絶対条件 他の条件がよければ我慢・妥協もともと関心がない
55	今の仕事を選ぶにあたり各項目をどのくらい重視したか 安定した会社であること ※雇用されている方のみ	2-4：安定した会社であること 安定：社員の定着率が高い、経済不況などに影響されなさそう 経営基盤や業績が安定している、仕事量に無理がなさそう、など あてはまるものを1つだけ選択してください	絶対条件 他の条件がよければ我慢・妥協もともと関心がない
56	初めての就職先を選ぶ際に誰かから影響を受けたか（複数選択）	2：その他 初めての就職先を選ぶ際に誰かから影響を受けましたか。 あてはまるものをすべて選んでください	親 きょうだい その他親族 友人・知人 先生など学校関係者 就活関連サイト・SNSなどで発信されている不特定多数の意見 誰からも影響を受けていない その他（具体的に記入）
57	その他仕事を選ぶにあたって重視する項目・要素（自由記述回答）	その他、あなたがお仕事を選ぶにあたって重視する項目・要素があれば教えてください。	自由記述回答
58	初めて仕事に就いた時の居住地（都道府県）	最後の学校を卒業または中退後、初めて仕事に就いた時のあなたの居住地について教えてください (1) 都道府県	今まで働いたことがない 47 都道府県 その他（海外）
59	初めて仕事に就いた時の居住地（市町村）	最後の学校を卒業または中退後、初めて仕事に就いた時のあなたの居住地について教えてください (2) 市町村 例：秩父市、豊島区など	自由記述回答
60	初めて仕事に就くとき、秩父で暮らす・働くことを検討したか	最後の学校を卒業または中退後、初めて仕事に就くとき、秩父で暮らすことを検討しましたか？ あてはまるものを1つだけ選択してください	検討し、秩父市で暮らし秩父市で働いた 検討し、秩父市で暮らし市外で働いた 検討したが、秩父で暮らさず市外で働いた 検討しなかった
61	初めて仕事に就くとき、秩父で暮らす・働くことを検討した理由（自由記述回答）	その理由を教えてください	自由記述回答
62	秩父市で働くことについてのイメージ（自由記述回答）	秩父市で働くことについて、どのようなイメージをお持ちですか。 また、秩父市の企業を働き先として検討すると仮定した場合、現時点で秩父市の企業に対して持っているイメージがあれば教えてください。	自由記述回答

セクション5 考え方について

結婚などに関するあなたのお考えについてお伺いします。

次に示す考え方について、あなたはどのように思いますか。感覚として最も近いものを1つ選択してください。

調査結果は市の雇用対策などにも活用します。

※設問では賛成・反対の立場がとりやすいように断定的な表現を用いています。

また示している考え方はあくまでサンプルであり、必ずしも一般的ではない考え方も含まれています。

設問	設問概要	設問・設問文	回答選択肢
63	考え方について 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1:結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ あなたの考えに最も近いものを1つだけ選択してください	賛成 どちらかといえば賛成 どちらかといえば反対 反対
64	考え方について 結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ	2:結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ あなたの考えに最も近いものを1つだけ選択してください	賛成 どちらかといえば賛成 どちらかといえば反対 反対
65	考え方について 少なくとも子供が小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	3:少なくとも子供が小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい あなたの考えに最も近いものを1つだけ選択してください	賛成 どちらかといえば賛成 どちらかといえば反対 反対
66	考え方について 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのはやむを得ない	4:結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのはやむを得ない あなたの考えに最も近いものを1つだけ選択してください	賛成 どちらかといえば賛成 どちらかといえば反対 反対
67	インタビューにご協力いただけるか	インタビューにご協力いただける方はメールアドレスを教えてください。 秩父市では雇用や人口減少問題に対し、転出された方・若い方のご意見をより明確に聞き取るため、匿名でのインタビューにご協力いただける方を募集しています。 インタビューは本調査にご協力いただいている長野大学の奥田先生がオンライン等で行い、奥田先生が聞き取った内容については匿名かつ個人が特定できないよう加工されてから市に共有されます。 インタビューにご回答いただける方はメールアドレスをご回答いただけますようお願いいたします。	自由記述回答
68	最後に秩父市へ伝えたいこと・ご意見・ご感想（自由記述回答）	最後に秩父市へ伝えたいことやアンケートの設問などについてご意見・ご感想があればご自由にご記入ください 回答をお約束するものではありません。ご了承ください	自由記述回答